

解題・凶版

秋の夜長物語 版本 一帙一冊

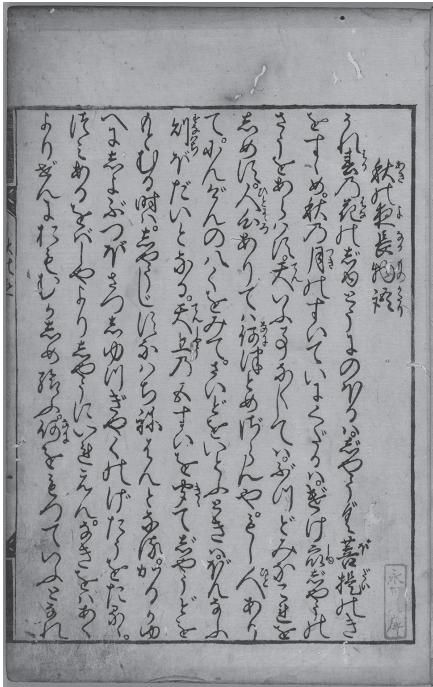
三F a ろ 63

○寛永一九年刊。紺色無地表紙。四針袋綴装。縦二七・四糎×横一八・三糎。単匡郭、縦二二・六糎×横一六・〇糎。全二八丁、遊紙なし。料紙、楮紙。

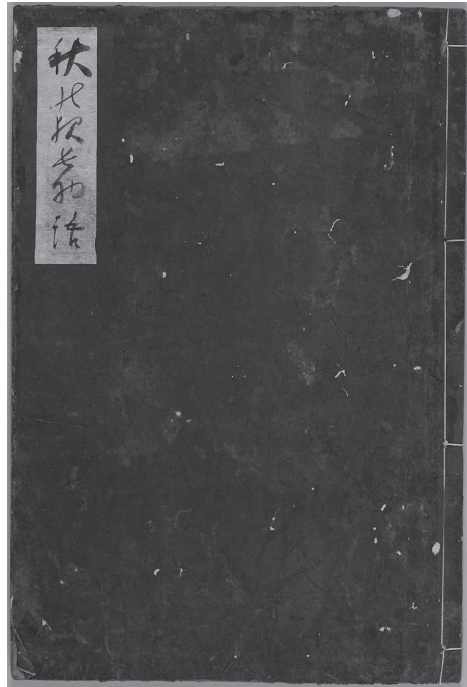
○外題、表紙左に後補の書題簽「秋の夜長物語」。題簽寸法、縦九・六糎×横二・五糎。内題、「秋の夜長物語^{あきよなかものかたり}」。尾題、「秋の夜長物語」。

○序跋等、なし。刊記、「寛永十九年□月日 安田十兵衛」。□は虫損であるが、筑波大学附属図書館蔵の寛永一九年版のホームページ公開画像などによれば「五」か。

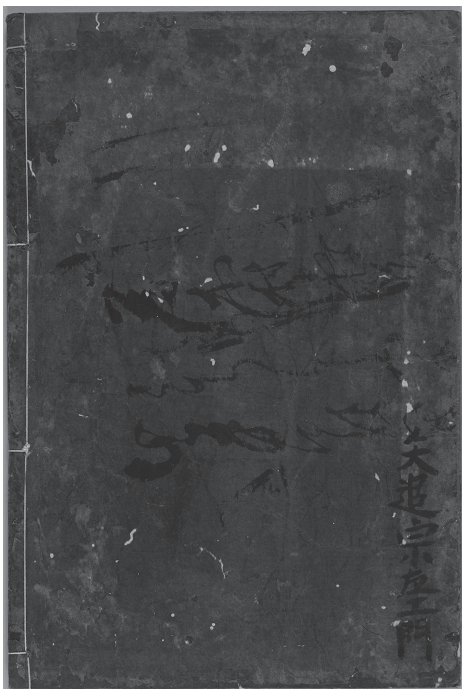
○印記、冊初に長方陽刻朱印「永田文庫」。永田有翠の印記。寸法、縦三・〇糎×横〇・九糎。挿絵なし。参考文献、平沢五郎「秋乃夜長物語―伝本解題並びに飜印四種―」「秋乃夜長物語(統)―伝本解題並びに飜印三種―」「秋夜長物語攷」(『斯道文庫論集』1、3、一九六二―一九六四年)。



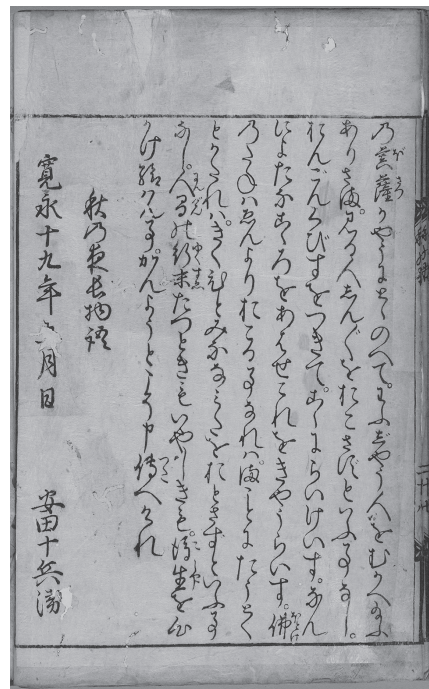
第1丁オモテ



表紙



裏表紙



刊記

十六夜日記残月鈔 版本 一帙三冊

Ⅶ 2 E 3

○文政四年九月序（高田與清）。白色布目地表紙。五針袋綴装。縦二六・一糎×横一八・四糎。単匡郭、縦二二・二糎×横一六・五糎。第一冊四〇丁、第二冊二三丁、第三冊三五丁。遊紙なし。料紙、楮紙。

○外題、原題簽、表紙左肩に単匡郭のある赤い題簽紙を用いて「十六夜日記残月鈔 一（二・三）」。内題、第一冊見返しに赤い料紙を用いて「松屋高田大人一二之卷／櫻室北條時鄰大人三之卷／注釋／十六夜日記残月鈔三冊／京都書肆 出雲寺梓行」。尾題、なし。版心、第一冊「残月抄序 一（〜三・六〜九）」、「残月抄例言 一（〜八）」、「残月抄一 一（〜廿五了）」、第二冊「残月抄二 一（〜廿三了）」、第三冊「残月抄三 一（〜廿一終）」、「残月抄跋 一（〜四）」。

○序、「文政紀元南至後二日／式部大輔菅原長親」序、賀茂季鷹序、「文政四といふとしのすゑの姪知非齋のあるし高田與清」序。北條時鄰例言。跋、「むそちのおきなみなもとのひろかた」跋、「花水庵主春登／下總佐原／永深久香書」跋。刊記、なし。

○印記、長方陽刻朱印「布志の屋所藏」。円型陽刻朱印「師岡」。師岡正胤旧藏書。挿絵七図あり。第二冊と第三冊の裏見返しに「和歌書出版發賣所 京都三條通高倉東入〈書林／松栢／堂〉出雲寺文次郎」の「香川景樹大人著述書目」、「八田大人歌集」「八田大人著述」の目録あり（二冊同内容）。

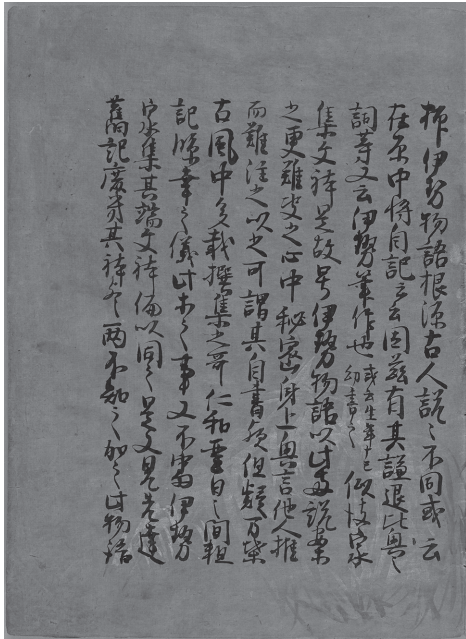
○江戸初期写。本文共紙表紙（無地に銀で葎杜若下絵入斐紙）。四針列帖装。縦二四・二糎×横一八・〇糎。前遊紙一丁、墨付七七丁、本文と略伝との間、一丁遊紙あり。後遊紙なし。半丁一〇行書。料紙、色替わり斐紙、銀で草花木鳥雲富士橋網代など下絵入り。

○外題、「伊勢物語」（後補題簽、左肩）、題簽の左下部に「戸部尚書ノ奥書アリ」と同筆で記す。また、「伊勢物語 全」と記した金砂子の新しい題箋一片が挟み込まれている。内題、なし。尾題、なし。

○序、なし。奥書、「天福二年正月廿日己未 凌桑門之盲目連日風雪之中遂此書寫為授鍾愛之孫女也。／同廿二日校之。」本云以京極黃門定家卿自筆兩本校合訖以黃門筆不違一字書寫之本又同摸之者也」抑伊勢物語根源古人説々不同或云在原中将自記云々因茲有其謙退比興之詞等

又云伊勢筆作也（或云生年十三／幼書之）似他家集文牀是故号伊勢物語以此兩説案之更難決之心中秘密身上興言他人推而難注之以之可謂其自書歟但疑万葉古風中多載撰集之哥仁和聖日之間粗記臨幸之儀此等之事又不審伊勢家集其端文牀偏以同之是又見先達旧記庶幾其歟而不知加之此物語名字非彼筆者何称伊勢乎或説云為狩使下向伊勢仍有此名字其説又難信始則載南京春日之詞次注西对夜月之思富士山之雪武蔵野之煙凡非伊勢国之事多以為此物語之肝心仍兩説共有不審古事只仰而可信又或説云後人以狩使事改為此草子之端為叶伊勢物語之道理也件本狼藉奇恠者也伊行所為也不用之／先年所書之本為人被借失仍為備証本重所校合也／戸部尚書」近代以狩使事為端之本出来末代之人今案也更不可用之／此物語古人之説不同或称在中将之自書或称伊勢之筆作彼此有書落事等上古之人強不可尋其作者只可翫詞花言葉而已／戸部尚書」右兩本奥書追書加之畢。

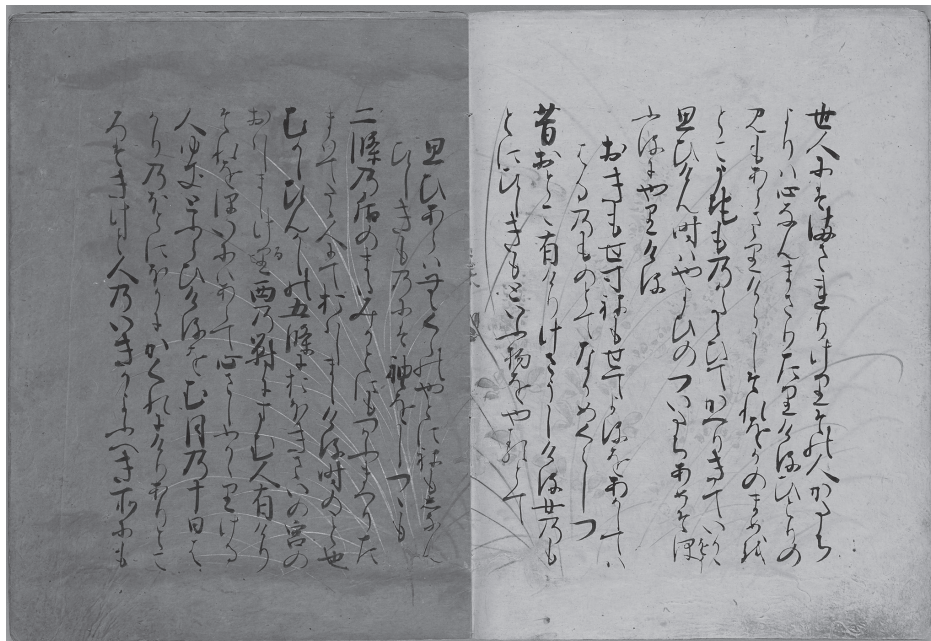
○印記、なし。人物伝、「なぞへなく」「みやひ」ほか勘記あり。四段「おはしましけり」の「り」をミセケチで「る」と訂正する。二六段「おもほえず袖にみなとのさはく哉」の「みなと」の横に「一本、なみた」、「哉」の横に「らし」。六九段「かきくらす心のやみにまとひにきゆめうつ、とはこよひさためよ」の「こよひ」の横に「一説、よひと」。七四段「いはねふみかさなる山はへたてねとあはぬ日おほくこひわたるかな」の「はへたてねと」の横に「にあらねとも」。九〇段「桜華けふこそかくはにほふらめあなたのみかたあすの夜のこと」の「らめ」の横に「とも」。九四段「秋の夜は春ひわする、物なれや」の段の冒頭「むかしおとこ〇有けり」の横に「女イ」。九九段「昔右近の馬場のひをりの日むまはにたてたりける」の「むまは」の「まは」の横に「かひ」。一二四段「思事いはて〇た、にやみぬへき」の横に「そ」。



戸部尚書奥書冒頭



表紙



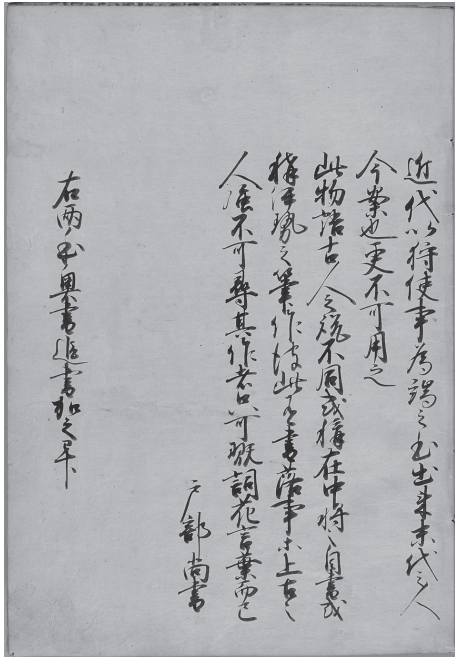
本文

○江戸初期写。花繋ぎ文錦緞子表紙。四針列帖装。見返し、鳥の子料紙に金銀砂子。縦二六・五糎×横一八・六糎。前遊紙一丁、本文墨付七六丁、本文と略伝との間、一丁遊紙あり。後遊紙六丁。半丁九行書。料紙、鳥の子料紙。

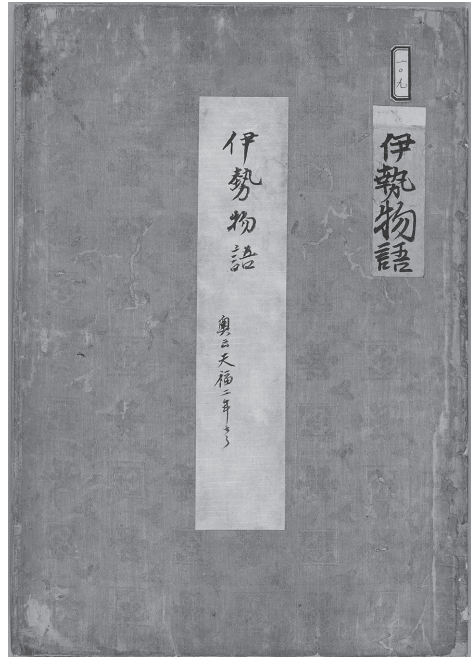
○外題、「伊勢物語」（後補題簽）。題簽の左下部に「奥云天福二年云々」と記す。表紙右上にも、「伊勢物語」と記した小紙片を貼る。内題、なし。尾題、なし。

○序、なし。奥書、「天福二年正月廿日七本中題凌桑門之盲目連日風雪之中遂此書寫為授鍾愛之孫女也。／同廿二日校之」抑伊勢物語根源古人説々不同或云在原中将自記云々因茲有其謙退比興之詞等又云伊勢筆作也（或云生年十三幼書之）似彼家集文躰是故号伊勢物語以此両説案之更難決之心中秘密身上興言他人推而難注之以之可謂其自書歟但疑万葉古風中多載撰集之歌仁和聖日之間粗説臨幸之儀此等之事又不審伊勢家集其端文躰偏以同之是又見先達旧記庶幾其躰歟而不知之加之此物語名字非彼筆者何称伊勢乎或説云為狩使下向伊勢仍有此名字其説又難信始則載南京春日之詞次注西对夜月之思富士山之雪武藏野之煙凡非伊勢国事多以為此物語之肝心依両説共有不審古事只仰而可信又或説云後人以狩使事改為此草子之端為叶伊勢物語之道理也件本狼藉奇恠者也伊行所為也不用之／先年所書之本為人被借失仍為備証本重所校合也／戸部尚書有補「近代以狩使事為端之本出来末代之人今案也更不可用之／此物語古人之説不同或称在中将之自書或称伊勢之筆作彼此有書落事等上古之人強不可尋其作者只可翫詞花言葉而已／戸部尚書」右両本奥書追書加之畢」。

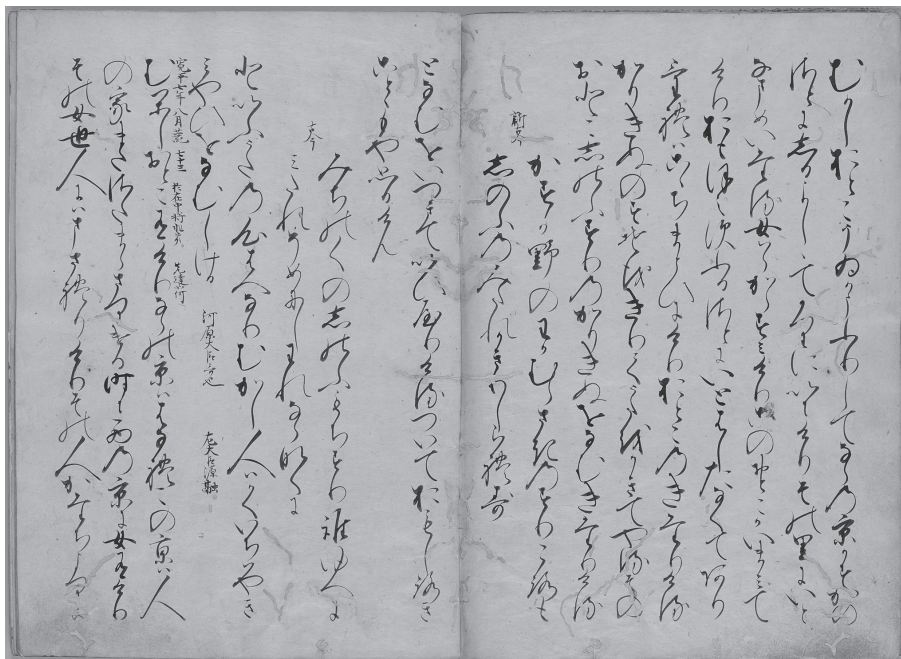
○印記なし。人物伝、「なそへなく」「みやひ」ほか勘記あり。和歌に集付・作者名を記す。登場人物の略歴など右傍に小さく書入あり。



戸部尚書與書



表紙



本文

伊勢物語 写本 一冊

三F a い 16

○貞享二年一月写。薄黄色地に青楨の葉文様鳥の子表紙。四針列帖装。縦一六・七糎×横一八・四糎。前遊紙なし、墨付七二丁。本文と略伝との間に、一丁遊紙あり。後遊紙なし。料紙、鳥の子。

○外題、「伊勢物語 全」(後補題簽)。内題、なし。尾題、なし。

○序、なし。奥書、「貞享乙丑霜月晦於武江書之畢／水野葺」。「水野葺」部分は別筆か。

○印記、なし。人物伝、「なそへなく」「みやひ」ほか勘記、ともになし。和歌二首にのみ集付あり。校異の書入れなし。

伊勢物語 写本 一冊

三Faい36 (三Faい36、37、38が同帙)

○元禄一一年書写。金茶雲宝珠文金欄表紙。見返し、絹地金砂子。四針列帖装。縦二四・三糎×横一八・〇糎。前遊紙一丁、本文六八丁、後遊紙二丁。料紙、鳥の子。

○外題、「伊勢物語」(金砂子雲に金で杜若絵入絹題簽、原題簽、中央、本文・識語筆者とは別筆)。内題、なし。尾題、なし。

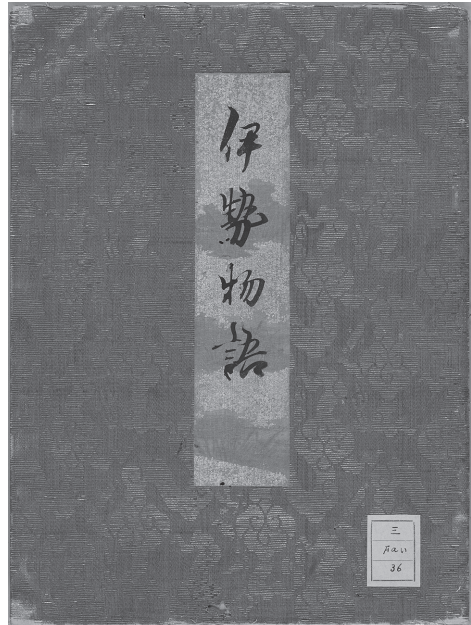
○序、なし。識語、「元禄十一年仲春下旬／前大納言源(花押)」。

○印記、「英王堂藏書」(長方陽刻朱印)。バジル・ホール・チェンバレン旧藏書。二丁表に、住吉社頭の奈良絵一図が貼付されている。

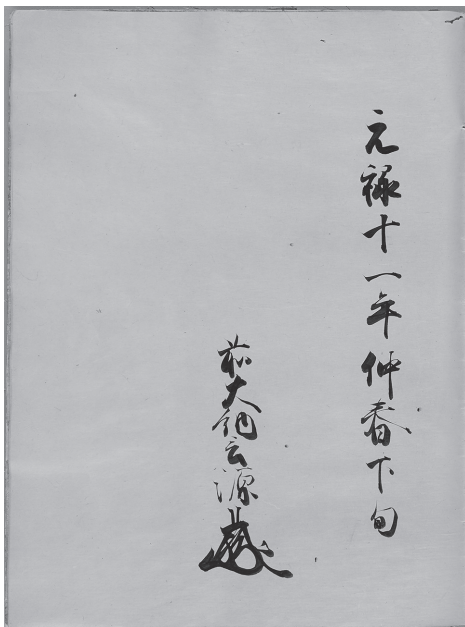
本文のみ。奥書なし。



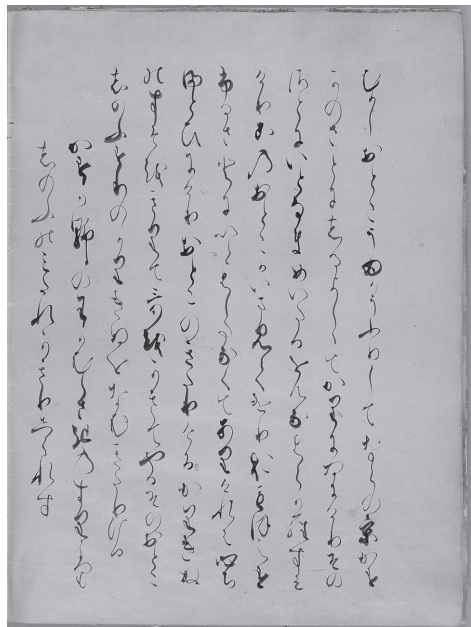
挿絵



表紙



識語



本文

伊勢物語秘本 写本 一冊

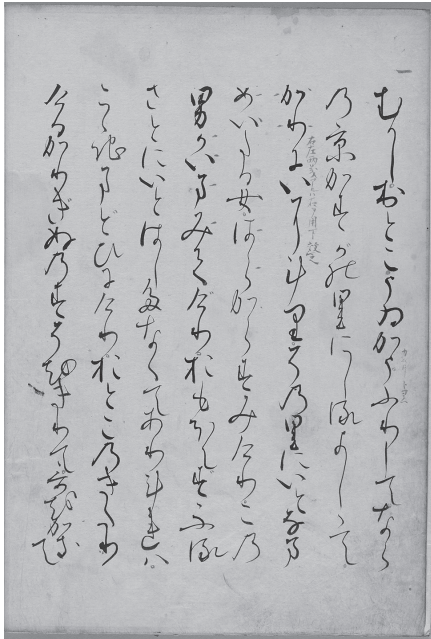
三F a い 15

○宝永三年写。白色布目地に胡粉で鳳凰雲文様に蓬色杉葉刷文様紙表紙。四針袋綴装。見返し、本文共紙楮紙。縦二六・九糎×横一九・六糎。前遊紙一丁、墨付九九丁、後遊紙一丁。半丁八行書。料紙、斐楮交漉薄様。

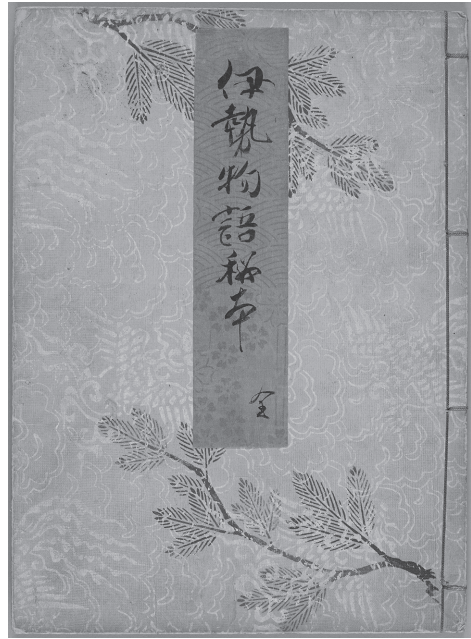
○外題、「伊勢物語秘本 全」(浅葱色絹に金で青海波花文様原題簽、中央)。内題、なし。尾題、なし。

○序、なし。奥書、「右伊勢物語上下俱合巻一冊者大藏卿二位法印玄旨追遊軒明心居士狭々野屋翁広沢隠士長孝居士的々相承之読曲清濁句頭也於此道雖為無上至極之秘訣年来感厚心篤美以今令付与之畢如誓盟全不可有他見漏脱者乎／六諭居士長雅／時／宝永三丙戌天如月吉辰 六諭(花押)／主井氏女雅子御方」。

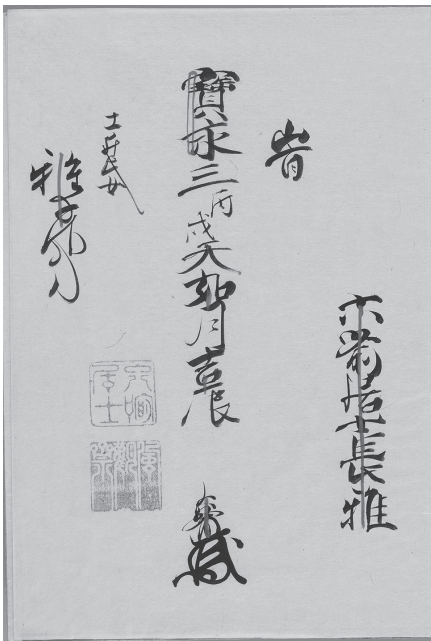
○印記、奥書関防印長方陰刻朱印。奥書花押の左上落款「六諭居士」(方形陽刻朱印)、「風觀齋」(方形陰刻朱印)。奥書は平間長雅筆。朱筆書入も長雅筆か。朱筆により、章段番号を記し、句読、清濁、読みぐせ、声点を記す。異本注記もあり。人物伝、「なぞへなく」「みやひ」ほか勘記、ともになし。



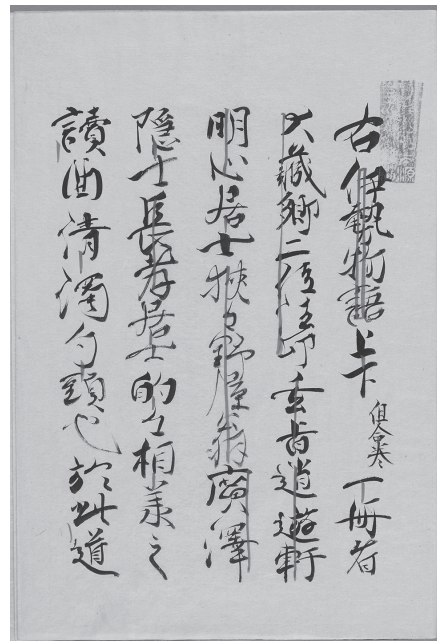
本文



表紙



奥書末



奥書冒頭・印記

伊勢物語 写本 一冊

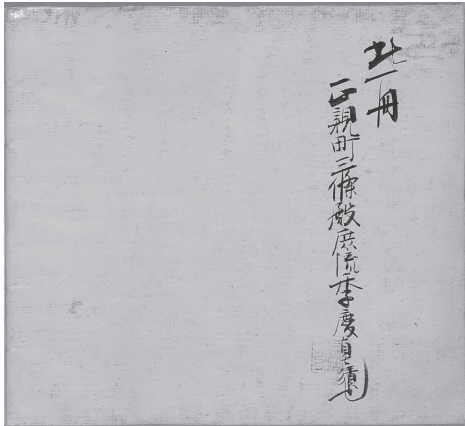
三Faい37 (三Faい36、37、38が同帙)

○江戸中期写。浅葱地に金で蜀江錦文金欄表紙。見返し、布目地金砂子。四針列帖装。縦一六・四糎×横一八・一糎。前遊紙一丁、本文七三丁、第三〇丁と第三二～三五丁は遊紙。後遊紙なし。料紙、斐紙。

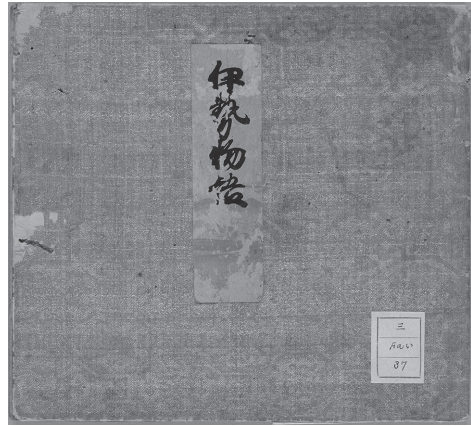
○外題、「伊勢物語」(金霞題簽、原題簽)。内題、なし。尾題、なし。

○序、なし。識語、「藤原喬任」(第三〇丁に名前のみ記す)。「藤原季慶」(第七八丁に署名のみ)。第七九丁(卷末)に「此一冊／正親町三条殿庶流季慶真蹟也(極印)」の極め書きあり。奥書なし。

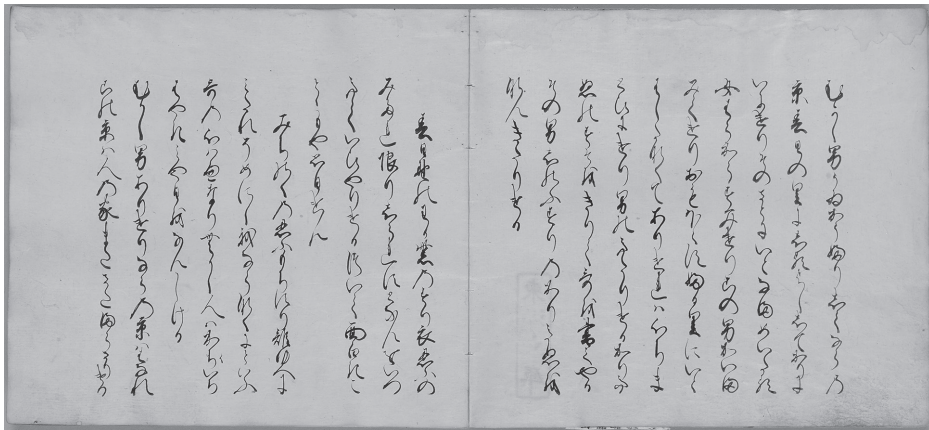
○印記、「英王堂藏書」(長方陽刻朱印、第二丁表右隅)。バジル・ホール・チェンバレン旧藏書。「いまぞしるくるしき物とひとまたん」までが喬任の書写。「うらわかみねよげ」から最後までが季慶の書写。



極め書き



表紙



本文

伊勢物語 写本 一冊

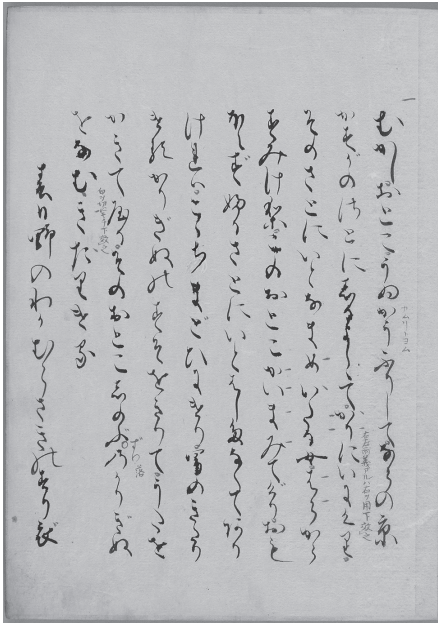
三Faい15

○江戸中期写。薄縹色雷文繋ぎ地に牡丹唐草文様鳥の子表紙。見返し、本文共紙。四針袋綴装。縦二六・八糎×横二〇・〇糎。前遊紙一丁、本文六九丁、後遊紙なし。料紙、楮紙。

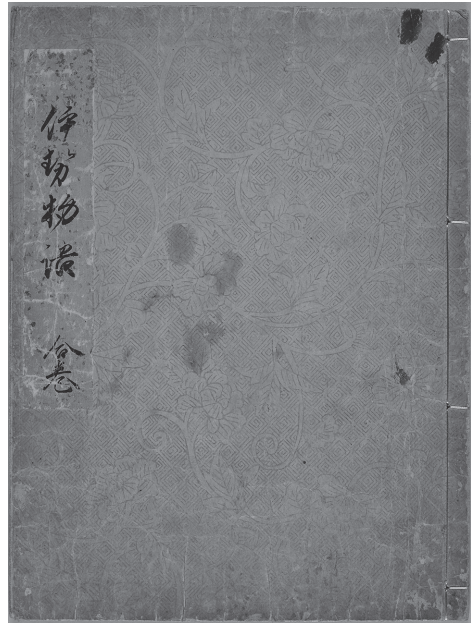
○外題、「伊勢物語 合卷」（金銀砂子後補題簽、左肩）。内題、なし。尾題、なし。

○序、なし。奥書、「近代以狩使事為端之本出来末代之人今案也更不可用之／此物語古人之説不同或云在中将之自書或称伊勢之筆作就彼此有書落事等上古之人強不可尋其作者只可翫詞花言葉而已」「宝永第五戊子臘月十二日写功畢／津田祐真六十四歳／筆之」「右伊勢物語上下合卷一冊者大藏卿二位法印玄旨道遊軒明心居士狭々野屋翁長孝的々相承之讀曲清濁句読也於此道無上至極之秘訣階梯奈如之哉今広沢隠士之以本不違毫釐書誌納函底密置處也／寛文六年霜月廿日 風觀窓長雅^判」

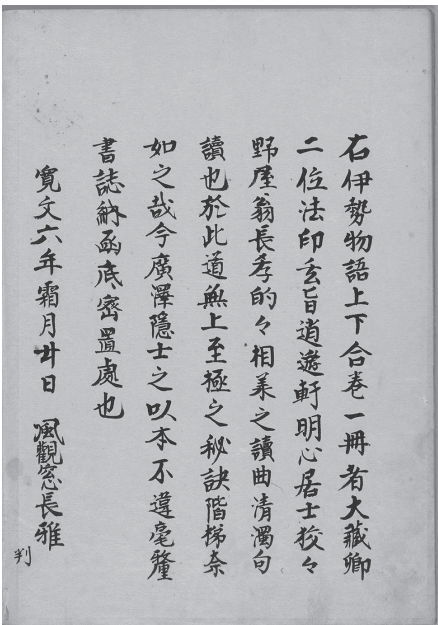
○印記、なし。作者伝、「なそへなく」「みやひ」などの勘記なし。朱筆により、章段番号を記し、句読、清濁、読みぐせ、声点を記す。異本注記もあり。



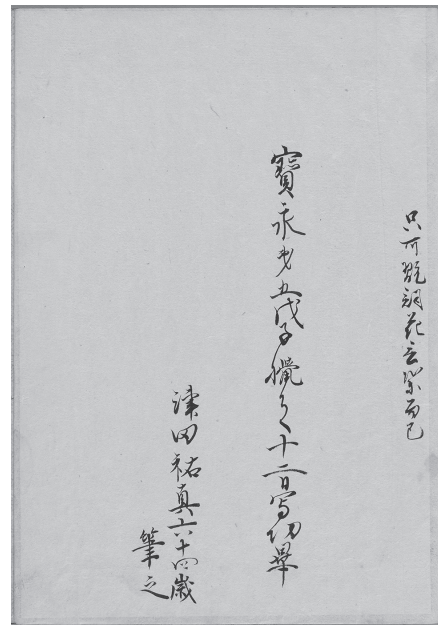
本文



表紙



風觀窓長雅與書



津田祐真與書

伊勢物語頭書抄 版本 一帙三冊

三F a い 34

○江戸前期刊。縹色紙表紙。四針袋綴装。縦二六・四糎×横一八・九糎。単匡郭（ただし、絵部分は双匡郭）、縦二三・四糎×横一七・一糎。前遊紙なし、本文、上冊二二丁、中冊一九丁、下冊九丁。後遊紙なし。料紙、楮紙。

○外題、原題簽（中央、子持廓題簽）、上冊「新板（角書）伊勢物語頭書抄 絵入／読曲（割書）上」、中冊「新板（角書）いせ物語頭書抄 絵入／よみくせ（割書）中」、下冊「新板（角書）い勢物語頭書抄 絵入／読曲（割書）下」。見返し題、上冊、「伊勢」と横書きに大書し、その二文字の間に「頭書」と記す。中冊は「伊勢」と横書きに大書し、その二文字の間に「首書」と記す。内題なし。尾題なし。版心、上冊「上 一（〜七、八ノ九、十〜廿三終）」。中冊「下 一（〜十九）」。下冊「下 二十（〜廿八終）」。

○巻初に「大意」として八項目、合わせて半丁分あり。奥書「定家卿奥書云」と小さく傍書して「近代以狩使事為端之本出来末代之人今案も不可用之此物語古人之説々不同或云在中将之自書或称伊勢筆作就彼此有書落事等上古之人強不可尋其作者只今翫詞花言葉而已／戸部尚書在判」。刊記、「伊勢物語板行世間に多しといへども文字のちがひ或はかなつかひにあやまりこれありて重宝にならざるゆへこと／くあらため世に此ものがたりの大意をしらしめんとよみくせを付首書に抄を加へ今板行者也。／三月吉日 絵師／菱川吉兵衛／松会開板」。

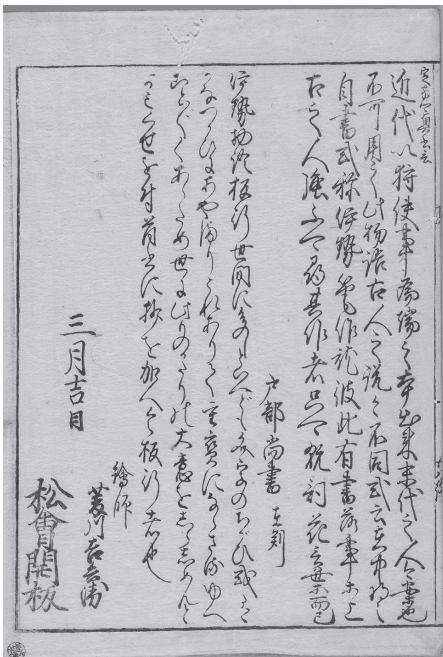
○印記、なし。



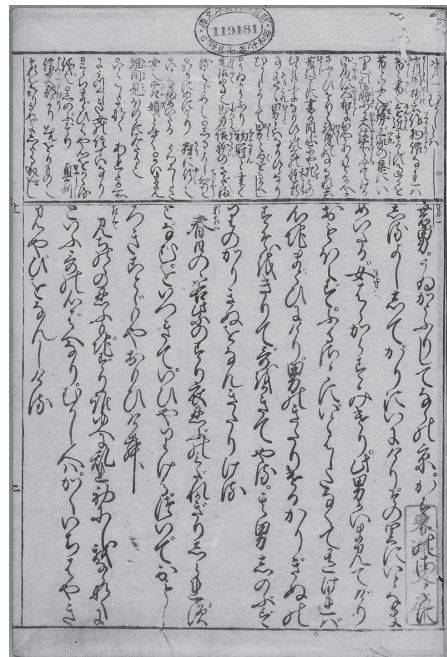
上册見返し



表紙



奥書・刊記



本文

いせ物かたり 句読 読曲 清濁 写本 一冊

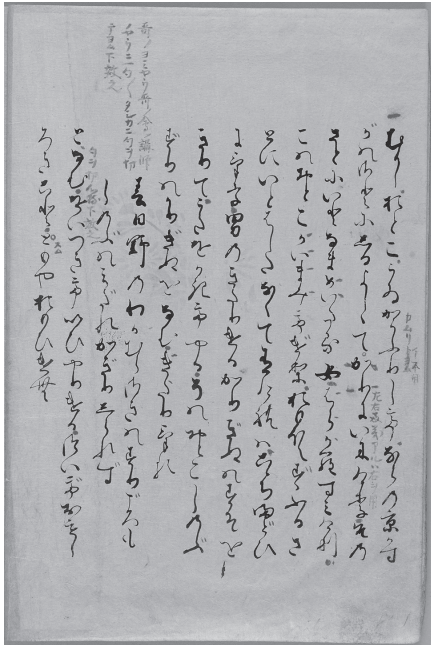
三Faい16

○江戸中期写。表紙、薄蓬色に銀で霞萩薄絵入紙表紙。四針袋綴装。縦二七・二糎×横一九・二糎。前遊紙なし、本文五六丁、後遊紙なし。料紙、色替わり交漉料紙。草花蝶等刷り絵入。

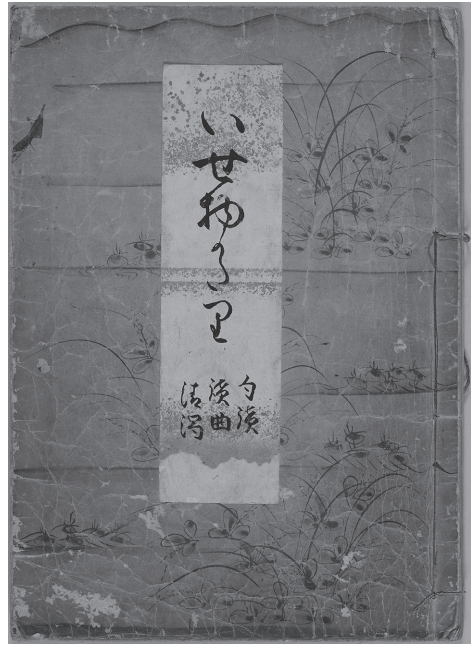
○外題、「いせ物かたり 句読／読曲／清濁（割書）」（原題簽、鳥の子に金砂子霞入題簽、中央、墨書）。内題なし。尾題なし。

○序跋等、なし。

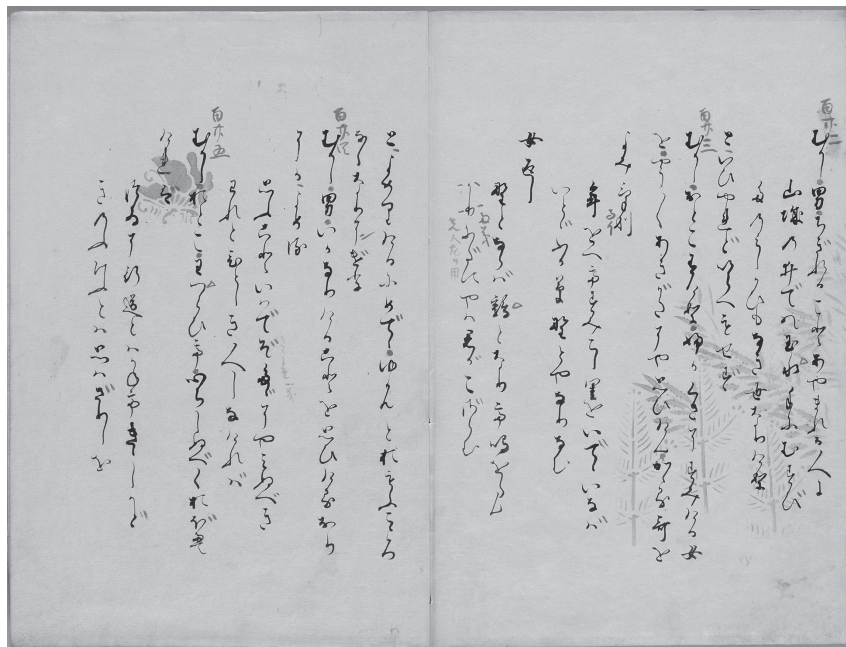
○印記、なし。朱筆により、章段番号、句読、読みぐせ、声点、清濁を書入れている。墨筆の書人も少々あり。



本文冒頭



表紙



草花蝶等刷り絵入本文

伊勢物語奥旨秘訣 写本 一卷（『源氏物語秘訣并狭衣秘訣』と同箱）

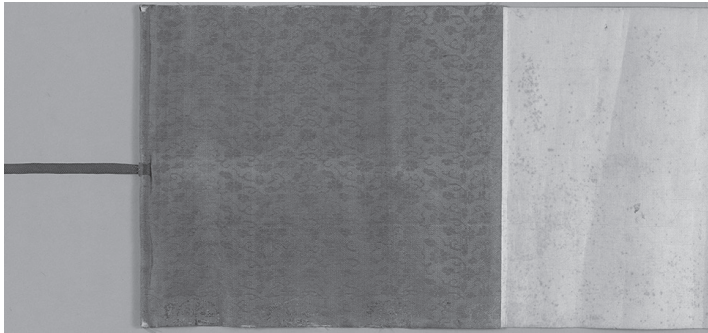
三F a i 17

○江戸中期写。表紙、薄茶色地蓬色で牡丹唐草文様表紙。見返し、布目地金銀切箔。卷子装。縦一八・〇糎×全長一〇七・二糎。料紙、布目楮紙打紙。

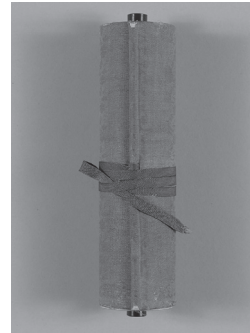
○外題、なし。内題、「伊勢物語奥旨秘訣」。尾題、なし。

○序、なし。奥書、「右、伊勢物語秘訣之条々七箇之大事者二条家之正説誠／秘中之秘也依年来之懇望／的伝之趣不相残授之訖／如誓盟容易不可漏脱者也／慶安元年八月十六日 長頭丸在判」「右伊勢物語之口訣之品相反々七箇之／大事者二条家之正説而従先師／明心居士伝受之趣也於此道依／為年来深切伝承之条数／不相残授之訖如誓盟納函底非／堪其器者猥不可有漏脱／寛文八戊申年 広沢隠士長孝／二月二十二日」。

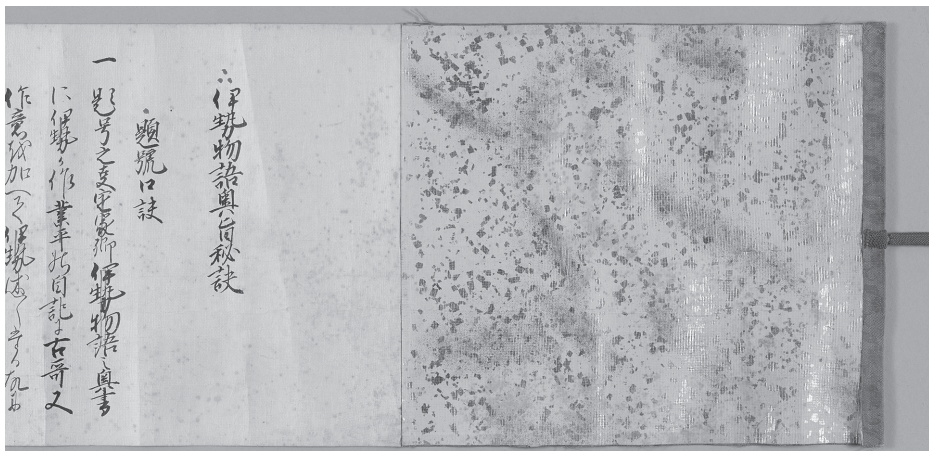
○印記、なし。各項目の「一、」の上に朱の○印などを記す。朱引きあり。「題号口訣」「読曲清濁」「一花堂読曲清濁」「極秘裏説条目口訣」「極秘七箇大事裏説口訣」を収める。



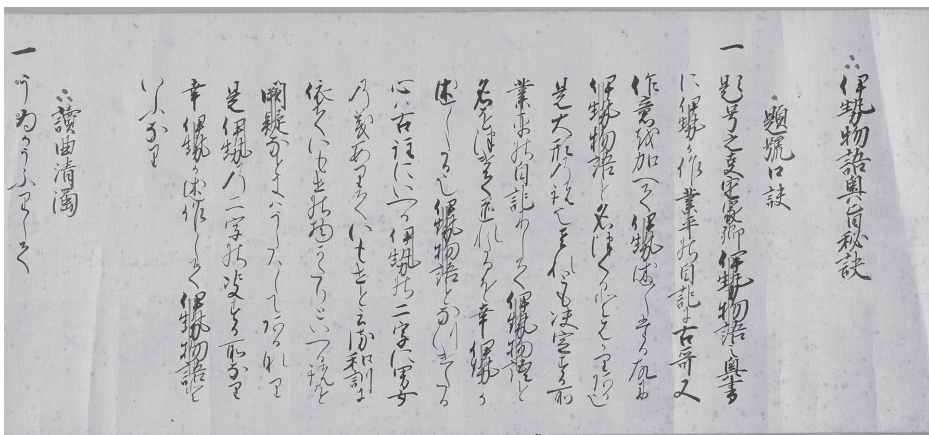
表紙



軸を巻いた状態



見返し・本文冒頭



本文

伊勢物語奥旨秘訣 写本 一冊

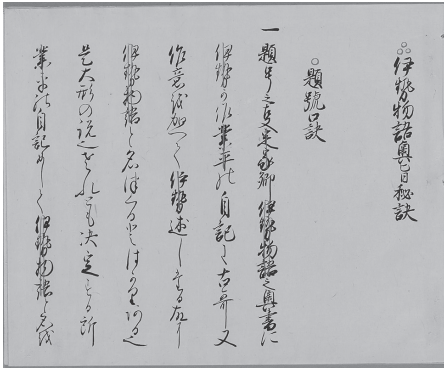
三F a い 16

○天明二年二月写。縹色布表紙。見返し、金砂子。三針袋綴装。縦一七・八糎×横二二・八糎。前遊紙一丁、本文二九丁、後遊紙一丁。料紙、間合紙。

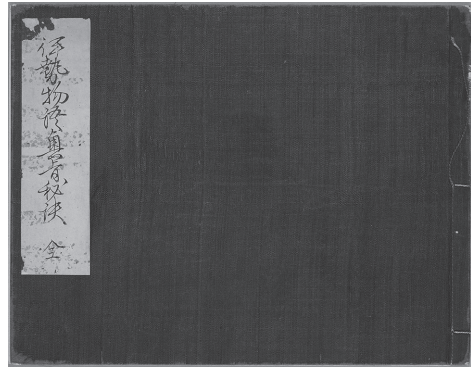
○外題、「伊勢物語奥旨秘訣 全」(原題簽、左肩、鳥の子に金砂子題簽、墨書)。内題、「伊勢物語奥旨秘訣」。尾題、なし。

○序、なし。奥書、「這一卷者二条家正統之伊勢物語奥旨秘訣也大藏郷^{トウ}二位法印玄旨道遊軒明心居士広沢隱士狭々野屋翁長孝風觀窓長雅居士世々相承雖為秘中秘於斯道感累年厚信篤実以令相伝訖如誓盟全不可有他見漏脱者也」以敬齋長伯／享保十一(丙／午)年三月十八日「右伊勢物語秘訣之条々七ヶ之大事者長伯如奥書二条家之奥旨正説而雖為秘中秘於此道積年感厚信篤実以令相伝訖如誓盟全不可有他見漏脱者也」生志齋長収(朱方印)／天明二年二月良辰／清水広居丈」。

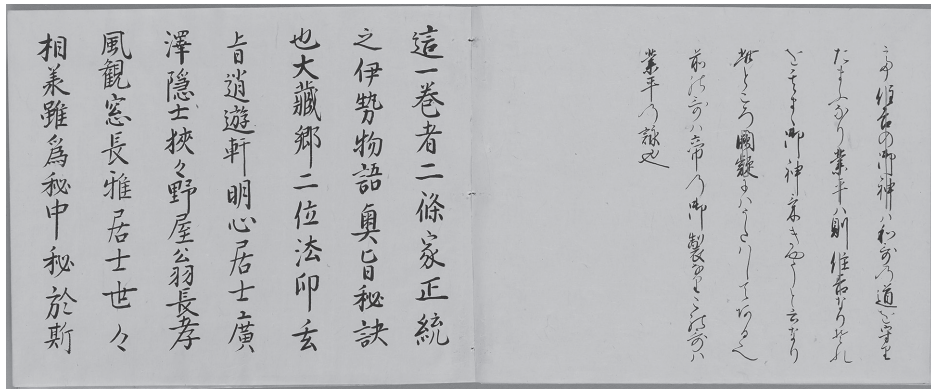
○印記、奥書「長収」の署名とともに、正方陽刻朱印「長収之印」。朱引き、読みくせ・清濁注記、庵点など、朱による書入れあり。



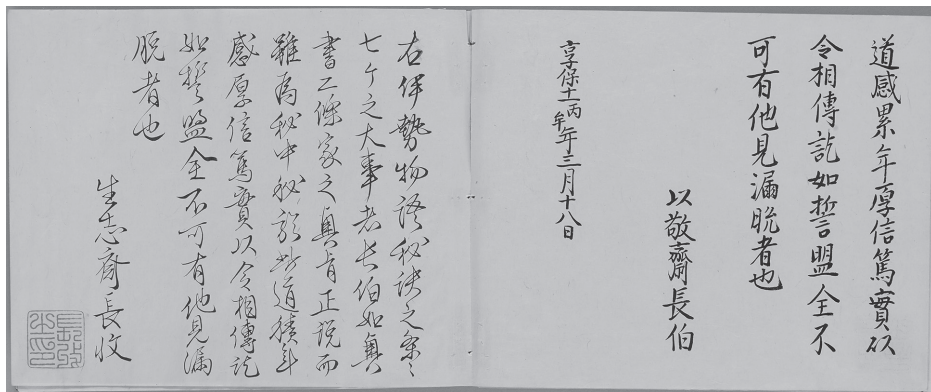
卷頭



表紙



本文末・奥書



奥書

伊勢物語聞書 写本 一冊

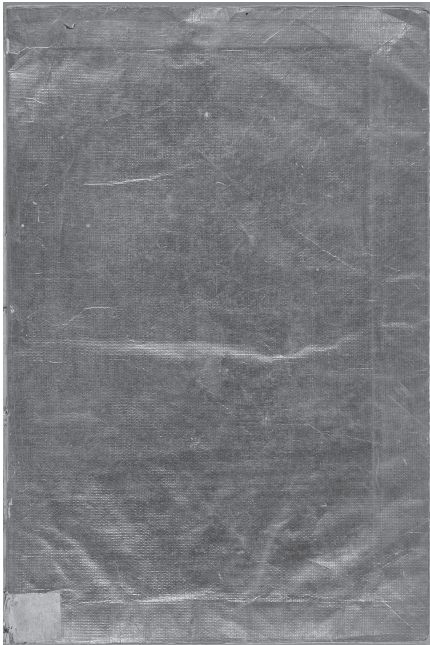
三Faい38 (三Faい36、37、38が同帙)

○寛永一八年写。白無地紙表紙。後補表紙。後ろ表紙は枯葉色打紙楮紙。後背部分は浅葱地に金小菱繋ぎ文錦装。見返し、布目金箔。四針袋綴装。後背装。縦二五・〇糰×横一七・八糰。前遊紙一丁、本文一二八丁、後遊紙なし。料紙、楮紙打紙。

○外題、「伊勢物語聞書 全」(子持廓後補題簽)。内題、「伊勢物語聞書」。尾題、なし。

○序、なし。識語、「寛永十八／暦(重光／大荒落) 孟春中旬 筆者 四拾歳／本主 佯楊姫(丸朱印)」。

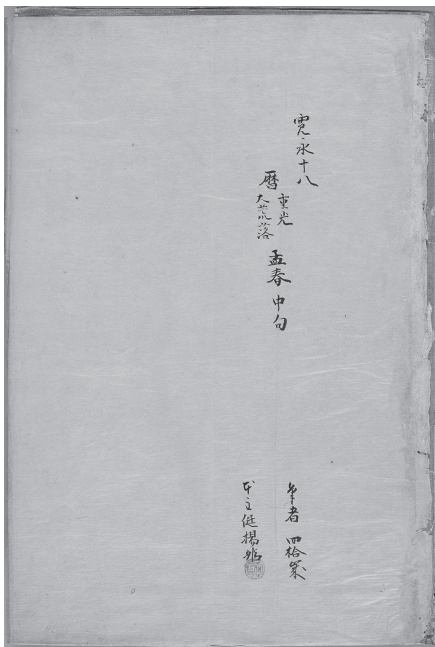
○印記、「英王堂蔵書」(長方陽刻朱印)。バジル・ホール・チェンバレン旧蔵書。



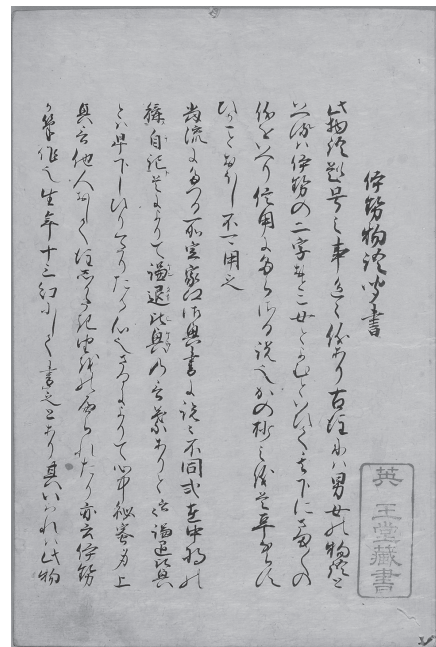
見返し



表紙



識語



卷頭

伊勢物語抄録等 写本 一軸

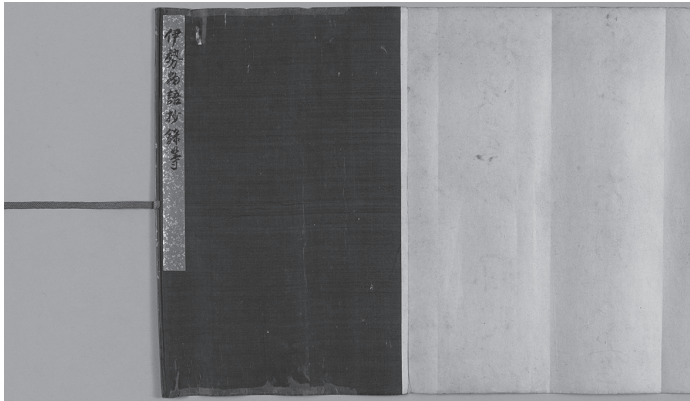
三Faい16

○江戸後期写。青鈍色布表紙。見返し、鳥の子紙。卷子装。縦二六・五糎×全長七二六・三糎。料紙、楮紙。

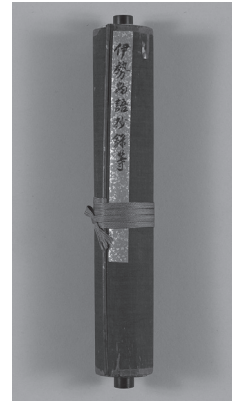
○外題、「伊勢物語抄録等」（香色金砂子後補題簽、墨書）。内題、なし。尾題、なし。

○序跋等、なし。

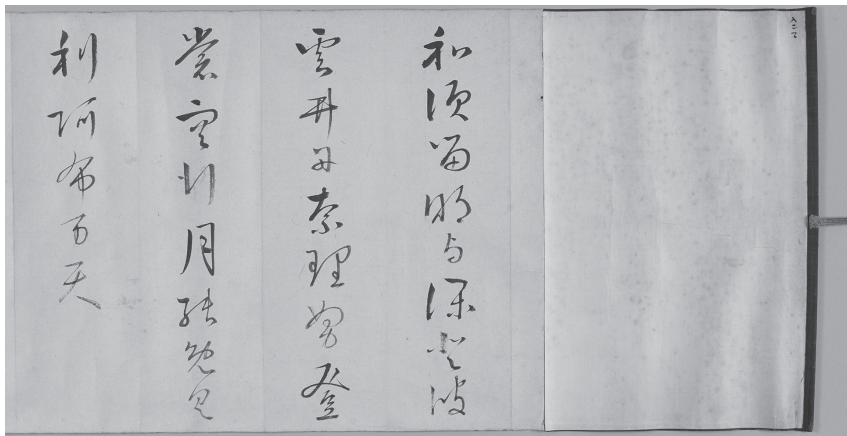
○印記、なし。もと折本の書帖であったものを卷子に改装したもの（七糎八耗ごとに折目の跡が残り、一つ置きに折目の跡に濃淡がある）。冒頭に、伊勢物語より和歌三首を万葉仮名書きで記す。次いで、十干を行書体と隸書体で記す。さらに、伊勢物語の初段から十段を漢字平仮名交じりで記す。巻末には、「雲霧の遠さかりしもふりつもるゆきにまちかくみゆる山の端」以下、「くもりなき君かめくみにさしそひていつる日影やよをてらすらむ」まで和歌九首を漢字平仮名交じりで記す。



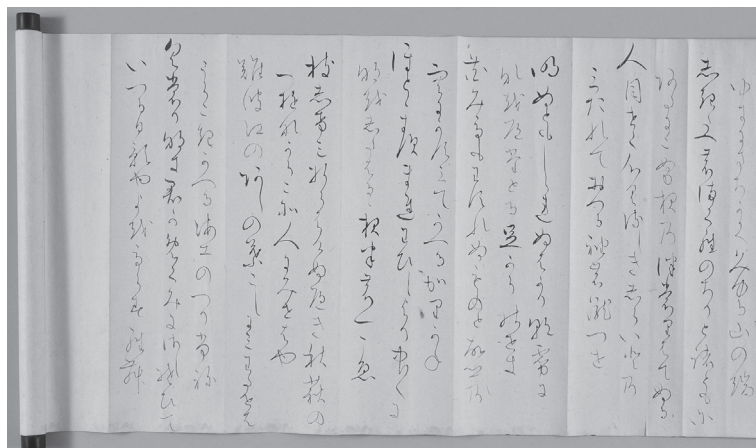
表紙



巻子を巻いた状態



巻頭



巻末

いせ物語秘々註 写本 一帙二冊

三F a 15

○享保一八年写。薄茶色牡丹唐草織文様緞子表紙。帙は薄紅色杉の葉散らし模様鳥の子製。帙裏は水浅葱色禾目模様鳥の子。四針袋綴装。見返し、布目鳥の子に金砂子。縦二七・八糎×横二〇・二糎。乾冊、前遊紙一丁、本文一〇〇丁、後遊紙なし。坤冊、前遊紙一丁、本文九四丁、後遊紙なし。料紙、楮紙。

○外題、乾冊「いせ物かたり秘々註^乾」、坤冊「い勢物語^坤」(破損)「(金砂子絹題簽、原題簽、中央、墨書)。内題、「伊勢物語上(下)」。尾題、なし。

○序、なし。奥書、乾冊の奥に、「奥書在次」。坤冊「這二冊者先師風觀窓講談両度之聞書也其趣愚見抄惟清抄肖聞抄闕疑抄(上三抄者皆出/此抄仍拳闕疑略之)九禪抄宗祇說西三条実澄說後水尾院御講読聞書或抄(記/一本)等其外諸抄之取要被講訖故各以本書勘記略秘說相交令清書為正本雖一子猥不伝之深秘函底者也/享保十八癸丑年/仲冬良辰/以敬齋長伯(朱方印)(朱壺印)」。

○印記、奥書の長伯署名の横に、正方陽刻朱印「長伯之印」と、壺印陰刻朱印「黄和」。朱・墨による書入れ多数。付箋、挟み紙も多数。長伯自筆稿本か。

伊勢物語讀曲 写本 一冊

三F a i 16

○江戸後期写。水浅葱色蜀江錦織文様緞子表紙。見返し、本文共紙。四針袋綴装。縦一七・五糎×横二五・二糎。前遊紙一丁、本文一〇六丁、後遊紙なし。料紙、楮紙打紙薄様。

○外題、「伊勢物語（讀曲／清濁）」（金泥原題簽、左肩、墨書）。内題、なし。尾題、なし。

○序、なし。奥書、「右伊勢物語上下（但合巻）一冊者大藏卿二位法印玄旨道遊軒明心居士狭々野屋翁広沢隱士長孝居士的々相承之讀曲清濁句

頭也於此道雖為無上至極之秘訣年来感淳心篤實以今令附與之畢如誓盟全不可有他見漏脱者乎／六諭居士長雅／六諭（花押）／時／寛永三〔丙／戊〕天如月吉辰」「右伊勢物語讀曲之大事者從大藏卿二位法印玄旨至敬義齋長因的々相承之句頭清濁之秘卷也因雖深秘函底依崇信此道之篤以今附與之訖如誓盟不可有他見者也／居貞齋長収（朱方印）（花押）／田中光教詞契」。

○印記、奥書の長収の署名の左に、正方陽刻朱印「長収之印」。章段番号・読みぐせ・清濁・句点など、朱による書入れあり。同筆。表紙上部中央破損。

○延宝五年開版、文化三年三月補刻再版。紺色無地表紙。五針袋綴装。縦二六・五糎×横一八・六糎。単匡郭、縦二〇・二糎×横一六・〇糎。第一冊、前遊紙一丁、本文四三丁。第二冊、前遊紙一丁、本文四五丁。第三冊、前遊紙一丁、本文五一丁。第四冊、前遊紙一丁、本文五六丁。第五冊、前遊紙一丁、本文四九丁。第六冊、前遊紙一丁、本文三四丁。第七冊、前遊紙一丁、本文三二丁。第八冊、前遊紙一丁、本文四二丁。第九冊、前遊紙一丁、本文二八丁。第一〇冊、前遊紙一丁、本文三七丁。第一一冊、前遊紙一丁、本文五四丁。第一二冊、前遊紙一丁、本文三二丁。第一三冊、前遊紙一丁、本文三四丁。第一四冊、前遊紙一丁、本文二四丁。第一五冊、前遊紙一丁、本文四七丁。第一六冊、前遊紙一丁、本文四八丁。第一七冊、前遊紙一丁、本文三五丁。第一八冊、前遊紙一丁、本文三三丁。第一九冊、前遊紙一丁、本文三七丁。第二〇冊、前遊紙一丁、本文二八丁。第二一冊、前遊紙一丁、本文五三丁。第二二冊、前遊紙一丁、本文四二丁。第二三冊、前遊紙一丁、本文四一丁。第二四冊、前遊紙一丁、本文三九丁。第二五冊、前遊紙一丁、本文二八丁。第二六冊、前遊紙一丁、本文四〇丁。第二七冊、前遊紙一丁、本文四〇丁。第二八冊、前遊紙一丁、本文四五丁。第二九冊、前遊紙一丁、本文三八丁。第三〇冊、前遊紙一丁、本文五八丁。料紙、楮紙。

○外題、全冊原題簽が存し、「うつつほ物語」とあつてその下に巻の名などを記す。第一冊「蔵ひらき上の一」今板本一の巻ノ。古本十三の巻」。第二冊「蔵ひらき上の上」今板本一の巻ノ。古本十三の巻」。第三冊「蔵ひらき中」今板本二の巻。古本十四の巻」。第四冊「蔵ひらき下」今板本三の巻。古本十五の巻」。第五冊「樓の上」今板本四の巻ノ。古本十六の巻」。第六冊「樓の上」今板本四の巻ノ。古本十六の巻」。第七冊「樓の上」今板本五の巻ノ。古本十七の巻」。第八冊「樓の上」今板本五の巻ノ。古本十七の巻」。第九冊「菊の宴」今板本六の巻ノ。古本九の巻」。第一〇冊「菊の宴二止」今板本六の巻ノ。古本九の巻」。第一一冊「藤原の君」今板本七の巻。古本二の巻」。第一二冊「田鶴の村鳥」今板本八の巻。古本十二の巻」。第一三冊「忠こそ」今板本九の巻。古本三の巻」。第一四冊「吹上上」今板本十の巻。古本六の巻」。第一五冊「吹上下」今板本十一の巻。古本七の巻」。第一六冊「祭の使」今板本十二の巻。古本八の巻」。第一七冊「嵯峨の院一」今板本十三の巻ノ。古本五の巻」。第一八冊「嵯峨の院二」今板本十三の巻ノ二。古本五の巻」。第一九冊「嵯峨の院三止」今板本十三の巻ノ三。古本五の巻」。第二〇冊「梅の花笠」今板本十四の巻。古本四の巻」。第二一冊「初秋一」今板本十五の巻ノ。古本十一の巻」。第二二冊「初秋二止」今板本十五の巻ノ。古本十一の巻」。又すまひの節會 又内侍の督 今板本十五の巻ノ。古本十一の巻」。第二三冊「初秋二止

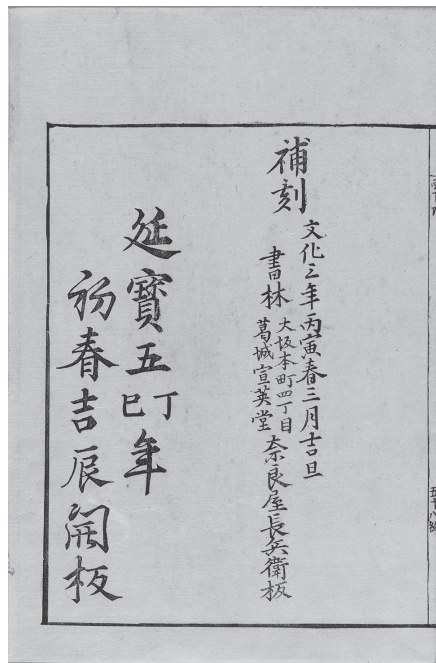
〔今板本十五の巻ノ一〕 古本十一の巻。第二三冊「俊蔭一」〔今板本十六の巻ノ一〕 古本一の巻。第二四冊「俊蔭二止」〔今板本十六の巻ノ二〕 古本一の巻。第二五冊「あて宮」〔今板本十七の巻ノ一〕 古本十の巻。第二六冊「國讓上の一」 正本中巻 〔今板本十八の巻ノ一〕 古本十九の巻。第二七冊「國讓上の二止」 正本中巻 〔今板本十八の巻ノ二〕 古本十九の巻。第二八冊「國讓中の一」 正本上巻 〔今板本十九の巻ノ一〕 古本十八の巻。第二九冊「國讓中の二止」 正本上巻 〔今板本十九の巻ノ二〕 古本十八の巻。第三〇冊「國讓下」 正本藏開下の巻ノ一 古本十八の巻。第三一冊「國讓中の二止」 正本上巻 〔今板本十九の巻ノ三〕 古本十八の巻。第三二冊「蔵上一」 四十四冊 〔今板本二十の巻ノ一〕 古本二十の巻。内題、なし。尾題、なし。版心、第二冊「蔵上一」 四十四冊 〔今板本二十の巻ノ二〕 古本十八の巻。第三三冊「蔵中二」 一（〜五十一終）。第四冊「蔵下三」 一（〜五十六終）。第五冊「樓上四」 一（〜四十九）。第六冊「樓上四」 五十（〜八十三終）。第七冊「樓下五」 一（〜卅二）。第八冊「樓下五」 卅二初（〜七十二終）。第九冊「菊六」 一（〜廿八）。第一〇冊「菊六」 廿九■初（〜六十五終）。第一一冊「藤七」 一（〜五十四終）。第一二冊「鶴八」 一（〜卅一終）。第一三冊「忠九」 一（〜卅四終）。第一四冊「吹上十一」 一（〜卅四終）。第一五冊「吹上十一」 一（〜四十七終）。第一六冊「祭十二」 一（〜四十八終）。第一七冊「嵯十三」 一（〜卅五）。第一八冊「嵯十三」 卅六■中ノ初（〜六十八）。第一九冊「嵯十三」 六十九■下ノ初（〜百五終）。第二〇冊「梅十四」 一（〜廿八終）。第二一冊「初十五」 一（〜五十三）。第二二冊「初十五」 五十四■初（〜九十五終）。第二三冊「俊十六」 一（〜四十二）。第二四冊「俊十六」 四十二■初（〜八十終）。第二五冊「阿十七」 一（〜廿八）。第二六冊「国上十八」 一（〜四十）。第二七冊「国上十八」 四十二■初（〜八十終）。第二八冊「國中十九」 一（〜四十五）。第二九冊「國中十九」 四十六■初（〜八十三終）。第三〇冊「国下廿」 一（〜五十八終）。

○序跋等、なし。刊記、「補刻／文化三年丙寅春三月吉旦／書林／大坂本町四丁目／葛城宣英堂／奈良屋長兵衛板／延寶五（丁巳）年／初春吉辰開板」。

○印記、なし。挿絵入。第一三冊には、前遊紙に朱の書き込み有り。本文冒頭六丁にも朱の書き込み有り。



本文・挿絵



刊記

女郎花物語 版本 一帙三冊

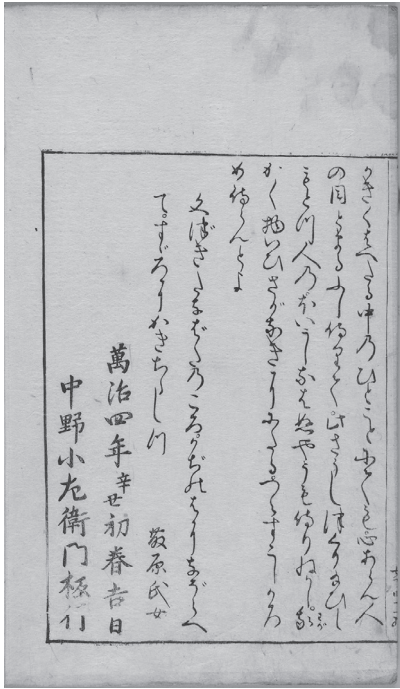
三F a 87

○万治四年刊。黒色草花文様繋地表紙。五針袋綴装。縦二六・八糎×横一六・八糎。単匡郭、縦一九・〇糎×横一三・三糎。上冊序二丁、本文三六丁、中冊三八丁、下冊四一丁、計一一七丁。遊紙なし。料紙、楮紙。

○外題、表紙中央に後補の書題簽（梓のみ刷）「女郎花物語 上（中・下）」。題簽寸法、縦一七・五糎×横四・〇糎。内題、「をみなへし上（中・下）」尾題、なし。版心、「女上序一（〜二終）」、「女上一（〜卅四終）」、「女中一（〜卅八終）」、「女下一（〜四十一終）」。

○無記名序、「それと和哥はしたてるひめにはしまり。人まろをうたのひしりとして」以下、二丁半あり。跋「文づきたなばたのころ。かぢのはになぞらへて。すゞろにかきちらしつ。藤原氏女」。「藤原氏女」は北村季吟の匿名とされる。刊記、「萬治四年（辛／丑）初春吉日／中野小左衛門板行」。

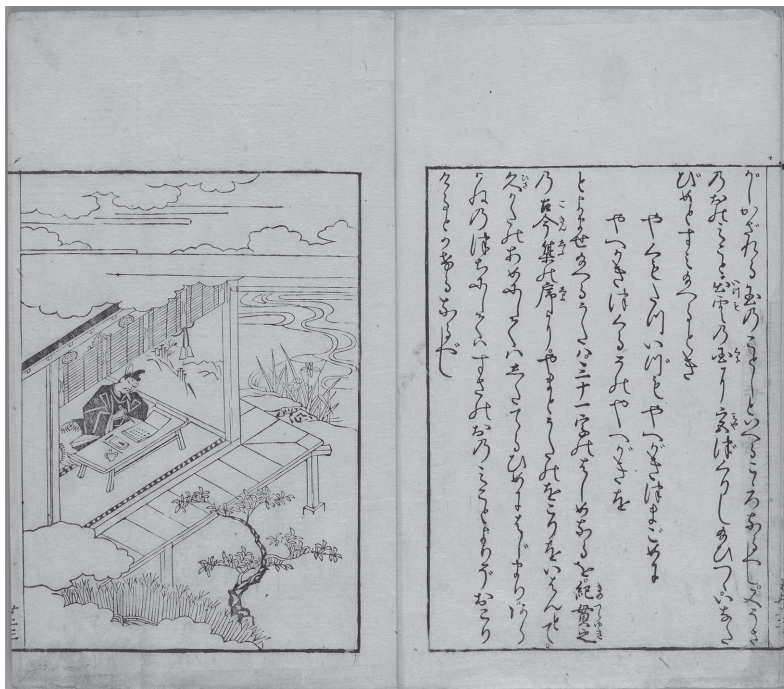
○印記、各冊冒頭に長方陽刻朱印「英王堂藏書」。バジル・ホール・チェンバレン旧藏書。寸法、縦五・二糎×横二・一糎。各冊末に円形陰刻墨印あり。寸法、径三・一糎。下冊後ろ見返しに墨書「享和二年（壬／戌）正月十五日求／水野」。参考文献、佐藤りつ編『女郎花物語 翻刻篇』古典文庫、一九七〇年。渡辺守邦「雑々集の成立―「女郎花物語」考のために―」（『大妻女子大学文学部紀要』3、一九七一年三月）。野中和孝「新出・奈良絵本『女郎花物語』の紹介」（『活水論文集 現代日本文化学科編』49、二〇〇六年三月）。



卷末・刊記



表紙



本文・挿絵

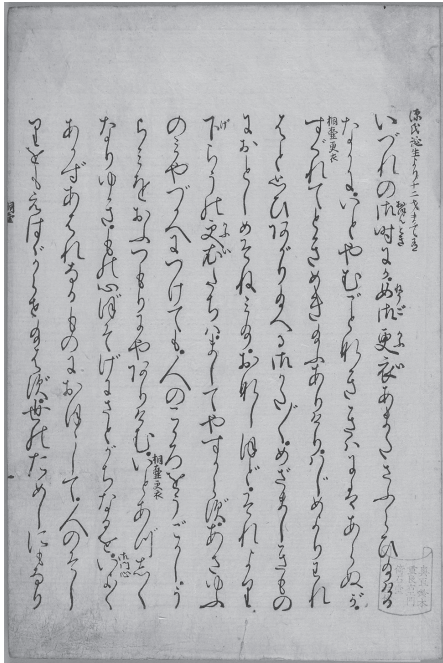
○慶安三年跋、江戸前期刊。紺色表紙。五針袋綴装。縦二六・八糎×横一八・七糎。字高二〇・五糎。匡郭無し。每半葉一行。料紙、楮紙。題簽・柱書・本文丁数については整理して示す。なお、全冊遊紙なし。第一帙、後補題簽に墨書「きりつほ / 一卷 / 詞を名とせり」、「桐壺 一 (〜二十八終)」、二八丁。原題簽「は、き木 / 二 / 哥を名とせり」、「箒木 一 (〜五十)」、第五二丁の柱書なし、五二丁。原題簽「うつせみ / は、き、并一 / 哥を名とせり」、「空蟬 一 (〜二十二終)」、一二丁。題簽剥落、「夕顔 一 (〜五十二)」、第五二丁に柱書なし、五二丁。原題簽「わか紫 / 三 / 哥を名とせり」、「若紫 一 (〜五十二終)」、五二丁。題簽「すゑつむ花 / 若紫_并 / 哥を名とせり」、下端に「三 / 十」と墨書、「末摘 一 (〜三十四終)」、三四丁。題簽剥落、「紅葉 一 (〜三十終)」、三〇丁。原題簽「花の宴 / 五 / 詞を名とせり」、「花宴 一 (〜十一終)」、一二丁。題簽剥落、「葵 一 (〜四十九終)」、四九丁。原題簽「さか木 / 七 / 哥と詞を名とせり」、「賢木 一 (〜五十四終)」、五四丁。題簽剥落、「花散 一 (〜五終)」、五丁。原題簽「すま / 九 / 哥と詞を名とせり」、「須戸 一 (〜四十七終)」、四七丁。第二帙、原題簽「あかし / 十 / 歌と詞を名とせり」、「明石 一 (〜四十三終)」、四三丁。原題簽「みおつくし / 十一 / 哥を名とせり」、「滯漂 一 (〜三十五終)」、三五丁。原題簽「よもきふ / みおつくし并一 / 哥と詞を名とせり」、「蓬生 一 (〜二十三)」、第二四丁に柱書なし、二四丁。原題簽「せき屋 / みおつくし并二 / 詞を名とせり」、「関屋 一 (〜五)」、第六丁に柱書なし、六丁。原題簽「ゑあはせ / 十二 / 詞を名とせり」、「総合 一 (〜十九終)」、一九丁。原題簽「松かせ / 十三 / 哥と詞を名とせり」、「松風 一 (〜二十二終)」、二二丁。原題簽「うす雲 / 十四 / 哥を名とせり」、「薄雲 一 (〜三十二終)」、三二丁。原題簽「あさかほ / 十五 / 哥と詞を名とせり」、「朝顔 一 (〜二十二終)」、二二丁。原題簽「をとめ / 十六 / 歌と詞を名とせり」、「乙女 一 (〜五十一終)」、五二丁。原題簽「玉かつら / 十七 / 哥を名とせり」、「玉髻 一 (〜四十二終)」、四二丁。原題簽「はつね / 玉かつら并一 / 哥と詞を名とせり」、「初音 一 (〜十五終)」、一五丁。原題簽「こてう / 玉かつら并二 / 哥と詞を名とせり」、「蛸蝶 一 (〜二十二)」、二二丁。原題簽「ほたる / 玉かつら并三 / 哥と詞を名とせり」、「蛩 一 (〜二十終)」、二〇丁。原題簽「とこ夏 / 玉かつら并四 / 哥と詞を名とせり」、「床夏 一 (〜二十二)」、第二三丁に丁付なし、二三丁。原題簽「か、り火 / 玉かつら并五 / 哥と詞を名とせり」、「箒火 一 (〜四終)」、四丁。原題簽「野わき / 玉かつら并六 / 詞を名とせり」、「野分 一 (〜十八終)」、一八丁。原題簽「みゆき / 玉かつら并七 / 哥を名とせり」、「行幸 一 (〜二十八終)」、二八丁。第三帙、題簽剥落、「藤袴 一 (〜十五終)」、一五丁。題簽剥落、「楨柱 一 (〜三十九終)」、三九丁。題簽剥落、「梅枝 一 (〜十九終)」、一九丁。原題簽「藤のうら葉 / 十九 / 詞を名とせり」、「藤裏 一 (〜

二十五終)、二五丁。原題簽「わかな上 / 二十 / 哥と詞を名とせり」、若上 一(〜百二終)、一〇二丁。題簽剥落、「若下 一(〜百三終)」、第七三丁の柱書判読不能、一〇三丁。原題簽「かしは木 / 二十一 / 哥と詞を名とせり」、「柏木 一(〜四十終)」、四〇丁。原題簽「よこふえ / 二十二 / 歌を名とせり」、「横笛 一(〜十九終)」、一九丁。原題簽「すゝむし / よこふえ并 / 哥と詞を名とせり」、「鈴虫 一(〜十五終)」、一五丁。原題簽「夕きり / 二十三 / 哥を名とせり」、「夕霧 一(〜二十二)」、二二丁、有欠か。原題簽「みのり / 二十四 / 哥を名とせり」、「御法 一(〜二十終)」、二〇丁。原題簽「まほろし / 二十五 / 哥を名とせり」、「幻 一(〜二十二終)」、二三丁。第四帙、原題簽「匂兵部卿の宮 / 二十七 / 詞を名とせり」、「匂宮 一(〜十四終)」、一四丁。原題簽「こうはい / 匂宮并 一 / 詞を名とせり」、「紅梅 一(〜十三終)」、一三丁。原題簽「竹かは / にはふ宮并二 / 哥と詞を名とせり」、「竹川 一(〜四十二終)」、四二丁。原題簽「はし姫 / 宇治卷一 / 哥を名とせり」、「橋姫 一(〜四十終)」、四〇丁。原題簽「しひかもと / 宇治卷二 / 哥を名とせり」、「椎本 一(〜三十八終)」、三八丁。原題簽「あけまき / 宇治卷三 / 哥と詞を名とせり」、「総角 一(〜九十終)」、九〇丁。原題簽「さわらび / 宇治卷四 / 哥と詞を名とせり」、「早蕨 一(〜二十終)」、二〇丁。原題簽「やとりき / 宇治卷五 / 哥を名とせり」、「寄生 一(〜九十七終)」、九七丁。原題簽「あつま屋 / 宇治卷六 / 哥を名とせり」、「東屋 一(〜六十七終)」、六七丁。第五帙、原題簽「うき舟 / 宇治卷七 / 哥を名とせり」、「浮舟 一(〜七十二終)」、七二丁。原題簽「かけろふ / 宇治卷八 / 哥と詞を名とせり」、「蜻蛉 一(〜五十七終)」、五七丁。原題簽「てならひ / 宇治卷九 / 詞を名とせり」、「手習 一(〜六十七終)」、六七丁。題簽剥落、「夢浮 一(〜二十終)」、第一八丁に「十八終」の丁付、二〇丁。題簽剥落、「山路 一(〜三十九終)」、三九丁。原題簽「源氏目案 / 上 / いより / ちまで」、「目案上 一(〜七十終)」、七〇丁。原題簽「源氏目案 / 中 / よより / やまで」、「目案中 一(〜七十九)」、第八〇丁の柱書判読不能、八〇丁。原題簽「源氏目案 / 下 / あより / ちまで」、「目案下 一(〜六十終)」、六〇丁。原題簽「源氏引哥」、「引哥 一(〜四十五終)」、四五丁。原題簽「源氏系圖」、「系圖 一(〜二十終)」、二〇丁。

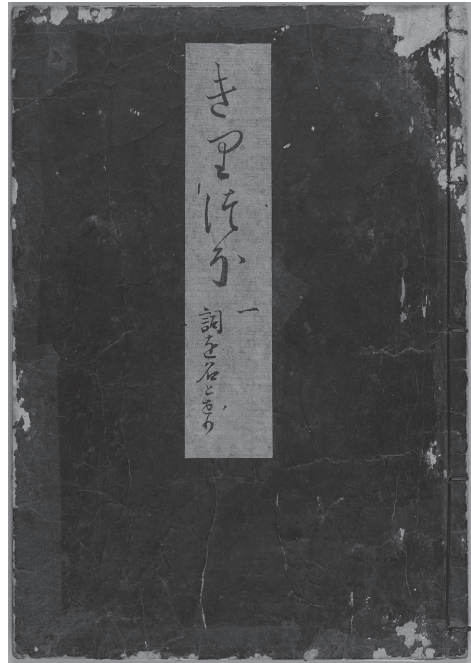
○外題、表紙中央上部に原副題簽(縦一七・八糎×横三・二糎)を貼る。詳細は右の通り。

○序跋等、なし。刊記、なし。「夢浮橋」冊の末尾に奥書、「写本云……永正元稔七月日 台嶺末学権僧正在判」。跋、「源氏物語之書行于世也尚矣……慶安三年仲冬蓬衡叢品山氏春正謹跋」。

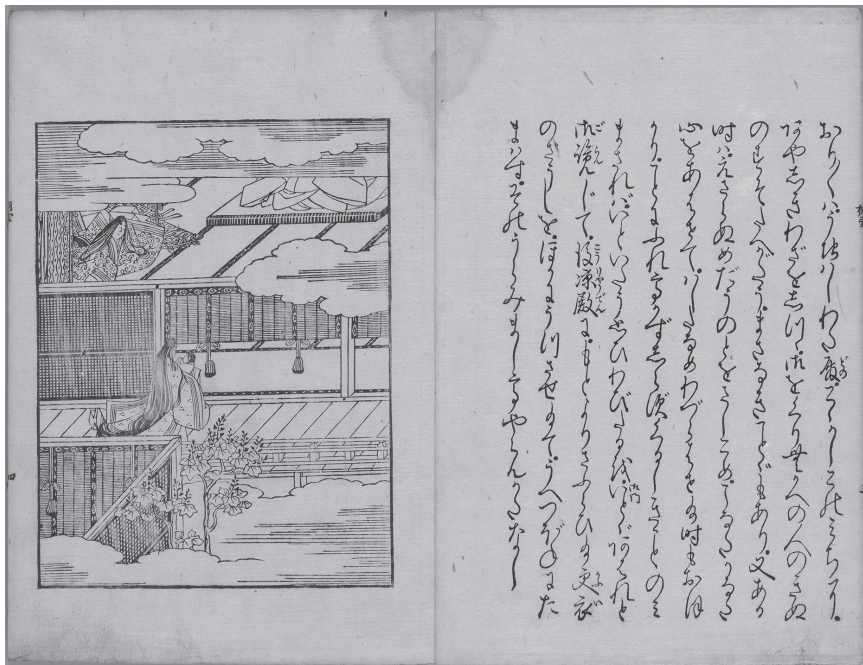
○印記、各札第一丁右下に朱文陽刻卷紙型印「奥豆鈴木 / 重良右工門 / 倚石堂 / 左竹」。絵入。吉田幸一「絵入本源氏物語考」に「版心付植無刊記本」として紹介される。



巻頭本文



表紙



本文・挿絵

写本云
 抄本者以後崇光院宸翰桃花入道殿
 下被再治之者也古以為證本者也惣
 而八種異本在之
 永正元稔七月日
 台嶺末学権僧西五判

永正元年奥書

一花鳥序云あづまはまろくのうのいふはうへまは
 花鳥をそのものの中にもあつてはれどもあつては
 氷はらぬもさしほくさくさくさくさくさくさくさく
 兄はけむのうをす我國のふ實は海鳥物語
 まよふらうらべへれはまろそせのあそび
 物とありて花鳥の情をあそびのほろけのほろけ
 まらうて雪雲の功をつむくもほろけのほろけ
 の河海抄いへ今をくむかたさあそびをま
 てておもしろくお仲のほろけのほろけの道はえ
 かりおれおれおのほろけのほろけのほろけ
 奥とありおのほろけのほろけのほろけ

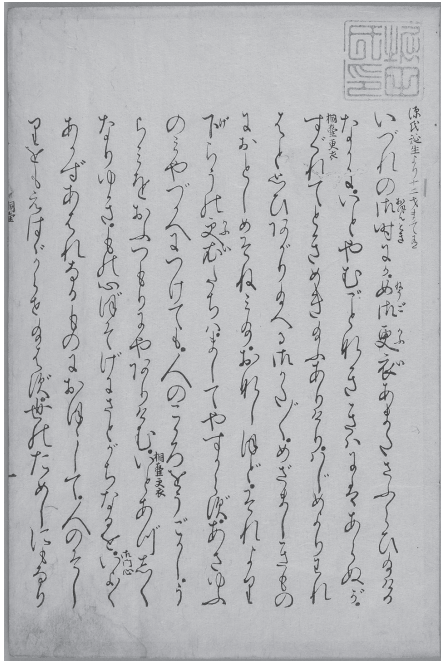
本文

源氏物語之書行于世也尚矣然諸家之本
 頗有同異開闔清濁不分明不能令讀者無
 遺憾僕自蚤歲志俵歌之道研精覃思從
 一讀後成鄉之言潛心以書握玩不釋手或問
 明師而受口授之奧義或從朋友而决玃疑
 與鳥馬粗得梗概也頃聚數本參諸鈔校同
 果訂開闔分清濁點句讀且傍註誰某詞誰
 某爰等脚初學之捷徑也古來有繪圖書中
 之趣者今亦於詞與釋之尤可留心之虞則
 附以臆見更增圖畫僭竊之罪在所遁逃依
 圖知事依事知意則亦婦人女兒之一助也平
 常聞以紫吏部之筆比閼雉之篇則子詩賦
 之筆亦不可不讀之書也而況於優詠之徒哉
 け書陽述治態艷情而陰垂教誨監戒所謂覽
 風止乎禮義者亦紫吏部之微意也善讀者
 當須極其情而趣之正也仍今并山路露系
 譜因索等付判嗣氏鶴梓欲廣行于世也永
 傳于万年矣非敢射利只欲善與人同者也尚
 謬誤必多博覽之君子幸正焉于時
 慶安三年仲冬逢術巖品山氏春正謹跋

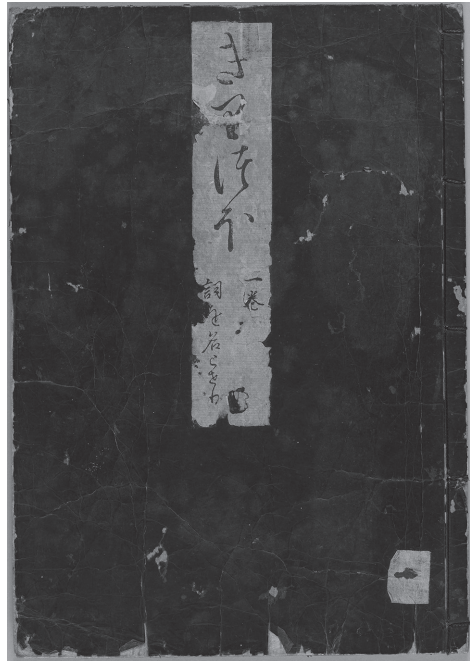
山本春正跋

○慶安三年跋、江戸前期刊。紺色表紙。五針袋綴装。縦二六・八糎×横一八・八糎。字高約二〇・五糎。巨郭無し。每半葉二一行。料紙、楮紙。題簽・柱書・本文丁数については整理して示す。なお、全冊遊紙なし。第二帙、「きりつほ」／一卷／詞を名とせり、「桐壺 一（二十八終）」、二八丁。「は、き木」／二／哥を名とせり、「箒木 一（五十）」第五二丁の柱書は判読不能、五二丁。「うつせみ」／は、き、并一／哥を名とせり、「空蟬 一（十二終）」、二二丁。「夕かほ」／は、き、并二／哥と詞を名とせり、「夕顔 一（五十二）」第五二丁に柱書なし、五二丁。「わか紫」／三／哥を名とせり、「若紫 一（五十二終）」、五二丁。「すゑつむ花」／若紫并／哥を名とせり、「末摘 一（三十四終）」、三四丁。「もみちの賀」／四／詞を名とせり、「紅葉 一（三十終）」、三〇丁。「花の宴」／五／詞を名とせり、「花宴 一（十一終）」、一一丁。「葵」／六／歌を名とせり、「葵 一（四十九終）」、四九丁。「さか木」／七／哥と詞を名とせり、「賢木 一（五十四終）」、五四丁。第二帙、「花ちるさと」／八／哥を名とせり、「花散 一（五終）」、五丁。「すま」／九／哥と詞を名とせり、「須戸 一（四十七終）」、四七丁。「あかし」／十／歌と詞を名とせり、「明石 一（四十三終）」、四三丁。「みおつくし」／十一／哥を名とせり、「濔漂 一（三十五終）」、三五丁。「よもきふ」／みおつくし并一／哥と詞を名とせり、「蓬生 一（二十三）」第二四丁の柱書は判読不能、二四丁。「せきや」／みおつくし并二／詞を名とせり、「関屋 一（五）」第六丁の柱書は判読不能、六丁。「ゑあはせ」／十二／詞を名とせり、「総合 一（十九終）」、一九丁。「松かせ」／十三／哥と詞を名とせり、「松風 一（二十二終）」、二二丁。「うす雲」／十四／哥を名とせり、「薄雲 一（三十二終）」、三二丁。「あさかほ」／十五／哥と詞を名とせり、「朝顔 一（二十二終）」、二二丁。第三帙、「をとめ」／十六／歌と詞を名とせり、「乙女 一（五十一終）」、五一丁。「玉かつら」／十七／哥を名とせり、「玉髻 一（四十二終）」、四二丁。「はつね」／玉かつら并一／哥と詞を名とせり、「初音 一（十五終）」、一五丁。「こてう」／玉かつら并二／哥と詞を名とせり、「蛸蝶 一（二十二終）」、「三」「八」の丁付は判読不能、二二丁。「ほたる」／玉かつら并三／哥と詞を名とせり、「螢 一（二十終）」、二〇丁。「とこ夏」／玉かつら并四／哥と詞を名とせり、「床夏 一（二十三終）」、二三丁。「か、り火」／玉かつら并五／哥と詞を名とせり、「笹火 一（四終）」、四丁。「野わき」／玉かつら并六／詞を名とせり、「野分 一（十八終）」、一八丁。「みゆき」／玉かつら并七／哥を名とせり、「行幸 一（二十八終）」、二八丁。「藤はかま」／玉かつら并八／哥と詞を名とせり、「藤袴 一（十五終）」、一五丁。第四帙、「まきはしら」／玉かつら并九／哥を名とせり、「楨柱 一（三十九終）」、三九丁。「むめか枝」／十八／詞を名とせり、「梅枝 一（十九終）」、一九丁。「藤のうら葉」／十九／詞

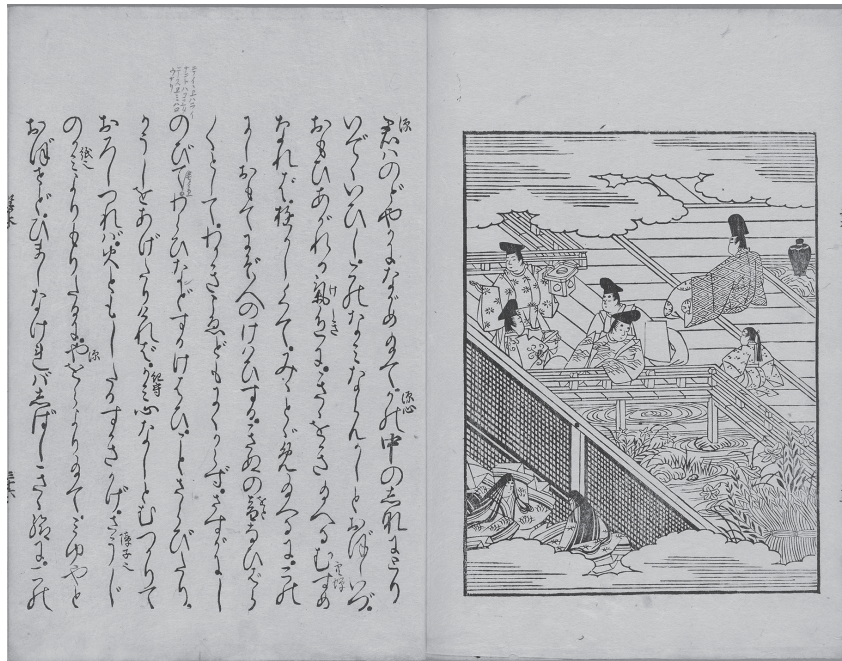
を名とせり、「藤裏 一（〜二十五終）」、二五丁。「わかな上 / 二十 / 哥と詞を名とせり」、「若上 一（〜百二終）」、一〇二丁。「わか
 下 / 二十 / 哥と詞を名とせり」、「若下 一（〜百三終）」、一〇三丁。「かしは木 / 二十一 / 哥と詞を名とせり」、「柏木 一（〜
 四十終）」、四〇丁。「よこふえ / 二十二 / 歌を名とせり」、「横笛 一（〜十九終）」、一九丁。「すゝむし / よこふえ并 / 哥と詞を名と
 せり」、「鈴虫 一（〜十五終）」、一五丁。「夕きり / 二十三 / 哥を名とせり」、「夕霧 一（〜七十二終）」、七二丁。「みのり / 二十四
 / 哥を名とせり」、「御法 一（〜二十終）」、二〇丁。第五帙、「まほろし / 二十五 / 哥を名とせり」、「幻 一（〜二十二終）」、二二丁。
 「匂兵部卿の宮 / 二十七 / 詞を名とせり」、「匂宮 一（〜十四終）」、一四丁。「こうはい / 匂宮并一 / 詞を名とせり」、「紅梅 一（〜
 十三終）」、一三丁。「竹かは / にはふ宮并二 / 哥と詞を名とせり」、「竹川 一（〜四十二終）」、四二丁。「はし姫 / 宇治卷一 / 哥を名
 とせり」、「橋姫 一（〜四十終）」、四〇丁。「しめかもと / 宇治卷二 / 哥を名とせり」、「椎本 一（〜三十八終）」、三八丁。「あけまき
 / 宇治卷三 / 哥と詞を名とせり」、「総角 一（〜九十終）」、九〇丁。「さわらひ / 宇治卷四 / 哥と詞を名とせり」、「早蕨 一（〜二十終）」、
 二〇丁。「やとりき / 宇治卷五 / 哥を名とせり」、「寄生 一（〜九十七終）」、九七丁。「あつまや / 宇治卷六 / 哥を名とせり」、「東屋
 一（〜六十七終）」、六七丁。第六帙、「うき舟 / 宇治卷七 / 哥を名とせり」、「浮舟 一（〜七十二終）」、七二丁。「かけるふ / 宇治卷
 八 / 哥と詞を名とせり」、「蜻蛉 一（〜五十七終）」、五七丁。「てならひ / 宇治卷九 / 詞を名とせり」、「手習 一（〜六十七終）」、
 六七丁。「夢のうき橋 / 宇治卷十」、「夢浮 一（〜二十終）」、第一八丁に「十八終」の丁付、二〇丁。「山路の露」、「山路 一（〜
 三十九終）」、三九丁。「源氏目案 / 上 / いより / ちまで」、「目案上 一（〜六十九）」、第七〇丁に柱書なし、七〇丁。「源氏目案 / 中
 / よより / やまで」、「目案中 一（〜七十九）」、第八〇丁に柱書なし、八〇丁。「源氏目案 / 下 / あより / ちまで」、「目案下 一（〜
 六十終）」、六〇丁。「源氏引哥」、「引哥 一（〜四十五終）」、四五丁。「源氏系圖」、「系圖 一（〜二十終）」、二〇丁。
 ○表紙中央上部に原刷題簽を貼る。縦一六・八糶×横三・三糶。詳細は右の通り。各冊表紙右下端に、巻序「一」〜「五十四」、「山路の露」
 、「源氏目案」は白紙、「源氏引歌」「源氏系図」は「完」を墨書した小紙片を貼る。
 ○序跋等、なし。刊記、なし。「夢浮橋」冊の末尾に奥書、「写本云……永正元稔七月日 台嶺末学権僧正在判」。跋、「源氏物語之書行于
 世也尚矣……慶安三年仲冬蓬衡叢品山氏春正謹跋」。
 ○印記、各冊第一丁才右肩に方形陽刻朱印「堀田 / 氏印」。絵入。朱による書入あり。吉田幸一「絵入本源氏物語考」に「版心付植無刊
 記本」として紹介される。



巻頭本文



表紙



本文・挿絵

写本云
 并比本者以後崇光院宸翰桃花入道殿
 下被再治之者也云以爲證本者也惣
 而八種異本在之
 永正元癸七月日
 台願末学権僧三喜判

永正元年奥書

大上天皇
 あつひの巻に位をゆづりまかり終りし本の巻に
 りくれ終ぬるつがの門ありりまかり相帯あり
 故院の内よりつくとまきまきしつて
 秋好中宮 廿六条の奥
 あつひの巻より終るとはげつと都へゆき終
 繪合は同じありて梅ついでに女中交
 じりし法に皇居ありあかき終りし女中交
 じりし法に皇居ありあかき終りし女中交
 権鉄院 ちよんまの巻に父の
 服よりつてありせ終りし女中交とありし

系図本文

源氏物語之書行于世也尚矣然諸家之本
 頗有同異開闔清濁不分明不能令讀者無
 遺憾焉僕自蚤歲志俵歌之道研精覃思從
 一讀後成鄉之言潛心以書握玩不釋手或問
 明師而受口授之真義或從朋友而次瓶疑
 與烏馬粗得梗概也頃聚數本參諸鈔校同
 果訂開闔分清濁點句讀且傍註誰某詞誰
 某箋等聊初字之捷徑也古來有繪圖書中
 之趣者今亦於評與釋之亦可留心之慶則
 附以臆見更增圖畫僭竊之罪無所遁逃然依
 圖知事依事知意則亦婦人女兒之一助也平
 常聞以茶吏部之筆比國雖之篇則子詩賦
 之筆亦不可不讀之書也而況於傳誦之徒哉
 以書陽述治態艷情而陰垂教誨監戒所謂變
 風止乎禮義者亦茶吏部之微意也善讀者
 當須極其情而趣之正也仍今并山路露系
 譜月素等付剞劂成鐫梓欲廣行于當世永
 傳于万年矣非敢射利只欲善與人同者也尚
 謬誤必多博覽之君子幸正垂于時
 慶安三年仲冬遂衙葦岳山氏春正謹跋

山本春正跋

源氏物語絵抄 写本 一帙一冊

三F a い 31

○江戸後期写。改装朱色雲型文雲母刷表紙。見返し、金銀箔散らし。五針袋綴装。縦二四・二糎×一七・〇糎。前遊紙一丁、本文三〇丁、後遊紙一丁。料紙、楮紙。

○外題、表紙左肩に墨書貼題簽「源氏物語絵抄^{彩画}」。内題、第二丁オモテに「源氏物語」。

○無記名序、第一丁に「龍田山のしら浪音しつかにして夜半の関の戸さすこともしらま弓……た、おそれらくは作者の夢に我許に来てな
かむ事をおもふなるへし」。

○印記、なし。彩色絵本。第三丁オモテから第三〇丁オモテまで各半丁一面の挿絵、全五三面。各絵の上部に物語各巻の内容を短かく記している。序文によれば俳諧師の編者。

源氏物語抄 即林逸抄 写本 四帙五五冊

三Faい35

○江戸初期写。黒色表紙。四針袋綴装。縦二六・〇糎×横二〇・八糎。各冊本文丁数・外題（題簽）・内題・極札については整理して示す。尾題は存する冊についてのみ記す。第一冊、前遊紙二丁、本文四〇丁、「きりつほ」、「源氏物語抄第一」、「連歌師宗二きりつほ」。第二冊、六四丁、「は、き、き、き」、「箒木」、「西園寺殿公益公は、き、き」。第三冊、前遊紙一丁、本文一三丁、後遊紙一丁、「うつせみ」三、「空蟬二之並」、「連歌師宗二うつせみ」。第四冊、本文四三丁、後遊紙一丁、「夕かほ」四、「夕顔並」三、「西園寺殿公益公夕かほ」。第五冊、前遊紙一丁、本文四六丁、「わかむらさき」五、「若紫」、尾題「若紫卷」終、「連歌師宗二わかむらさき」。第六冊、前遊紙一丁、本文三六丁、「すゑつむ花」六、「末摘花并」二、「西園寺公益公末摘花」。第七冊、前遊紙一丁、本文三五丁、後遊紙一丁、「もみちの賀」七、「紅葉賀」四、尾題「紅葉賀問書」、「連歌師宗二もみちの賀」。第八冊、前遊紙一丁、本文二〇丁、後遊紙一丁、「花のえん」八、「花宴五」、「西園寺殿公益公花のえん」。第九冊、前遊紙一丁、本文三六丁、「あふひ」九、「葵六」、尾題「葵抄」終、「連歌師宗二あふひ」。第一〇冊、前遊紙一丁、本文三五丁、後遊紙一丁、「さかき」十、「柗七」、「西園寺殿公益公さかき」。第一一冊、前遊紙一丁、本文五丁、後遊紙二丁、「花ちる里」十、「花散里」、尾題「花散里私抄」、「西園寺殿公益公花ちる里」。第一二冊、前遊紙一丁、本文四五丁、「すま」十三、「須磨」、「西園寺殿公益公須磨」。第一三冊、前遊紙一丁、本文四二丁、「あかし」十三、「明石」、尾題「明石私抄」終、「連歌師宗二あかし」。第一四冊、前遊紙一丁、本文三三丁、後遊紙一丁、「みをつくし」十四、「みをつくし」十二、尾題「冷標私抄」終（「冷」字ママ）、「西園寺殿公益公みをつくし」。第一五冊、前遊紙一丁、二四丁、「よもきふ」十五、「よもきふ」、尾題「よもきふ終」、「連歌師宗二よもきふ」。第一六冊、前遊紙一丁、本文八丁、後遊紙一丁、「せき屋」十六、「関屋並」三、尾題「関屋」終、「連歌師宗二せきや」。第一七冊、前遊紙一丁、本文二六丁、後遊紙二丁、「ゑあはせ」十七、「ゑあはせ」十三、尾題「絵合」終、「連歌師宗二ゑあはせ」。第一八冊、前遊紙一丁、本文二七丁、後遊紙一丁、「松風」十八、「松風」十三、尾題「松風口義終」、「西園寺殿公益公松風」。第一九冊、前遊紙一丁、本文三〇丁、「うす雲」十九、「薄雲」十四、尾題「薄雲口義」終、「西園寺殿公益公うす雲」。第二〇冊、前遊紙一丁、本文二五丁、「あさかほ」廿、「あさかほ」十五、「西園寺殿公益公あさかほ」。第二一冊、前遊紙二丁、本文六五丁、「をとめ」廿一、「乙女」十六、尾題「乙女口義」終、「連歌師宗二をとめ」。第二二冊、前遊紙一丁、本文四七丁、後遊紙一丁、「玉かつら」廿二、「玉葛」十七、「西園寺殿公益公玉かつら」。第二三冊、前遊紙一丁、本文二九丁、「はつね」廿三、「初音並」並、尾題「初音終」、「連歌師宗二はつね」。第二四冊、前遊紙一丁、本文二九丁、「こてふ」廿四、「胡蝶並」並、「西園寺殿公益公こてふ」。第二五冊、前遊紙一丁、本文四三丁、「ほたる」廿五、「蜜」廿五、「連歌師宗二ほたる」。第二六冊、前遊紙一丁、本文二三丁、「とこなつ」廿六、「常夏」、「西園寺殿公益公とこなつ」。第二七冊、前遊紙一丁、本文六丁、後遊紙一丁、「か、り、火」廿七、「篝火」、「連歌師宗二か、り、火」。第二八冊、前遊紙一丁、本文二四丁、「野わき」廿八、「野分並」並、尾題「野分」終、「連歌師宗二野わき」。第二九冊、前遊紙一丁、本文三五丁、後遊紙一丁、「みゆき」廿九、「御幸」、尾題「御幸」終、「連歌師宗二みゆき」。第三〇冊、前遊紙一丁、本文二〇丁、「ふちはかま」卅、「藤袴并」并、「西園寺殿公益公ふちはかま」。第三一冊、前遊紙二丁、本文五六丁、「まきはしら」卅一、「真木柱」、尾題「楨柱終」、「連歌師宗二まきはしら」。第三二冊、前遊紙一丁、本文三〇丁、後遊紙一丁、「むめかえ」卅二、「梅かえ」十八、「西

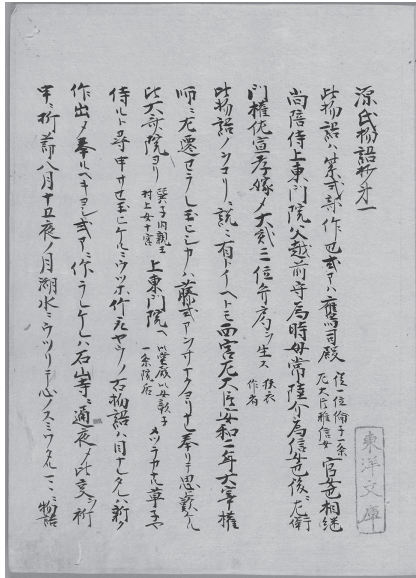
園寺殿公益公梅かえ」。第三三冊、前遊紙一丁、本文三六丁、後遊紙一丁、「藤のうら葉冊三」、尾題「藤裏葉秘抄終」、「連歌師宗二藤のうらは」。第三四冊、前遊紙一丁、本文八二丁、「わか菜上冊四」、「若菜上冊四」、「西園寺殿公益公わかなす」。第三五冊、前遊紙一丁、本文七五丁、「わか菜冊五」、「若菜下冊五」（見返し裏、「若菜之下」、尾題「若菜下終」、「連歌師宗二わかなす」。第三六冊、前遊紙一丁、本文三五丁、「かしはき冊六」、「柏木冊六」、「西園寺殿公益公かしはき」。第三七冊、前遊紙一丁、本文二六丁、「よこ笛冊七」、「横笛冊七」、尾題「横笛私抄終」、「連歌師宗二よこふえ」。第三八冊、前遊紙一丁、本文一五丁、後遊紙二丁、「す、むし冊八」、「鈴虫冊八」、「西園寺殿公益公す、むし」。第三九冊、前遊紙一丁、本文七二丁、後遊紙一丁、「ゆふ霧冊九」、「夕霧」、尾題「夕霧林逸抄終」、「連歌師宗二夕霧」。第四〇冊、前遊紙一丁、本文二二丁、「みのり冊十」、「みのり」（見返し裏、「御法」、「連歌師宗二みのり」。第四一冊、前遊紙一丁、本文二八丁、「まほろし冊十一」、「幻冊十一」、尾題「幻抄終」、「連歌師宗二まほろし」。第四二冊、前遊紙一丁、本文三三丁、後遊紙二丁、「雲かくれ冊十二」、「雲かくれ冊十二」、「連歌師宗二雲かくれ」。第四三冊、前遊紙一丁、本文一六丁、「にほふ兵部卿冊十三」、「匂宮冊十三」、「西園寺殿公益公にほふ兵部卿」。第四四冊、前遊紙一丁、本文二〇丁、後遊紙一丁、「こうはい冊十四」、「紅梅冊十四」、尾題「紅梅抄終」、「連歌師宗二こうはい」。第四五冊、前遊紙一丁、本文五七丁、後遊紙一丁、「竹かは冊十五」、「竹川冊十五」、尾題「竹川林逸抄終」、「四辻殿公理卿竹かは」。第四六冊、前遊紙一丁、本文四〇丁、「はしひめ冊十六」、「橋姫」、尾題「橋姫林逸抄」、「四辻殿公理卿はしひめ」。第四七冊、前遊紙一丁、本文四二丁、後遊紙一丁、「しるかもと冊十七」、「椎本」、尾題「林逸抄椎本」、「四辻殿公理卿しるかもと」。第四八冊、前遊紙一丁、本文一〇一丁、後遊紙一丁、「あけまき冊十八」、「総角冊十八」、尾題「林逸抄総角」、「四辻殿公理卿あけまき」。第四九冊、前遊紙一丁、本文一九丁、「さわらひ冊十九」、「早蕨冊十九」、尾題「早蕨冊十九」、「四辻殿公理卿さわらひ」。第五〇冊、本文七七丁、「やとり木冊二十」、「寄木冊二十」、尾題「林逸抄寄木」、「四辻殿公理卿やとり木」。第五一冊、前遊紙一丁、本文四一丁、後遊紙一丁、「あつまや冊二十一」、「東屋冊二十一」、尾題「東屋抄書終」、「四辻殿公理卿あつまや」。第五二冊、前遊紙一丁、本文七七丁、後遊紙一丁、「うき舟冊二十二」、「浮舟」、尾題「林逸抄浮舟」、「四辻殿公理卿うき舟」。第五三冊、前遊紙一丁、本文八〇丁、「かけろふ冊二十三」、「蜻蛉冊二十三」、尾題「林逸抄蜻蛉」、「西園寺殿公益公かけろふ」。第五四冊、六七丁、「手ならひ冊二十四」、「手習抄冊二十四」、尾題「林逸抄手習」、「四辻殿公理卿手ならひ」。第五五冊、前遊紙一丁、本文一五丁、後遊紙一丁、「夢のうきはし冊二十五」、「夢浮橋冊二十五」、尾題「林逸抄夢のうきはし」、「西園寺殿公益公夢のうきはし」。

○外題、各冊表紙中央に貼題簽（縦一八・〇糎×横四・〇糎）に墨書。詳細は右の通り。内題および尾題、詳細は右の通り。

○序跋等、なし。

○各冊の第一丁に極札（縦一三・〇糎×横二・〇糎、古筆勘兵衛家墨印を押す）貼付。詳細は右の通り。

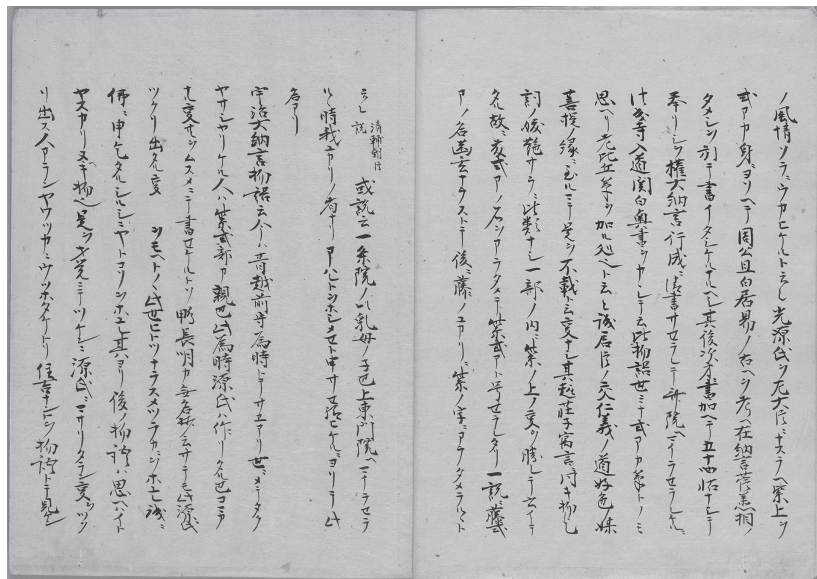
○印記、なし。朱による書入れあり。第五二冊巻末に「方生齋九十九歳写之トアリ」とある。各冊表紙右下に朱書で巻序を記す（一〜五五止）。岡寫偉久子『源氏物語古注集成23林逸抄』解題に紹介される。



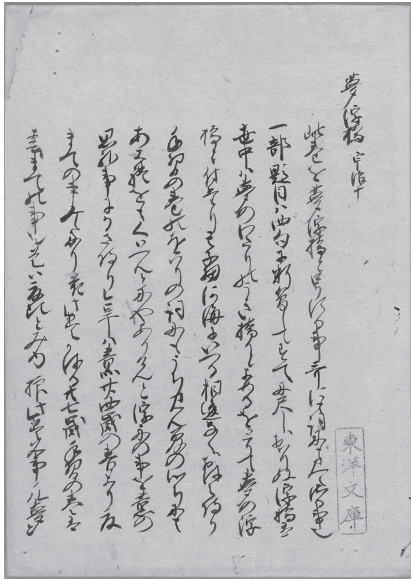
「きりつほ」本文巻頭



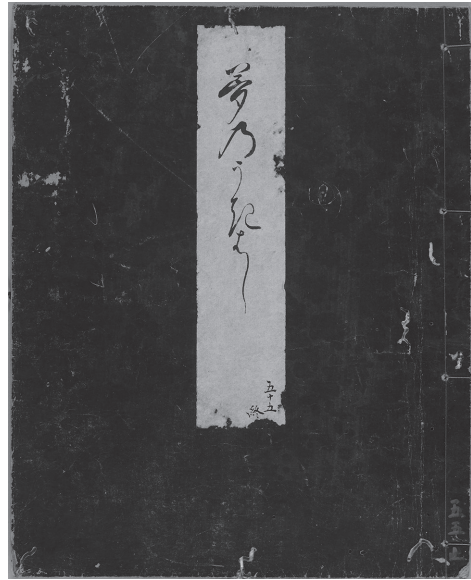
「きりつほ」冊表紙



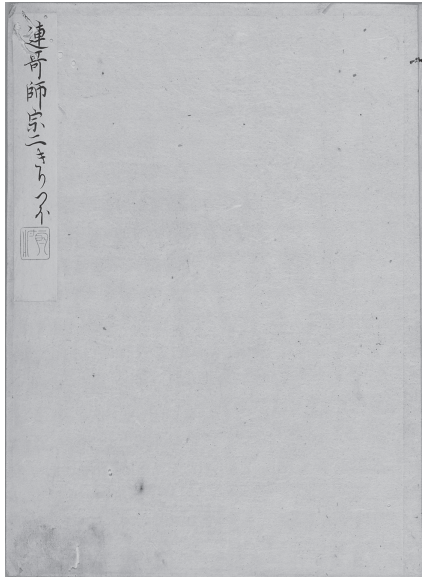
「きりつほ」本文巻頭の続き



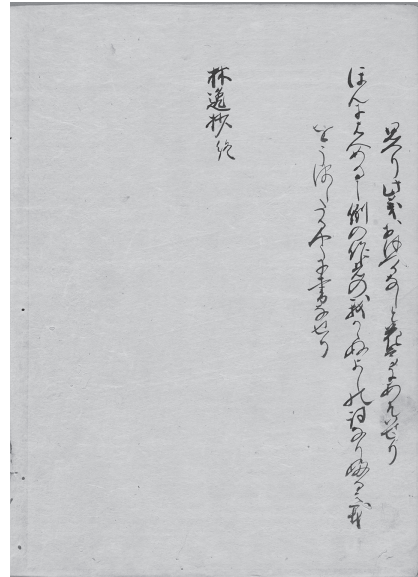
「夢浮橋」本文巻頭



「夢のうきはし」冊表紙



極札



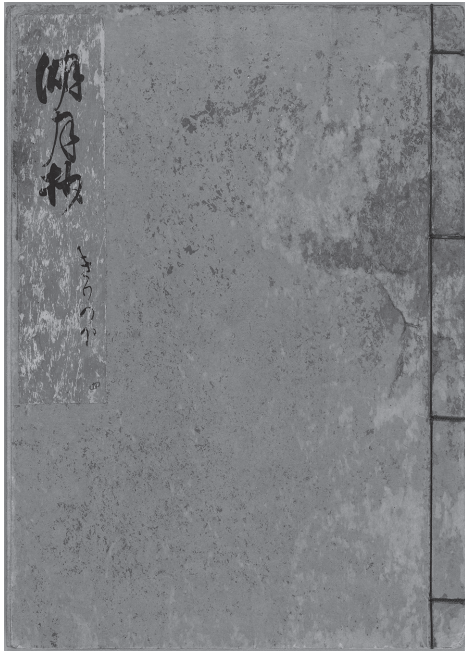
末尾・尾題

第三九冊一〇八丁、「湖月抄^{わか葉上}」、「若菜上」、「若上一（〜百八）」。第四〇冊一一〇丁、「湖月抄^{わか葉下}」、「若菜下」、「若下一（〜百十終）」。第四一冊四五丁、「湖月抄^{柏木}」、「柏木」、「柏一（〜四十五終）」。第四二冊二二丁、「湖月抄^{よこ笛}」、「横笛」、「横一（〜廿一終）」。第四三冊一七丁、「湖月抄^{すゝむし}」、「鈴虫^{繁葉}」、「鈴一（〜十七終）」。第四四冊七八丁、「湖月抄^{夕霧}」、「夕霧」、「夕一（〜七十八終）」。第四五冊二二丁、「湖月抄^{御法}」、「御法」、「法一（廿二終）」。第四六冊二八丁、「湖月抄^{まほろし}」、「幻」、「幻一（〜廿八終）」。第四七冊前遊紙二丁・本文一〇丁・後遊紙なし、「湖月抄^{雲かたれ}」、「雲隱」、「雲一（〜十終）」。第四八冊一七丁、「湖月抄^{句兵衛柳}」、「句宮」、「句一（〜十七終）」。第四九冊一五丁、「湖月抄^{紅梅}」、「紅梅」、「紅一（〜十五終）」。第五〇冊四五丁、「湖月抄^{竹河}」、「竹河^{句宮の許の二}」、「竹一（〜四十五終）」。第五一冊四三丁、「湖月抄^{はし姫}」、「橋姫^{字治}」、「橋一（〜四十三終）」。第五二冊四四丁、「湖月抄^{椎本}」、「椎本^{字治二}」、「椎一（〜四十四終）」。第五三冊九五丁、「湖月抄^{総角}」、「角総」、「角一（〜九十五終）」。第五四冊二二丁、「湖月抄^{さわらび}」、「早蕨^{字治四}」、「早一（〜廿一終）」。第五五冊九九丁、「湖月抄^{宿木}」、「寄生^{字治五}」、「寄一（〜九十九終）」。第五六冊六八丁、「湖月抄^{あつま屋}」、「東屋」、「東一（〜六十八終）」。第五七冊七三丁、「湖月抄^{うき舟}」、「浮舟」、「浮一（〜七十三終）」。第五八冊六〇丁、「湖月抄^{かけらふ}」、「蜻蛉」、「蜻一（〜六十終）」。第五九冊七二丁、「湖月抄^{手習}」、「手習」、「手一（〜七十一終）」。第六〇冊二〇丁・跋二丁、「湖月抄^{夢うき橋}」、「夢浮橋^{名法の師}」。「一（〜廿終）」。

○外題、表紙中央に貼題簽（縦一八・〇糶×三・三糶、雲母にて羊齒文を刷る）に墨書。詳細は右の通り。内題、詳細は右の通り。尾題、第五五冊「湖月抄^{宿木}」。第五六冊「湖月抄^{あつま屋}」。第五七冊「湖月抄^{うき舟}」。第五八冊「湖月抄^{かけらふ}」。第五九冊「湖月抄^{手習}」。第六〇冊「湖月抄^{夢うき橋}」。版心、詳細は右の通り。

○序、なし。第六〇冊に跋、「源氏物語抄出有奥入水原抄以来連篇累牘豈只数十家而已哉就中河海鈔花鳥餘情弄花細流孟津等者尤所宜熟翫而必不可不覽者也雖然簡冊繁多而不暇徧觀而盡識焉今也予所撰湖月鈔欲約其卷編以便于學者因茲勸其出處則取諸河海花鳥考其文意則取諸弄花細流孟津刪其重複摘其精要拔萃而雜記其餘有疑義者更閱諸抄述師說間亦一二管見隨某處而附嗚呼門人小子見此物語者源承相所謂君臣之交仁義之道風雅之媒菩提之縁因此鈔而有知之則庶幾教学之一助云尔／延宝元年冬至日 北村氏季吟／書林 林和泉／村上勘兵衛／尾甚四郎／村上勘左衛門」。

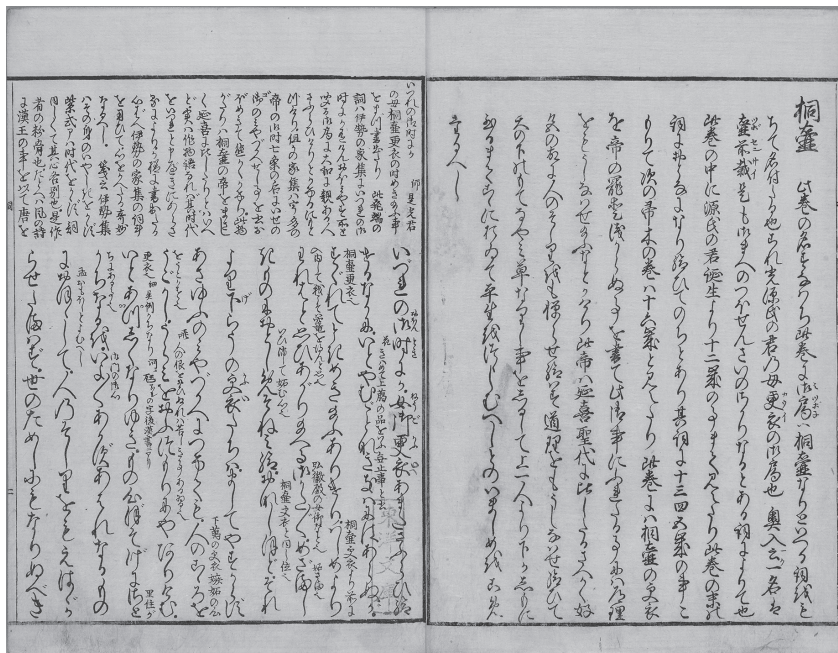
○印記、なし。若干の朱による書き入れあり。細い紙片を本文に貼布した箇所あり。



「きりつほ」冊表紙



「湖月抄發端條目」冊表紙



「桐壺」本文巻頭

源氏物語秘訣并狭衣秘訣 写本 一卷（『伊勢物語奥旨秘訣』と同箱）

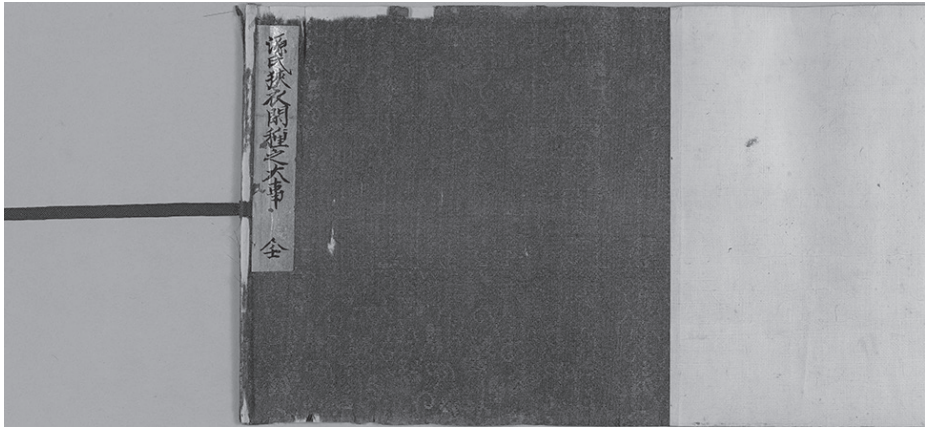
三F a 17

○江戸中期写。深緑色地に牡丹唐草文様緞子表紙。見返し、金銀砂子・霞。卷子装一軸。縦一七・九糎×全長九六五・七糎。料紙、布目鳥の子。

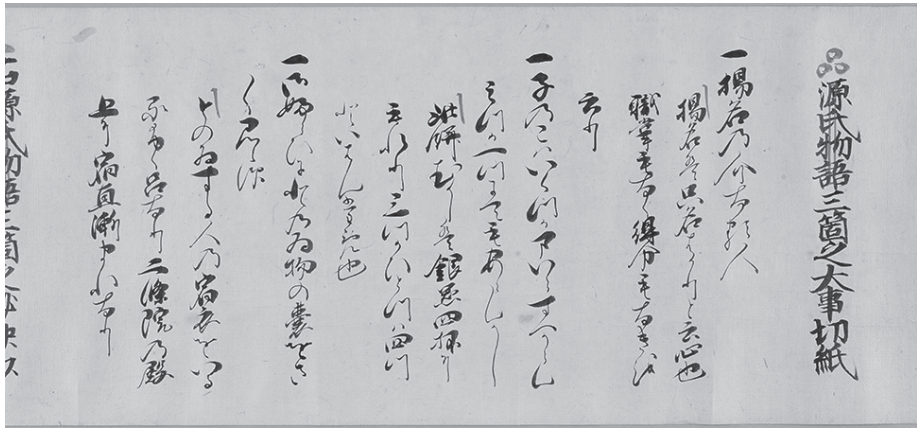
○外題、「源氏狭衣閑種之大事 全」（金砂子題簽、原題簽か）。内題、「源氏物語三箇之大事切紙」。尾題、なし。

○序、なし。奥書、「源氏物語三箇之大事切紙」の奥書「右源氏物語三箇之秘訣以／相伝之正説奉授禪定殿下／訖被守此道之法度全不可／有漏脱者也／権大納言実澄／天正二年／四月二十日」。「又一通之切紙」の奥書「右光源氏物語三箇之大事／之切紙者誠無上極秘也且／又深秘之口訣悉奉授／禪定殿下訖抑紫式部從／覺運僧正伝台宗之奥旨之／後述此物語矣故彼微意至／今的々相承所不斷絶也加／誓約被守此道之法度猥不／可有漏脱者也／権大納言実澄／天正二年／四月二十日」「右之切紙は三条西殿より九条殿へ御伝授之趣也。又九条殿より某奉蒙御相伝者也」。「源氏物語口訣之問書」の奥書はなし。「原語秘訣三箇大事拔書」の奥書は「右就三箇大事他流往々有謬説更以不可為證拠矣不可足信用而已」。「右源氏物語極秘之趣者從／九条禪閣（玖山公）と傍記」以御憐愍之尊志／所奉蒙御伝授也。誠生涯之／大幸加之哉故深雖秘函底／感累年懇切之実悉令相伝／訖如誓盟猥不可漏脱者也／長頭丸／慶安五年／四月六日」「右源氏物語極秘之趣者／從先師貞徳翁所令相伝／也誠無上之正説雖為秘／中之秘年来於此道甚依／懇志授之訖如誓盟非堪／其器者猥不可漏脱者也／長孝／延宝六戊午歳／三月十八日」。「狭衣三箇秘訣切紙」の奥書「右狭衣三箇秘訣切紙者／從 九条禪閣以御憐愍之尊志所奉蒙御伝授／也誠生涯之大幸加之哉／故深雖秘函底感累年懇／切之実悉令相伝訖如誓／盟猥不可漏脱者也／長頭丸／慶安五年／四月六日」「右狭衣三箇秘訣切紙從／先師貞徳翁所令相伝也／誠無上之正説雖為秘中／之秘年来於此道甚依懇／志授之訖如誓盟非堪其／器者猥不可漏脱者也／長孝／延宝六戊午歳／三月十八日」。

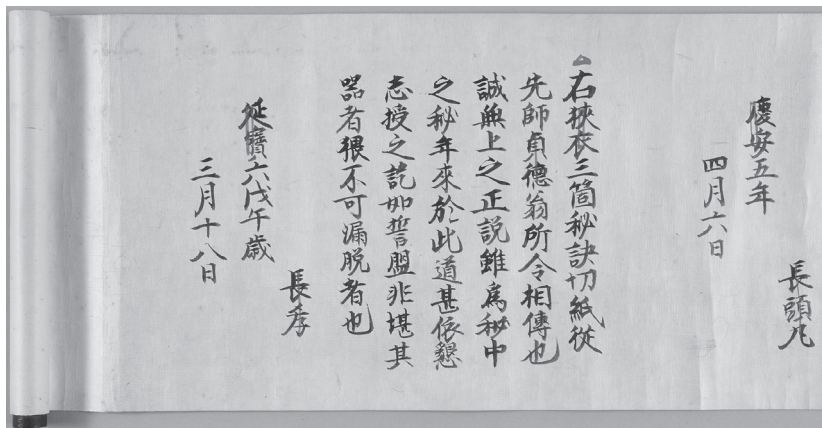
○印記、なし。各項目の「一、」の上に朱の○印などを記す。朱引きあり。



表紙



卷頭



奥書

〔校正訳注〕源氏物語評釈総論、桐壺至花宴 版本 一帙一三冊

VI 2 Da 1007

○文久元年序。萌黄色表紙、雲母引、花鳥蝶文型押。五針袋綴装。縦二六・〇糎×横一八・四糎。双匡郭、縦二一・六糎×横一五・五糎。第一冊、前遊紙一丁、本文四八丁。第二冊四三丁。第三冊三二丁。第四冊、前遊紙一丁、本文四五丁。第五冊五七丁。第六冊三三丁。第七冊六九丁。第八冊一四丁。第九冊五八丁。第一〇冊、前遊紙一丁、本文五七丁。第一一冊、前遊紙一丁、本文四三丁。第一二冊四〇丁。第一三冊、前遊紙一丁、本文一八丁。料紙、楮紙。

○外題、原題簽、表紙左肩に貼題簽(縦一八・六糎×横三・八糎。二重枠)。外題・内題・版心の順に整理して示す。尾題はなし。第一冊「源氏物語評釈 序文 惣論上首上」、「校正譯注源氏物語評釈首卷目錄」、「校正譯注源氏物語評釈首卷」(第一〇丁)、「〇序一(〜八)」、「〇惣論 〇目錄」、「〇惣論 〇一(〜〇卅八)」。

第二冊「源氏物語評釈 惣論下凡例首下」(剥落、本冊に挟み込む)、「惣論ノ下」、「〇惣論 〇四十(〜八十一)」。

第三冊「源氏物語之釋 一」(剥落、本冊に挟み込む)、「源氏物語語釋一之卷」、「〇語釋 〇一(〜三十一)」。

第四冊、題簽剥落、「源氏物語語釋二之卷」(第二丁)、「〇語釋 二ノ端」、「〇語尺若紫 〇二ノ一(三十三終)」。

第五冊「源氏物語餘釋 一」、「校正譯注源氏物語餘釋一之卷目錄」、「〇余尺目 〇一(〜三)」、「〇桐余尺 〇十六」、「〇帚余尺 〇十七(〜卅八)」、「〇空余尺 〇卅九(〜四十二)」、「〇夕余尺 〇四十三(〜五十四)」。

第六冊「源氏物語餘釋 二」、「第一帖 桐壺」、「〇きりつほ 〇端一(〜二)」、「〇きりつほ 〇一(〜三十一終)」。

第七冊「源氏物語評釈 帶本 二」、「第二帖 帚木」、「〇は、き木 端一(〜五)」、「は、き木 〇一(〜六十四終)」。

第八冊「源氏物語評釈 夕顔 三」、「第三帖 空蟬」、「〇うつせみ 〇端一(〜二)」、「〇うつせみ 〇一(〜十二終)」。

第九冊「源氏物語評釈 夕顔 四」、「第四帖 夕顔 評釈」、「〇うつかほ 〇端一(〜二)」、「〇うつかほ 〇一(〜五十六終)」。

第一〇冊、題簽剥落、「第五帖 若紫 評釈」、「〇若むらさき 〇端一(〜二)」、「〇若むらさき 〇一(〜五十五終)」。

第一一冊「源氏物語評釈 末摘花 六」、「第六帖 末摘花 評釈」、「〇末つむ花 〇端一(〜二)」、「〇末つむ花 〇一(〜四十一終)」。

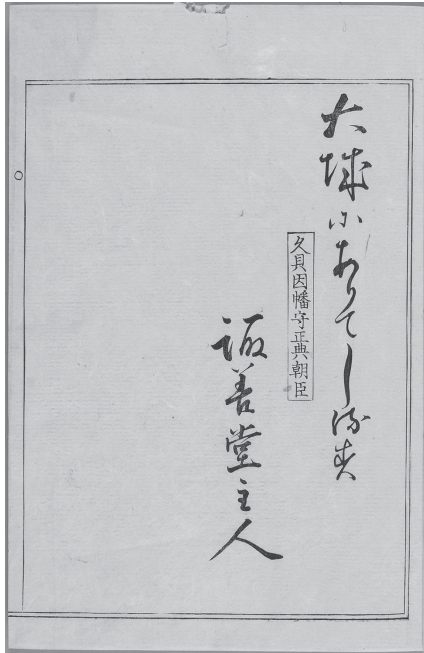
第一二冊「源氏物語評釈 紅葉賀 七」、「第七帖 紅葉賀 評釈」、「〇もみちの賀 〇端一(〜二)」、「〇もみちの賀 〇一(〜卅八終)」。

第一三冊「源氏物語評釈 花宴 八」、「第八帖 花宴 評釈」、「〇花のえん 〇端一(〜二)」、「〇花のえん 〇一(〜十六終)」。

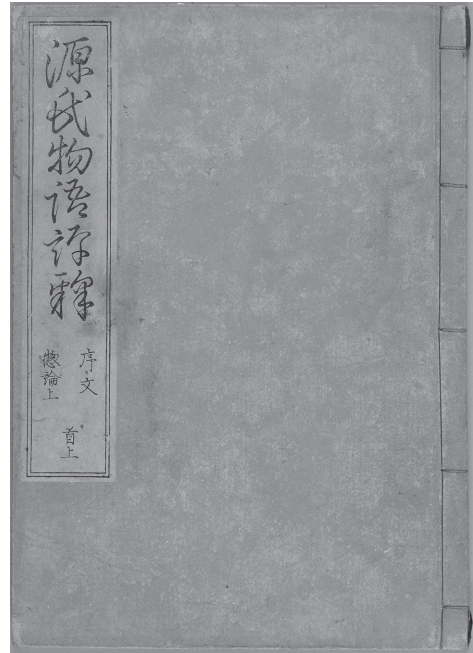
○序「もとありける池山をも便なき所なるをはくつしかへて水のおもむき山のおきてをあらためてつくらせ給へりといひけむ御すまひよりもかう年ころいたつきものして昔人のこゝろをこめてつくりおきたるにもさはあらしとかたふかる、処々はみなりして、後の卅の工匠ともよき斬もて力をいれてけつりなせる長押横あるは闕なとよろしとおもふは残りなくとりつけてつくりかためる此大殿のしつらひよまことに光か、やくはかりにてかの四町をしめたるにもをさくおとるまじうなむあるさはいへとよそめには便なき所のふつになきにはあらしかとは思はれむ猶おほかめれといまおのかうち見るに何事もあかぬ処なくおもふやうなるすまひ也と目驚る、はもはら意の匠のいたりふかき故にそあるへきかのもろこし人か集大成などいひけむことさへおもひいてられていとめてたしや文うつくしうつくりて進士になり給ぬとかいへる大学の君にはあらてこのふみいとなみつくれる廣道かこふま、に繩墨の正しからぬはかなことを筆くひぬらして初雁のきこゆる夕浪速の大城にありてしらす久貝因幡守正典朝臣／諏善堂主人。「むかしの物語ふみの今の卅にのこれるものこれかれおほかる中にこの源氏物かたりはかりめてたきはあらさることよ、の物しり人たちのいひきためられたる事なればいふも更なるもの

からけにやまともろこしいにしへ今ゆくさきにもをさくありかたかるへき書のさまなるにいまのよにしてそのかみのみやひことをまなはんには歌よむにもふみかくにも物のほんとなるへきもこの物語をはなちてはあらざりけりされはしけ山の奥に入り水原のふかきをたつねぞめられしより海河のとほしく花鳥のなきけえならぬなどやんことなき雲の上人たちのおりたちていたつき給へるものとも、いとおほくそれかこのれるをひろひすちときわけし先達にいたるまでいみしくものせられたるちうさくともかそふるにおよひもそこなはれぬはかりなんありけるさるはむらさきのあさからぬゆかりたつねてふかき色香をたとらむともからにむさし野のかきりなき道ふみたかへしめしとのわさなめりかしおのれあけまきなりしほとよりこの物かたりをいたうめてくつかへりつ、あまた、ひよむとはすれとさつきの雨の夜にほと、きすのはつね聞たらむこ、ちのみせられていとたくしきこと、もおほかりしかはむかしよりのちうさくともをあまねく引合せ見くらへていくかへりともなくよむこと年ころになりぬさてなん山のはいつる秋の月をはるかになむるほどにはおほえてさすかに手にはとられぬものからその光のた、ならぬをけにと見おとろくはかりにはなりにたるさはいへとくましくしき所々はおほかりしをなほつらくよみかむかふるにかのちうさくとものもれたるくたりもすくなからすまたそのとかれたること、ものいかにそやうちかたふかる、ふし／＼もあるやうにおほゆれはさる処ことにひとつふたつこ、ろみにかきつけたることを見てしたしきともたちあひかたらひつ、これを巻につ、りなして板にゑらせんといふいかてかおふけなくさることはなといひてかいやりつ、ありけるをまたいとせちにそ、のかされてつひにはいなひあへすかくしとけなくもつくる事とはなりぬさはれよの物識人にとひはかりたることにしもあらずた、おろかなる心ひとつにおもひかまへてものしつるなれはかならずひかことはおほからんかしそれか中にもさはかりつくりぬしの心ふかう物せられたる文の詞ともをさしいて、さたしこ、ろみまたむけなるさとひ言をさなからにもくはへてうつしときたるなどはいとをこかましくかへりては道ふみたかふるまとはしくさともなりてなつかしき色をさへかいけちなんかなとつみさりとこなくおほゆれとた、とくこ、ろえまほしくするをうなわらはへともものしるへはかりにとくはたてつるなれは見ん人さるかたにおもひゆるしてよかし／嘉永七年正月三日／萩原廣道」。第四冊の序、「この六年あまりかほと中風にて手をやみたりければ板下をかく事たにえせず源氏の評譯たえむとする事いとうれはしくかなしかりけりこれによりてさきに彫せつるちうさくをものしてまつかくなん五巻の草紙とはなしたる語釋をも前にせんとおもひしかとはつかはかりのほとなれはついでにこ、にとりそへつ次の巻々よりは人の手にか、しめたれはいたうかはりたるになん／文久のはしめの年なか月／さなからに／廣道／しるす」。刊記、第四冊末「書林／京都寺町通佛光寺 河内屋藤四郎／江戸日本橋通壺丁目須原屋茂兵衛／同式丁目 山城屋佐兵衛／同式丁目 須原屋新兵衛／同南伝馬町壺丁目 山城屋政吉／同下谷御成道 英文蔵／同大伝馬町式丁目 丁子屋平兵衛／同芝神明前 岡田屋嘉七／同 和泉屋吉兵衛／大阪心齋橋筋本町角 河内屋藤兵衛／大阪心齋橋筋博労町角 河内屋茂兵衛版」。第九冊末「嘉永六年癸丑新刻／鹿鳴草舎蔵板」。第一〇冊見返「萩原先生著 二帙五冊／校正譯注源氏物語評釋／鹿鳴草舎塾蔵」。

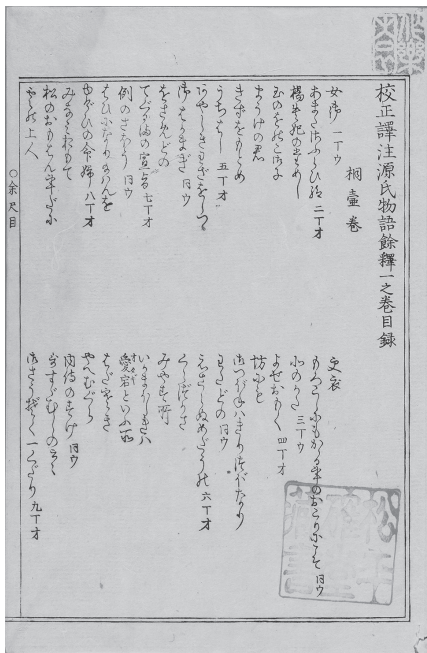
○印記、各冊第一丁中央または右下に朱文陽刻方形印「松平／確堂／蔵書」。第一冊／第五冊巻頭右肩に朱文陰刻方形印「作樂／□（園か）印」。一部（第八冊「中河の家の図」）に朱刷あり。



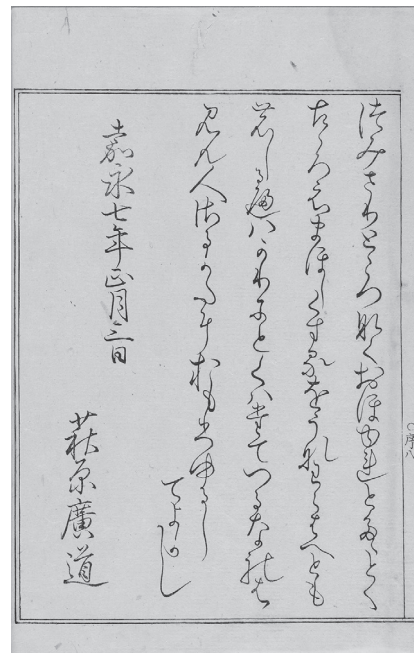
誦善堂主人跋末



第一冊表紙



目録



萩原廣道跋末

源平盛衰記 版本 五帙四九冊

三Faい24

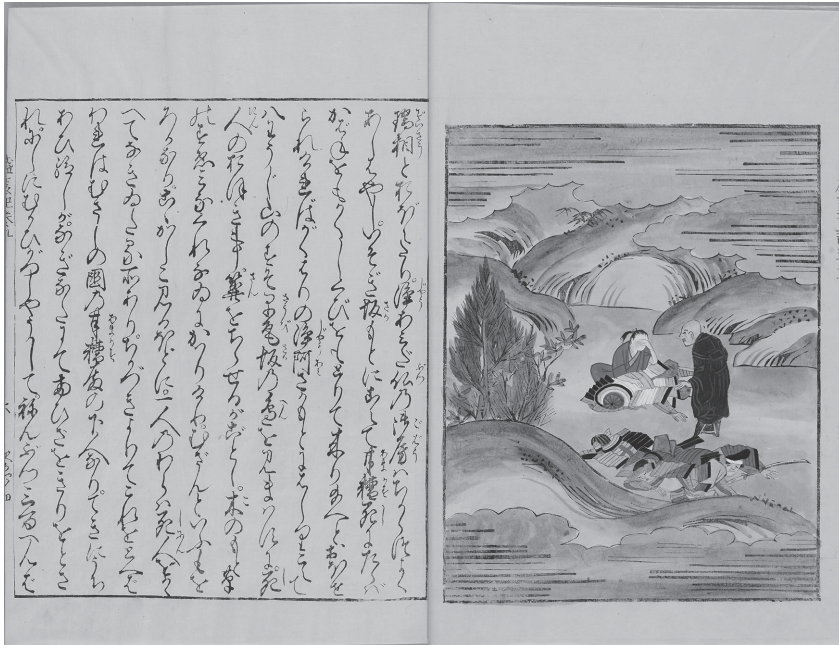
○江戸時代中期刊。浅葱色絹布表紙。五針袋綴装。縦二八・七糎×横二〇・四糎。単匡郭、縦二一・九糎×横一八・九糎。料紙、間合紙。全ての冊に前遊紙一丁、後遊紙一丁。各冊の本文丁数(挿絵の丁数を含む)と挿絵の数については整理して示す。第一冊三二丁、挿絵なし。第二冊三七丁、挿絵八丁一六面。第三冊四三丁、挿絵二二丁二四面。第四冊六〇丁、挿絵一七丁三四面。第五冊六四丁、挿絵一八丁三六面。第六冊五五丁、挿絵二二丁二四面。第七冊五四丁、挿絵二二丁二四面。第八冊五二丁、挿絵一四丁二八面。第九冊四八丁、挿絵二二丁二四面。第一〇冊五七丁、挿絵一四丁二八面。第一一冊五七丁、挿絵一四丁二八面。第一二冊六九丁、挿絵一七丁三四面。第一三冊五二丁、挿絵一三丁二六面。第一四冊四八丁、挿絵一二丁二四面。第一五冊五〇丁、挿絵一三丁二六面。第一六冊五七丁、挿絵一五丁三〇面。第一七冊五〇丁、挿絵一二丁二四面。第一八冊六五丁、挿絵一七丁三四面。第一九冊五四丁、挿絵一二丁二四面。第二〇冊四六丁、挿絵一三丁二六面。第二一冊五一丁、挿絵一四丁二八面。第二二冊三八丁、挿絵一〇丁二〇面。第二三冊四三丁、挿絵一三丁二六面。第二四冊四九丁、挿絵一三丁二六面。第二五冊五〇丁、挿絵一一丁二二面。第二六冊五〇丁、挿絵一四丁二八面。第二七冊五九丁、挿絵一八丁三六面。第二八冊四七丁、挿絵一四丁二八面。第二九冊五六丁、挿絵一七丁三四面。第三〇冊四五丁、挿絵一三丁二六面。第三一冊四六丁、挿絵二二丁二四面。第三二冊四六丁、挿絵一三丁二六面。第三三冊五二丁、挿絵二二丁二四面。第三四冊六五丁、挿絵二〇丁四〇面。第三五冊六三丁、挿絵一六丁三二面。第三六冊七〇丁、挿絵二〇丁四〇面。第三七冊五三丁、挿絵一三丁二六面。第三八冊五六丁、挿絵一五丁三〇面。第三九冊五三丁、挿絵二二丁二四面。第四〇冊五九丁、挿絵一五丁三〇面。第四一冊五八丁、挿絵一六丁三二面。第四二冊五一丁、挿絵一四丁二八面。第四三冊六〇丁、挿絵一七丁三四面。第四四冊五七丁、挿絵一六丁三二面。第四五冊五三丁、挿絵一三丁二六面。第四六冊五八丁、挿絵一五丁三〇面。第四七冊六二丁、挿絵一八丁三六面。第四八冊五〇丁、挿絵一六丁三二面。第四九冊五〇丁、挿絵九丁一八面。

○外題、表紙中央、原題簽、金の題簽に墨書、第一冊「源平盛衰記 目錄」、第二冊「源平盛衰記 一(一四十八)」内題、第一冊「源平盛衰記第一卷」(目錄の冒頭)、第二冊「源平盛衰記第一目錄(一四十八)」(一四十八)」。第二冊本文冒頭内題「源平盛衰記以卷第一」、以下の各冊は「以」の箇所「呂・波・爾・保……」とイロハを示す文字が入り、第四八冊本文冒頭内題「源平盛衰記須卷第四十八」、第四九冊本文冒頭内題「源平盛衰記卷第四十八」。尾題、第一冊なし、第二冊「源平盛衰記第一終(一四十八終)」、第二九冊なし、第三〇冊「源平盛衰記卷第二十九終(一四十八終)」、第四九冊なし。版心、第一冊「盛

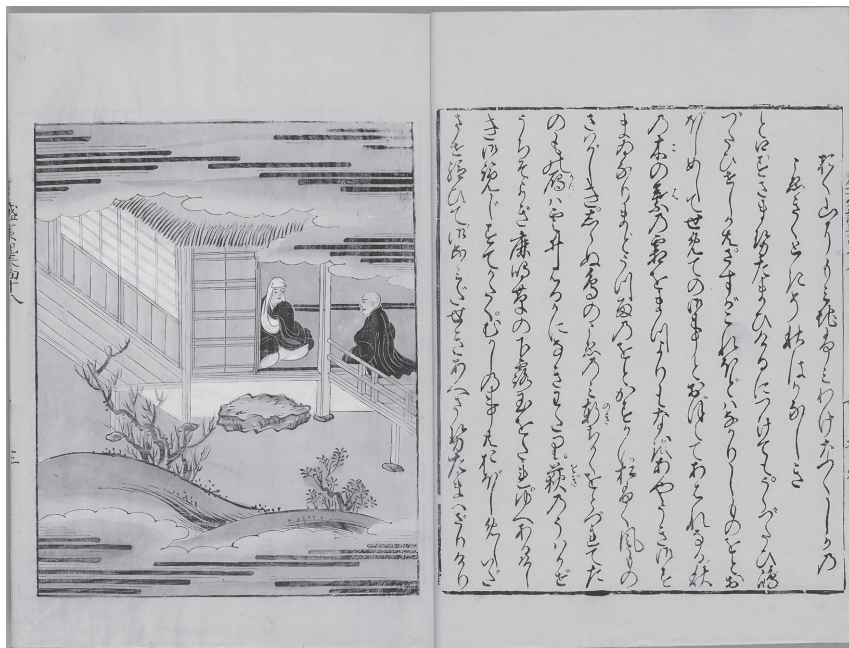
衰記惣目録 一（〜卅二終）、第二冊「盛衰卷一 目録（一〜廿八終）」、ただし、挿絵の丁の丁付は「せいすい巻一 一」（第二冊第三丁）のように本文の丁数とは別個に数えられており、以下第四九冊まで同様。挿絵の丁の版心の書名に当たる箇所は「せいすい」「せいすいき」「盛衰」「盛衰記」と多様。また、挿絵の丁の直前の本文の丁の版心下部には「次々ノ一」のように挿し絵が入ることが示されている。挿絵の数は右に述べた通り。

○序跋等、なし。刊記、なし。

○印記、なし。挿絵は全て極彩色の手彩色。



本文・挿絵



本文・挿絵

古今著聞集 版本 一帙二〇冊

VII 2 D b 7

○明和七年刊。縹色布目地表紙。四針袋綴装。縦二・三糎×横一・五・八糎。単匡郭、縦一・六・四糎×横二・二・八糎。丁数、第一冊、二七・五丁。第二冊、四六・五丁。第三冊、一七丁。第四冊、二〇丁。第五冊、六七丁。第六冊、四三・五丁。第七冊、一四・五丁。第八冊、三三丁。第九冊、二〇丁。第一〇冊、三〇丁。第一一冊、三〇丁。第一二冊、三五・五丁。第一三冊、二二丁。第一四冊、一〇丁。第一五冊、二六・五丁。第一六冊、五六丁。第一七冊、二六・五丁。第一八冊、一九・五丁。第一九冊、二三・五丁。第二〇冊、四七丁。料紙、楮紙。

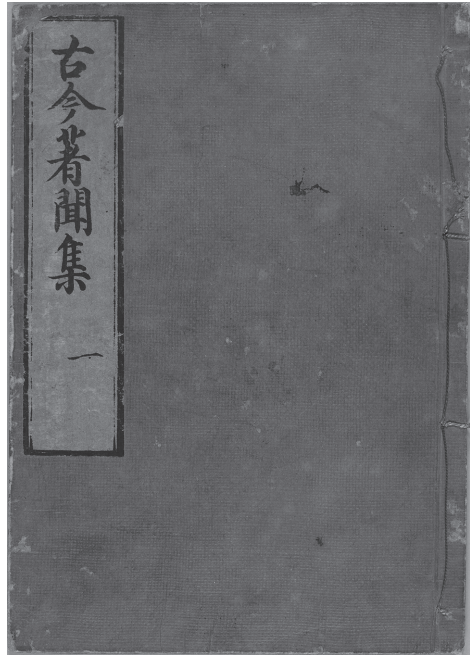
○外題、原題簽、表紙左肩に子持ち枠のある刷り題簽を用いて「古今著聞集 一（〜二十）」。内題、「古今著聞集序」（序題）、「古今著聞集惣目録」（目録題）、「古今著聞集卷第一（〜卷第二十）」。尾題、「古今著聞集卷之一終（〜卷之二十終）」。版心、以下、絵のある丁が又丁付。第一冊「古今序 〇一」、「古今卷一 〇二（〜八、八、〜二十七）」。第二冊「古今卷二 〇一（又二、二〜五、又五、六〜十四、又十四、十五〜四十四終）」。第三冊「古今卷三 〇一（二〜三、又三、四〜十二、又十二、十三〜十五終）」。第四冊「古今卷四 〇一（〜三、又三、四〜十五、又十五、十六〜十八終）」。第五冊「古今卷五 〇一（丁付なし、三〜八、又八、九〜十八、又十八、十九〜二十五、又二十五、二十六〜六十四終）」。第六冊「古今卷六 〇一（〜六、又六、七〜十、又十、十一〜二十、又二十、二十一〜二十六、又廿六、二十七〜四十終）」。第七冊「古今卷七 〇一（〜四、又四、五〜八、十、九、十一〜十四終）」。第八冊「古今卷八 〇一（〜七、又七、八〜十九、又十九、二十〜三十終）」。第九冊「古今卷九 〇一（〜九、又九、十〜十四、又十四、十五〜十八）」。第一〇冊「古今卷十 〇一（又一、二〜十一、又十一、十二〜十七、又十七、十八〜二十五、又二十五、二十六終）」。第一一冊「古今卷十一 〇一（〜三、又三、四〜十、又十、十一〜二十五、又廿五、二十六〜二十七終）」。第一二冊「古今卷十二 〇一（二、又二、三〜四、又四、五〜八、八、九〜十八、又十八、十九〜三十二）」。第一三冊「古今卷十三 〇一（〜四、又四、五〜十二、又十二、十三〜十九終）」。第一四冊「古今卷十四 〇一（三、二、四、又四、五〜九終）」。第一五冊「古今卷十五 〇一（二、又二、三〜七、又七、八〜二十一、又廿一、二十二〜二十四）」。第一六冊「古今卷十六 〇一（二、又二、三〜八、又八、九〜五十四）」。第一七冊「古今卷十七 〇一（〜七、又七、八〜二十三、又廿三、二十四〜二十五）」。第一八冊「古今卷十八 〇一（〜七、又七、八〜十、又十、十一〜十八）」。第一九冊「古今卷十九 〇一（〜四、又四、五〜十一、又十一、十二〜十五、又十五、十六〜二十二）」。第二〇冊「古今卷二十 〇一（〜二、又二、三〜四、又四、五〜八、又八、九、又九、十〜三十一、又三十一、三十二〜四十一、四十二終）」。

○序、「…于時建長六年應鐘中旬散木十橋南哀愁課小童猥叙大較而已」。識語、「建長六年十月十七日宴後朝右筆／記之當時棟雲片々青風漠々
滿籬／之殘菊黃紫交色引砌之小泉鴛鴦／雙翅閉庭之物足動我情者也／曆應二年十月十八日染六句之老筆／終二十帖之写功畢且為休當時之
徒／然且為備後日才學也可秘藏々々／老栞門 在判」。刊記、「元祿三庚午年正月開板／明和七庚寅年三月求板／大坂書林 心齋橋筋順慶
町 柏原屋清右衛門／同 河内屋茂八」（再版の際の入れ刊記のため、「元祿三年」の行の直前から匡郭にずれあり）。

○印記、各冊第一丁目と最終丁に正方陽刻朱印「苦亭臧」。第一、二、六、七、二二、一五、一七、一八、一九の冊は最終丁が丁の表面で終わり、
最終丁がそのまま裏見返しとなっている。第三、四、五、八、九、一〇、一一、一三、一四、一六、二〇の冊は最終丁が丁の裏面で終わるため、裏
見返し（楮紙）あり。第六冊には書き入れ少しあり。各冊の下の小口に「古今著聞集 一（〜廿）」と細字で墨書。帙の中央に「古今著
聞集 二〇卷 二〇冊」と墨書した題簽を付す。

古今著聞集序
 夫著聞集者、宇縣亞相巧語之遺類、江東都督清談之餘波也。余稟芳禰之種、顧瓌棧之標、質而琵琶者、賢師之所傳也。儻辨六律六呂之調、圖畫者、愚性之所好也。儻自養、下日一狀之心、於戲春、鶯之嘯、花下秋、鴈之叫、月前暗、感幽曲之易、和風流之隨地、勢品物之叶天、為悉憶、教筆之可、寫繇茲、或伴伶、客潛樂、治世之雅音、或託畫工、略呈、振古之勝槩、蓋居多、暇景、以降閑。

序



表紙

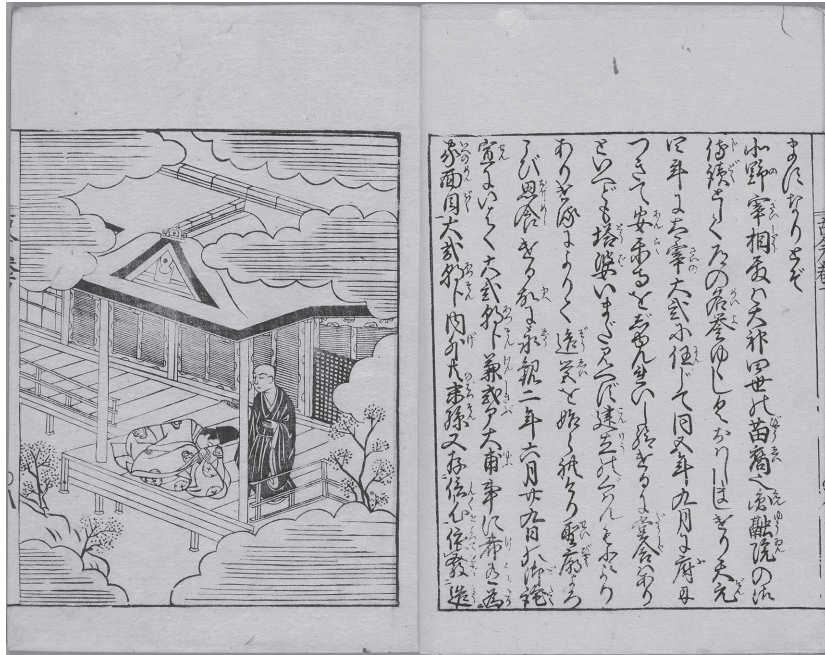
古今著聞集卷第一
 神祇第一
 天地いよこころれを、渾沌雞子のごとくそのと、免海のあかひと、え天とをり、あまのつらたに、と、あほりく、比とを、海と死と、天地のどうん、目と、川ののり、あり、か、ち、草、牙、ぬ、く、を、れ、く、ら、死、て、神、と、の、國、常、立、考、あ、ま、り、り、それ、より、このく、天、神、七、代、比、神、八、代、より、彦、波、瀲、武、鸚、鷗、草、實、不、合、尊、れ、四、子、神、哉、天、皇、より、そ、人、代、より、あり、よ、ま、心、の、ゆ、く、に、成、ふ、れ、と、九、月、お、く、先、く

卷頭本文

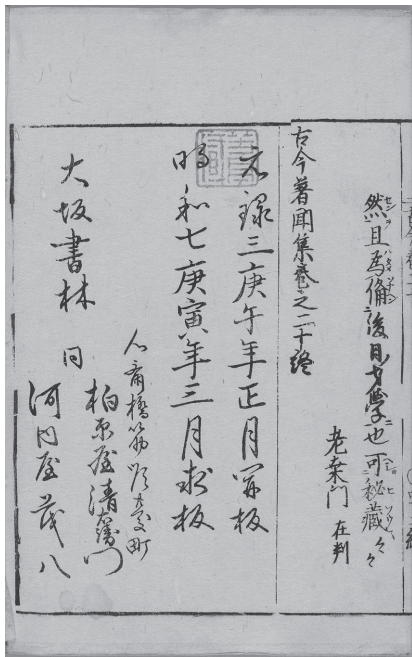
古今著聞集惣目録

卷一 神祇	才一
卷二 教	才二
卷三 政道	才三
因 公刺	才四
卷四 文字	才五
卷五 和奇	才六
卷六 管絃舞	才七
卷七 雜書	才八
因 樹道	才九

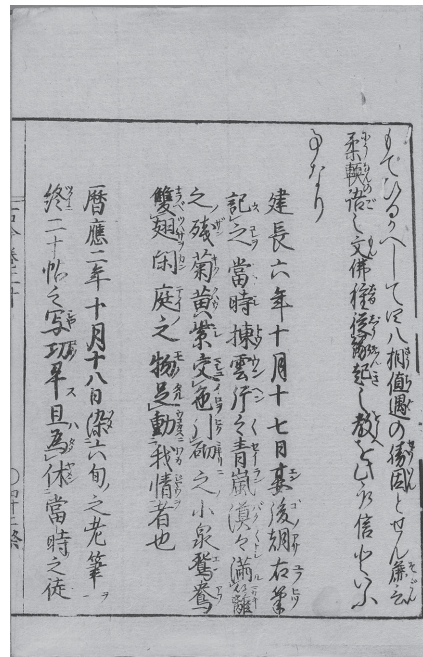
惣目録



本文・挿絵



識語末・刊記



識語

古今著聞集 写本 一帙二〇冊

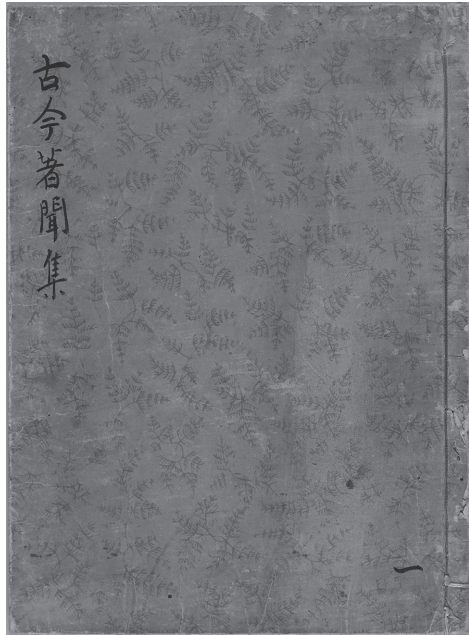
三F a i 11

○江戸中期写か。香色無地信夫散らし表紙。四針袋綴装。縦二・七糎×横一六・六糎。丁数、第一冊二九丁、第二冊五一丁、第三冊二一丁、第四冊二四丁、第五冊六四丁、第六冊五〇丁、第七冊一七丁、第八冊三五丁、第九冊二二丁、第一〇冊二九丁、第一一冊二九丁、第一二冊三三丁、第一三冊一九丁、第一四冊八丁、第一五冊二六丁、第一六冊六〇丁、第一七冊二八丁、第一八冊一七丁、第一九冊二二丁、第二〇冊四五丁。料紙、楮紙。

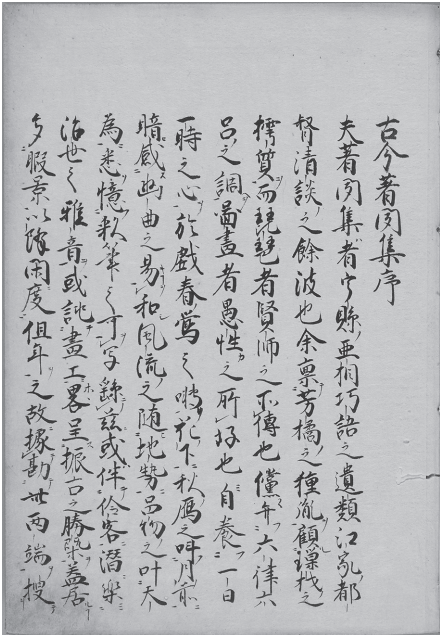
○外題、第一冊目だけ左肩に「古今著聞集」と墨書直書。以下の冊は外題なし、題簽の剥離痕もなし。表紙右下に「二」（十九、廿止）と墨書直書。内題、「古今著聞集卷第一（卷第二十）」（巻頭題）、「古今著聞集序」（序題）。尾題、なし。

○序、「于時建長六年應鐘中旬散木土橋南袁ニ課テ小量ニ猥シ叙ス大較ヲ而已」。奥書、「曆應二年十月十八日染六句之老筆／終廿帖之写功了且為休當時之徒然／且為備後日之才覚也可秘藏／老葉門判」。

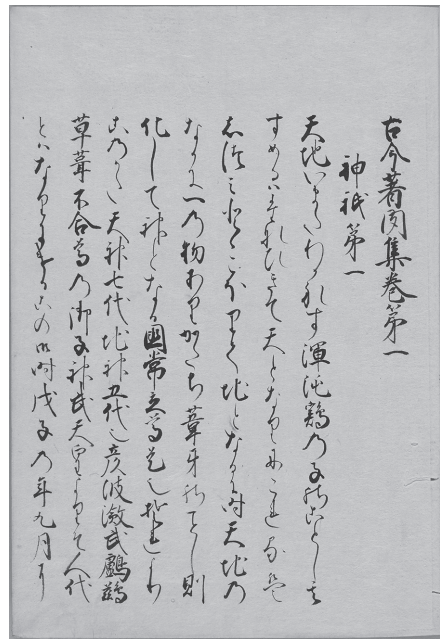
○印記、なし。



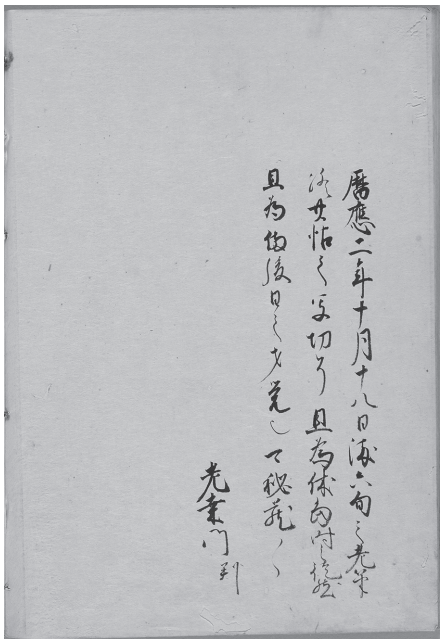
表紙



序



巻頭本文



裏書

○寛文一三年写。縹色花文二重亀甲繫艶出表紙。四針袋綴装。縦二六・八糎×横一九・四糎。丁数、第一冊、前遊紙一丁、本文五七丁。第二冊、前遊紙一丁、本文二九・五丁。第三冊、前遊紙二丁、本文八〇・五丁、第四冊、前遊紙一丁、本文三七・五丁。第五冊、前遊紙一丁、本文三九丁。第六冊、前遊紙一丁、本文五四丁。第七冊、前遊紙一丁、本文四四丁。第八冊、前遊紙一丁、本文四六丁。第九冊、前遊紙一丁、本文三五丁。第一〇冊、前遊紙一丁、本文五二丁。料紙、楮斐混ぜ漉き。

○外題、原題簽。表紙左肩に菊唐草文様の下絵入り橙色の題簽を用いて「古今著聞集 一（〜九、十終）」と墨書。内題、「古今著聞集序」（序題）、「古今著聞集卷第一（卷第二〜卷第十八、〇十九、卷第二十）」（卷頭題）。尾題、なし。帙、紺色帙の左肩に香色題簽を貼付し「古今著聞集 古寫本」と墨書。

○序、例言、「于時建長六年應鐘中旬散木士橘南袁懋課小量猥叙大較而已」。奥書、「曆應二年十月十八日染六句之老筆終廿帖之写功畢且為休當時之徒然且為備後日才学也可秘藏〳〵老葉門在判」。本文とは別筆にて以下の奥書がある。「凡讀書者拘事則暗理專理則疎事何況泥文字言句者乎哉雖然不著意於文字則事理舛差而不可爲人之教誨于茲著聞集者橘成季朝臣之所以撰述而示模範於往時遺鑑戒於後世可謂奇寶也秋野本順英彦使人謄寫以爲家藏不才借之看閱歷月只恨文字言句之脫落英彦請予參考於是覓得一本略歸是正猶未滿意是歲之春登洛乞得飛鳥井〳〵亞相君雅章卿之秘本考檢再三墨以補闕朱以正訛且分句讀頗擬證本容易不可抹過想夫校書如風葉塵埃隨掃隨有疑者暫俟〳〵它日於是乎跋〳〵寛文十有三載龍輯癸丑秋八月十八日抄禿筆于浪華城西之存心軒如松子福住道祐」。

○印記、各冊卷頭題の下方に正方陽刻朱印「木邨正辭圖書」、正方陽刻朱印「由順之印」。各冊最終丁左下に円型陽刻朱印「由順」、円型梓付正方陰刻朱印「小野院」、正方陽刻墨印「由順之印」。第一〇冊の奥書「凡讀書者」の末尾「如松子福住道祐」に以下三つの方型陰刻朱印あり、「福住」「嘉」「道祐」（福住道祐の蔵書印）。朱引、朱筆句点、墨筆訂正、朱筆異本注記、縹色不審紙、章段のはじめに鈎点あり。

○享保五年刊。表紙、第一冊～第一〇冊は紺色地に橙色の塗料を引いたもの、第十一冊～第二〇冊は黒地に同様。四針袋綴装。縦二二・一糎×横一五・六糎。単匡郭、縦一八・三糎×横一三・一糎。丁数、第一冊三二丁（倭部一）、第二冊一九丁（倭部二）、第三冊四一丁（倭部三）は二丁～二二丁、倭部四は二三丁～四二丁）、第四冊三九丁（倭部五は二丁～二二丁、倭部六は二三丁～三九丁）、第五冊二八丁（倭部七は一～一五丁、倭部八は一六～二八丁）、第六冊四二丁（倭部九は二丁～二二丁、倭部十は二三丁～四二丁）、第七冊三四丁（倭部十一は二丁～一七丁、倭部十二は一八丁～三四丁）、第八冊二四丁（倭部十三）、第九冊二七丁（倭部十四）、第一〇冊二八丁（倭部十五）（以上、第二帙）。第一一冊二〇丁（倭部十六）、第二二冊二六丁（倭部十七は二丁～三三丁、倭部十八は一四丁～二六丁）、第一三冊三〇丁（倭部十九は二丁～一五丁、倭部二十は一六丁～三〇丁）、第一四冊二八丁（倭部二十一は一丁～一三丁、倭部二十二は一四丁～二八丁）、第一五冊一八丁（倭部二十三）、第二六冊一七丁（倭部二十四）、第一七冊一七丁（倭部二十五）、第一八冊一七丁（倭部二十六）、第一九冊二九丁（倭部二十七は一丁～一五丁、倭部二十八は一六丁～二九丁）第二〇冊三四丁（倭部二十九は一丁～一五丁、倭部三十は一六丁～三四丁）（以上、第二帙）。料紙、楮紙。

○外題、原題簽、表紙左肩に双匡郭のある題簽紙を用いて、第一冊から第一〇冊までは「和朝／今昔物語 卷之一／世俗部（～卷之十／世俗部）」、第一一冊から第一四冊までは「和朝／今昔物語 後編一／悪行部（～後編四／悪行部）」、第一五冊から第一八冊までは「和朝／今昔物語 後編五／宿報部（～後編八／宿報部）」、第一九冊・第二〇冊は「和朝／今昔物語 後編九／佛報部（後編十／佛報部）」、「和朝」の部分は丸枠で囲まれる。内題は、第一冊「今昔物語」（見返し）、「考訂今昔物語叙」（序題）、「考訂今昔物語凡例」（凡例の題）、「今昔物語全部六十卷」（全体の目録題）、目録題は、第一冊から第一〇冊まで「今昔物語／〈倭部〉／一目録（～一五目録）」、第一一冊から第一四冊まで「今昔物語／〈倭部〉／十六目録 後編一（～二十二目録 後編七）」、第一五冊から第一八冊まで「今昔物語／〈倭部〉／二十三目録 後編八（～二十六目録 後編十一）」、第一九冊から第二〇冊まで「今昔物語／〈倭部〉／二十七目録 後編十二（～三十目録 後編十五）」。巻頭題は、第一冊から第二〇冊まで「今昔物語／〈倭部〉／一（～十五）」、第一一冊・第二二冊が「今昔物語／〈倭部〉／一六 此卷悉載盜賊之事跡」「今昔物語／〈倭部〉／一七 此卷悉載盜賊之事跡」、第二三～二〇冊が「今昔物語／〈倭部〉／一八（～三十）」。尾題は、「今昔物語一（～十五、十六～十八、十九終、二十は最終丁ウラを見返しに貼付する、二十一～二十九、三十和部終）」。版心、第一冊「今昔物語○和朝卷一 ○一（〇二～卅二） 柳枝軒藏版」、「柳枝軒藏版」とあるのは第一丁のみ。小口書きあり、「今昔

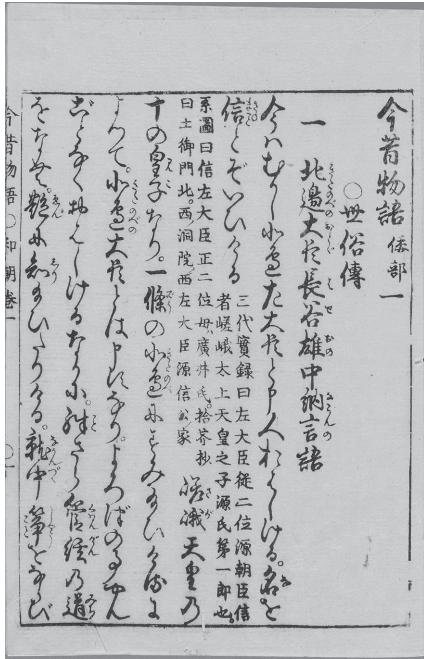
物語一（二十）」。

○第一冊に序、「享保五年五月朔日／肥後隈本 井澤節長秀、見返し「宇治大納言源隆國卿撰／井澤先生考訂纂註／今昔物語／和朝部前編十五卷／京師 書林柳枝軒新鐫」。刊記、第一冊末に「平安六角通御幸町西入町／享保五庚子年孟春穀旦／柳枝軒茨城多左衛門壽櫻」。

第一一冊に扉「後編／今昔物語／和朝部前編十五卷嚮出之／今從十六之卷至卅之卷梓行」。

第一一冊（後編一）扉裏に識語「宇治大納言隆國卿編集今昔物語／和朝部卅卷井澤先生校正之十五卷嚮／刊行弘世今十五卷嗣出全部成卷末附三隆國卿家譜是亦蟠竜子引古書所考出也／別天然震旦両部俟他日校正可印行也／于時享保十七壬子歲冬至之日書林柳枝軒識」。

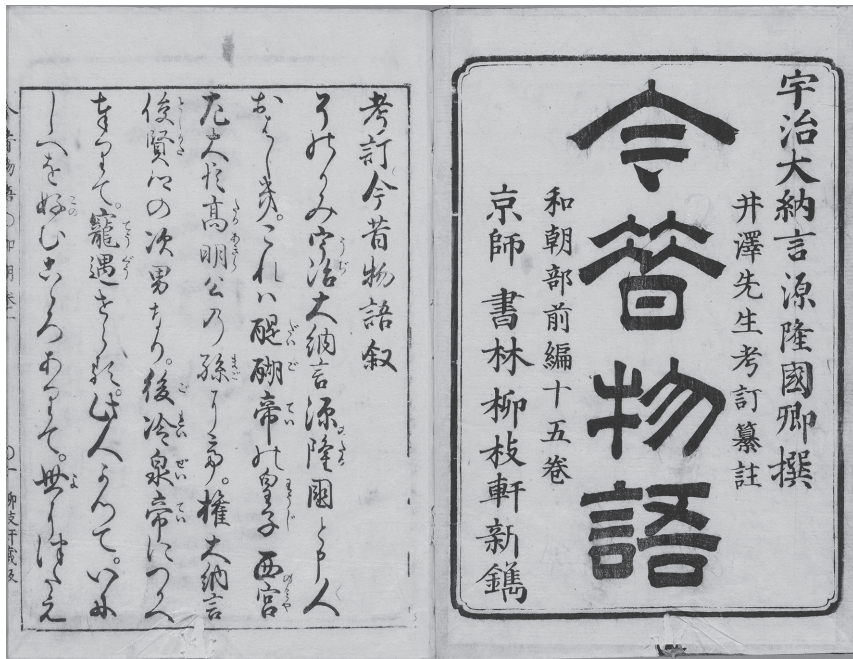
○印記、なし。第二〇冊三三三四丁は「大坂書林森本文金堂藏板目錄（心齋橋唐物町）河内屋太助」として広告を載せる。



本文冒頭



表紙



見返し・叙

大坂書林森本文金堂藏板目錄	必齋補書物町	河内屋太助
五經	通卷	金十册
同新刻改定	金十册	七才子詩集
同中井	金十册	同掌故
同再校音注	全十册	同註解
同林家刻	先生校註	同國字解
小雲樓	稿八段排印	同七律解
祖徠集	詩文尺牘	同三解
金華文集	平子和先生著	同澤說
女七才詩集	小本	同七子傳

廣告

後編

今昔物語

和朝部前編十五卷嚮出之
今從十六之卷至卅之卷梓行

後編扉

今昔物語 十六日録

○ 惡行部 盜賊

- 一 西市藏入盜人語
- 二 強盜保輔被擄捕死于獄中語
- 三 強盜入藤原為之家奪女語
- 四 強盜擄僧奪布施物語
- 五 多衰丸調伏九語
- 六 放免等欲盜財被捕語
- 七 入藤大夫家盜賊所擄捕語
- 八 阿弥陀聖殺人宿其家所殺語

後編

宇治大納言隆國卿編集今昔物語
和朝部卅卷并澤先生校正之十五卷嚮
刊行弘世今十五卷嗣出全部成卷末附
隆國卿家譜是亦幡庵子引古書所考出也
別天竺震旦兩部俟他日校正可印行也
于時享保十七壬子歲冬至之日書林柳枝軒識

後編扉裏・目錄

○江戸末期写。弘化四年～嘉永三年にかけての校合奥書あり。薄茶色・横刷毛目模様。四針袋綴装。縦二七・五糎×横一八九糎。各冊の丁数・外題・識語について整理して示す。第一冊五二丁、原題簽の上に紙を貼り「今昔物語一 天竺」（島原本標題臨）と薄朱で傍書」と墨書。見返しに、「土本 九行 原埒氏本（土佐守殿本也 水野 仮名分書多シ ト云）と傍書」。「是本原高田与清トイフ人校シケル也」〔卷廿七十三条二名アリ〕其ハイカナル本ニヨリテ校合シケルトモ不記ノ尤籙大ナル校合也 埒本〔則土州本〕トハ同シカラヌ所アリ島原本ニ似タリ。「島原本（松平主殿頭殿）「卷一原朱校アリ」と傍書」ノ庚戌校（元禄中蔵本傳）と傍書 十行假名分書与本行交ノ。同第一丁オに「初校 再校 土本 島原本 三校 シマ本」と朱書。同最終丁ウに「嘉永三年正月廿二日三校了 島原本ノ弘化四年六月五日一校了ノ同 十月十三日再校了 土集本 眞清」と朱書。第二冊二九丁、原題簽の上に紙を貼り「今昔物語 天竺（一古本卷名无」と朱書）と墨書。見返しに目録を補した貼紙あり。その貼紙最終行に「右補 眞清 天保十亥年 再以土本校「弘化四十四也」と朱書。また同見返しに「水土州本目六但如一之卷二昏廿五行 島本目六无」と朱書。同最終丁ウに「嘉永三年正月廿六日 以島原本三校了ノ弘化四年六月七日一校了ノ十月十四日再校 眞清」と朱書。第三冊四二丁、原題簽の上に紙を貼り「今昔物語 天竺（三古本卷名无」と朱書）と墨書。最終丁ウに「以島原本本ノ嘉永三年正月既盡日三校畢ノ弘化四年六月八日校了 眞清ノ全年 十月十五日再校了土州本」と朱書。第四冊四三丁、双郭題簽に「今昔物語集 四」と墨書。最終丁ウに「全 十月十五日再校也土本ノ弘化四年六月八日一校了 眞清」。第五冊四四丁、原題簽の上に紙を貼り「今昔物語 五 天竺 付 佛法五」と墨書。最終丁ウに「島原本嘉永三年正月卅日三校了及二月二日ノ全 十月十七日令再校了ノ弘化四年六月九日令校了 槃（原の下に水）眞清」。第六冊四二丁、表紙には「六」とのみ墨書。表紙に島原本についての備忘の貼紙あり、「今昔物語二十二冊」と墨書され、箱の絵および次の如き朱書による注記あり。「島原本箱桐如図百余年ノ体ノ可見又書名如右二十二冊トあればノ元来コノ本は不足ト見ユノ久敬云此書ヲ被愛シ守卒後既得ノ百五十余年云」。また近代の挟紙四点あり、以下のように朱書される。「与清本卷卅一ニ同ジ「弘化四年山川真清校本ノ本明寺古写本ニ拠ル」ノ与清本黒川本卷六ニ同ジ」ノ与清本卷十八ノ目次同ジ 大系本ハ欠卷」ノ与清本欠卷 八 廿一 廿三 大系本ニアリ 山川本ニアリ」。最終丁ウに「以島原家蔵本嘉永三年二月廿二日三校了ノ全 十月十八日再校了ノ弘化四年六月十二日令校了ノ眞清」。第七冊四三丁、双郭題簽に「今昔物語集 七 八關」と墨書。最終丁ウに「弘化四六十七一校了 眞清ノ全年十八再校了ノ嘉永三二廿三三校畢」と朱書。第八冊五二丁、双郭原題簽に「□□ 九」と墨書、その上に紙を貼り「今昔物語集 九震旦 付孝養 九」と墨書。最終丁ウに「以島原

家本／嘉永三年二月廿七日三校了／全 十廿一再校了／弘化四六十八令校了 眞清」同裏見返しに「島原家本以嘉永二年冬十一月校始先本朝部／三年正二月天竺震旦部卒業二月廿七於／八葉屈閑居記之畢（花押）」。第九冊四二丁、双郭の原題簽に「今昔物語集 十」と墨書。最終丁ウに「以島原本／嘉永三年如月廿一日校合了（第三度」と傍書）／全年十月廿一日淋雨之日／令再校了／弘化四六十九一校了眞清」。第一〇冊五二丁、双郭の原題簽に「今昔物語集 十一」と墨書。見返しに「此卷雇書手麁惡後見人不用源意也」同最終丁ウに「弘化四年五（六）を見せ消ち」月廿九日校了／全 十月廿四日以土州本令再校了／眞清／嘉永二年十二月朔日二日借島原侯藏本／三校了而此卷候更本骨折とと于／時望夜為二更煩晴手龜辛苦とと」。第一一冊八四丁、原題簽の上に紙を貼り「今昔物語集 十二本朝 付佛法 十二（起塔 乃至 法花僉」と朱書）」と墨書。最終丁ウに「弘化四年四月廿八日校合句読等了 眞清／以丹鶴本 全年十月廿四日再校畢／借島原本 嘉永二年臘月朔日三校了」。第一二冊七二丁、原題簽の上に紙を貼り「今昔物語集 十三本朝 付佛法（法花」と朱書）」と墨書。裏見返しに「弘化四年十月廿五日令再校了 眞清／嘉永二十一年廿八校島原本／又法華驗記」。第一三冊七三丁、原題簽の上に紙を貼り「今昔物語集 十四本朝 付佛法（諸経」と朱書）」と墨書。最終丁ウに「弘化四年十月廿六日令再校了（花押）／借島原本／嘉永二年十一月廿七日三校了」。第一四冊六九丁、原題簽の上に紙を貼り「今昔物語集 十五本朝 付佛法（往生」と朱書）」と墨書。裏見返しに「弘化四五七句読了 眞清／水野土佐守殿本―全年十廿六燈火令再校了／以島原侯本三校了―嘉永二十一年廿四（五）を見せ消ち」燈火窓衆了 寒風龜手 不配之書」。第一五冊八四丁、原題簽の上に紙を貼り「今昔物語集 十六本朝 付佛法（觀世音」と朱書）」と墨書。裏見返しに「島原本三校了 嘉永二十一年廿六寒強龜手／弘化四と廿四一校了 眞清／全 十廿八令再校了」。第一六冊三六丁、原題簽の上に紙を貼り「今昔物語集 十七本朝 付佛法（地藏 諸菩薩天」と朱書）」と墨書。裏見返しに「島原家本并法華驗記灵異記等／嘉永二年臘月五日三校了／弘化四五八一校了 眞清／再 全 十廿九曉寅「与利」始「天」及辰／一卷校了」。第一七冊五七丁、原題簽の上に紙を貼り「今昔物語集 十九本朝 付佛法（出家」と朱書）」と墨書。裏見返しに「弘化四五十令一校了并句読嘉永二年臘月七日三校了 今日咳日平不龜／全年十廿九令再校了」。第一八冊五三丁、原題簽の上に紙を貼り「今昔物語集 二十本朝 付佛法 二十（魔以下」と朱書）」と墨書。最終丁ウに「弘化四五十一校了并句読等／眞清／全 三十再校了／島原家本／嘉永二年臘月十六日 三校了」。第一九冊二二丁、原題簽の上に紙を貼り「□□物語 本朝 世俗 廿二」と墨書。裏見返しに「以為相卿眞筆本一校了／弘化四年四月五日 山川眞清／島原本校了／嘉永二年臘月廿三日立春日也」。第二〇冊三二丁、双郭の原題簽に「□□物語集 二十二 廿三欠」と墨書。最終丁ウに「弘四五十二一校了／眞清／全 三十燈火再校了」。第二一冊四六丁、原題簽の上に紙を貼り「□

□物語 二十四本朝 付世俗 廿四」と墨書。見返しに「嘉永二年臘月末より／三年正月元日校了／鳥原本／弘化四五十七八令校了／全十一四再校了」。第二三冊三〇丁、原題簽の上に紙を貼り「今昔物語 二十五本朝 付世俗 廿五」と墨書。見返しに「弘化五十九令一校了 眞清／全 十一四再校畢／糟カフ艱中也／嘉永二年十二月晦日及二更／第五条マテ校之鳥原本／三年正月三日了 眞清／同四年本妙寺為相卿本校了／本妙寺日善上人「卷廿五云此本」為家卿真跡云」とあり、更に「同四年」の箇所「是千種三位殿御説云」と注する。第二三冊四二丁、原題簽の上に紙を貼り「今昔物語 二十六本朝 付 宿報 廿六」と墨書。見返しに「弘化四年五月廿一日一校了 眞清／全 十一月五日令再校了／嘉永三年三校了」。第二四冊四二丁、原題簽の上に紙を貼り「今昔物語 二十七本朝 付 靈鬼 二十七」と墨書。見返しに「弘化四五月廿二校了眞清／全 十一五燈下再校 土州本／嘉永三正十八三校 鳥原本」。第二五冊四八丁、双郭の原題簽に墨書「今昔物語集」、題簽下部に「廿八」と墨書される貼紙。最終丁ウに「為相卿自筆本／弘化四と月九日一校了／土州本／全 十一月八日再校了」。第二六冊九二丁、双郭の原題簽に墨書「今昔物語集」、題簽下部に「廿九」と墨書される貼紙。最終丁ウに「弘化四年四月十日与為相卿自筆本／令一校了 山川眞清／同裏見返しに「全 十一月九日再校了」。第二七冊九〇丁、双郭の原題簽に墨書「今昔物語集」、題簽下部に「三十」と墨書される貼紙。見返しに「弘化四五廿六了 眞清／全 十一九再校了」。第二八冊六九丁。双郭の原題簽に墨書「今昔物語集 三十一止」。見返しに「此卷土本善シ 鳥原本此卷ナシ／本妙寺本校合嘉永三三廿五本文傍假名小ニワリテ書ク」、同最終丁ウに「右卷三十一於本妙寺藏本（古写本希世珍本也」と傍書）令再校畢／嘉永三年三月廿六日於八丁堀寓居 眞清識／同 六年丹雀叢書本「自廿二卷至卅二」再々校之於六軒堀寓居、同裏見返しに「右今昔物語集、依為奇書乞需大久保氏忠寄主之／於藏本書寫、始于八月十二日至十二月三日日數／百九日而、功成了、／天明二壬寅年十二月三日」と墨書、「三十一本中八 十八 廿三 不足 廿七本「是中残欠有之別記之」／此本天保末之比於通町須原屋店買之或云高田与清「藏書家也」／校本也云云／弘化四年夏冬兩度校之／以上左守殿家本「原稿本也」／山川鼎源齋子／十一月十日校畢珎重々々」。料紙、楮紙。朱による書き入れ多し。

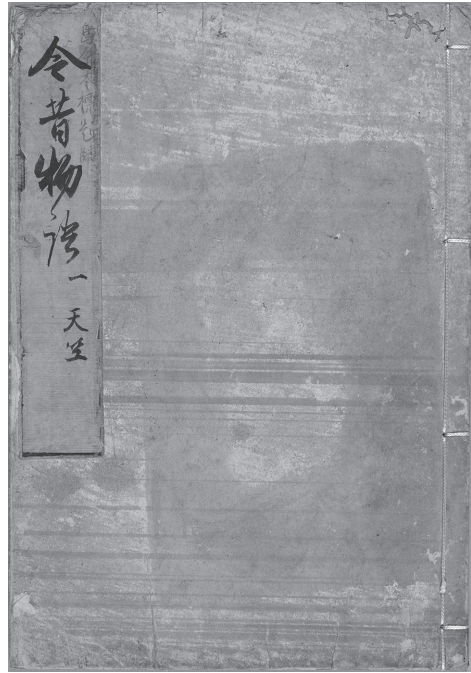
○外題、各冊には表紙左上に双郭の刷られた書き題簽が貼られ、その上に更に書題簽が貼られている（冊によっては書題簽の下にもとの題簽が見える）。冊によってはもとの題簽をそのまま使うものもあり。詳細は右の通り。内題は、「今昔物語集 卷第一（〜卅一）」。

○各冊に識語あり。詳細は右の通り。

○印記、なし。

釋迦如來人曼宿給語第一
 今昔釋迦如來未少佛三不成給時八叙迦菩薩下申天兜率天ノ
 内院ト云耶在給八而彌浮提二下生レト思レ時ニ五歳ヲ現ハ給
 フ且五裏ト云ニ二天ノ眼ヲ事先ニ眼ノ以テ二天ノ頭上ニ
 懸ハ懸事先ニ事又ニ二天ノ衣ニ座ヲ事先ニ座指テ受テ四三
 八天ノ汗ハ事先ニ腸下ヨリ汗出キ又五ニ天ノ我ノ本ノ座ヲ不替
 十三本ノ座ヲ不替ニ當レ所ニ居又其時ニ諸ノ天ノ菩薩ノ相見レテ
 云ク我等今日此ノ相ヲ現シ給テ見テ身動キ心迷願ク我等ノ
 爲ニ此ノ政ヲ宣ハ給テ菩薩諸天答テ眞分當ニ知レ諸行ハ皆
 不常ズト云事ヲ我今不レテ此天宮ノ捨爾浮提ニ生レト云此
 ヲ聞テ諸ノ天人數ク事不愚又此菩薩爾浮提ノ中ニ主分ニ誰ノ
 カ父レ誰ヲカ母トモト思レテ見給テ此羅漢國ノ淨飯王ヲ父ト

卷頭本文



表紙

右今昔物語集依為奇書乞需大久保氏忠寄主之
 於藏本書寫始干八月十二日至十二月三日日數
 百九日而功成、
 天明二壬寅年十二月三日
 三本中 八十八 三本不足 北七本 是中紙久有之
 此本天保末之江村通町源原屋店買之或云高田貞清藏書
 校本也云云 和化四年夏冬高茂校之 山川鼎源藏本
 以上院宇藏本 十月初十日校半珠重々々

第 28 冊末識語

此本三卷三冊有之
 弘化四年六月五日校
 十月三日再校 寺前本
 鳥居本
 眞清

第 1 冊末識語

続古事談 写本 一帙三冊

三F a i 3

○寛文八年写。浅葱色雷文繫地牡丹唐草型押表紙。保護表紙。原表紙は本文共紙表紙、楮紙。五針袋綴装。縦二七・一糎×横一九・六糎。第一冊は前遊紙一丁、本文六二丁。第二冊は前遊紙一丁、本文二六丁。第三冊は前遊紙一丁、本文四九丁。各冊の原表紙右端に「墨付六十貳張」（第一冊）、「貳拾六張」（第二冊）、「四拾九張」と墨書直書き、実際の墨付丁数とも一致している。料紙、斐楮混漉き紙。

○外題、保護表紙中央に「續古事談 一之二」「續古事談 三（四）をミセケチ」「續古事談 四五」と打ち付け書。原表紙には左肩に「續古事談 一二（四、五六）と打ち付け書。内題、第一冊には「續古事談第一 王道 后宮」、「續古事談第二 臣節 三卷不足可尋之」。第二冊には「續古事談第四（上に一・五糎四方の紙を貼付し「三」と墨書） 神社 佛事」。第三冊には「續古事談第五（上に一・五糎四方の紙を貼付し「四」と墨書） 諸道」、「續古事談第六（上に一・五糎四方の紙を貼付し「五」と墨書） 漢朝」。尾題、なし。藍色帙の左肩に香色の題簽を用いて「續古事談／松下見林自筆本／全」と墨書。

○序、なし。奥書、第三冊最終丁に「寛文八年春三月書寫之／秀明」。

○印記、各冊墨付一丁目右下に長方形陰刻朱印「□□藏書」、長方形陽刻朱印「蘭渚室圖書記」（中山蘭渚旧藏）。第三冊最終丁書写奥書の署名「秀明」の下に正方形陽刻朱印「松下見林」。松下見林（一六三七～一七〇三）は『異称日本伝』などの著作がある国学者。秀明は見林の名。赤、青色不審紙あり。行間に勘物の書き入れあり。参考文献、中善寺慎「東洋文庫所蔵本に押捺された蔵書印について（八）―医家・本草家の蔵書印―」（『東洋文庫書報』第四二号）。

狭衣 写本 一帙八冊

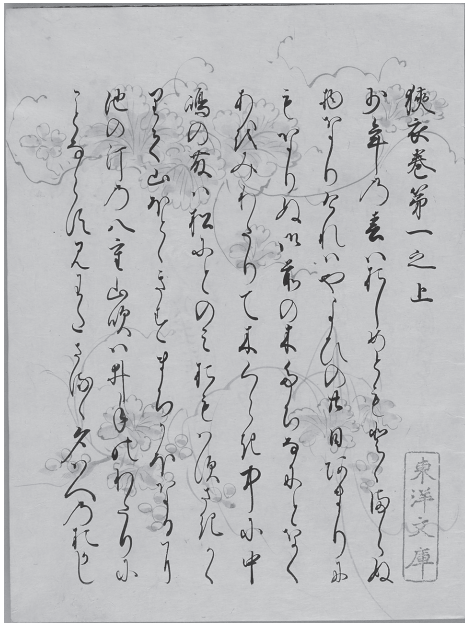
三F a i 30

○江戸中期写か。紺地金泥金砂子金切箔雲霞水辺草花図表紙。見返しは四花菱雷文繋ぎの金紙。第二冊後ろ見返し金の紙は剥離。この冊は表紙裏の反故はなし。列帖装。縦二三・〇糎×横一七・二糎。第一冊「さころも一之上」前遊紙一丁、本文七六丁、後遊紙一丁、四折。第二冊「さころも一之下」前遊紙一丁、本文六四丁、後遊紙二丁、四折。第三冊「さころも二之上」前遊紙一丁、本文六七丁、後遊紙三丁、四折。第四冊「さころも二之下」前遊紙一丁、本文九一丁、後遊紙〇丁、五折。第五冊「さころも三之上」前遊紙一丁、本文一〇一丁、後遊紙なし、五折。第六冊「さころも三之下」前遊紙一丁、本文一〇六丁、後遊紙二丁、六折。第七冊「さころも四之上」前遊紙一丁、本文一三五丁、後遊紙二丁、七折。第八冊「さころも四之下」前遊紙一丁、本文九〇丁、後遊紙三丁、五折。料紙、金泥草花下絵入り斐紙。

○外題、原題簽、表紙左肩に苔色金泥下絵入り題簽を用いて以下の題を墨書。第一冊「さころも 一之上」、第二冊「さころも 一之下」、第三冊「さころも 二之上」、第四冊「さころも 二之下」、第五冊「さころも 三之上」、第六冊「さころも 三之下」、第七冊「さころも 四之上」、第八冊「さころも 四之下」。内題、各冊墨付第一丁に「狭衣卷第一之上（一之下、二之上、二之下、三之上、三之下、四之上、四之下）」尾題、第一冊にはなし、第二冊「狭衣卷第一之下終」、第三冊「狭衣卷第二之上終」、第四冊「狭衣卷第二之下終」、第五冊「狭衣卷第三之上終」、第六冊「狭衣卷第三之下終」、第七冊「狭衣卷第四之上終」、第八冊「狭衣卷第四之下終」。

○序跋等、なし。

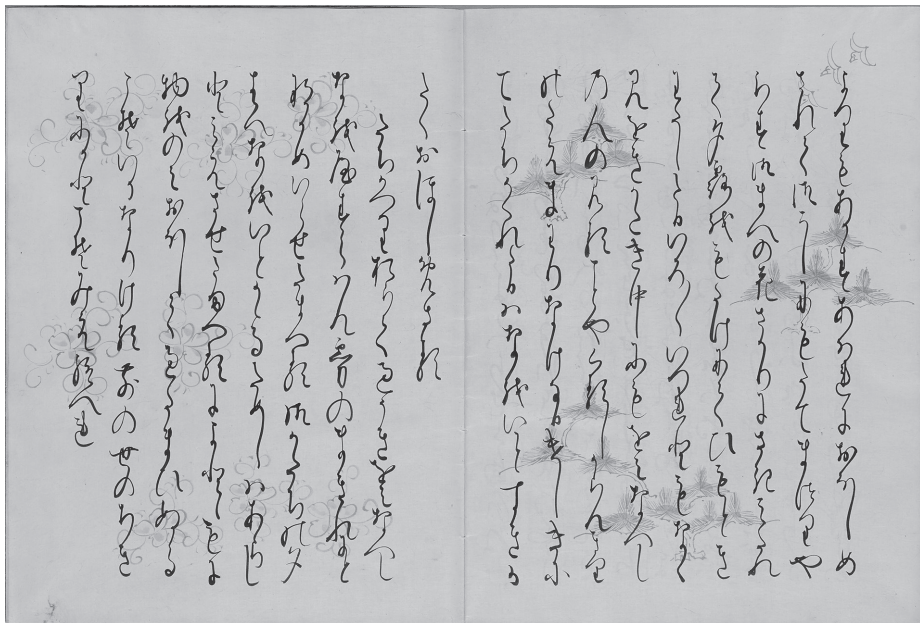
○印記、なし。第七、八冊の表紙裏に版本（漢文）の反故紙の字面が見える。嫁入り本として製作されたものか。料紙は美麗な下絵入りの重みのある斐紙だが、本文はごくたまに訂正して書き直したところがあり、そこは字面が汚れている。帙は琉璃紺色の被蓋箱式の帙の左肩に香色題簽を付し「佐古露母」と墨書。



巻頭本文



表紙



本文

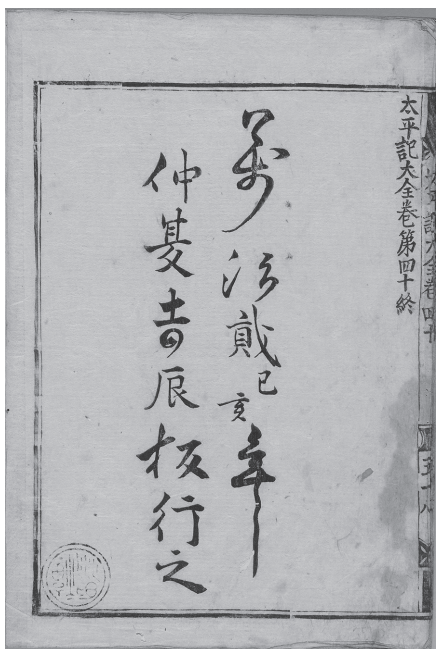
○万治二年刊。藍色無地表紙(間似合紙か)。五針袋綴装。縦二七・〇糎×横一九・五糎。双匡郭、縦二一・六糎×横一六・二糎。各冊の丁数・外題(題簽が破れたり欠損している箇所は「」で示す)・内題・尾題について整理して示す。第一冊四九丁、題簽剥離、「劔卷」、「太平記大全劔卷終」。第二冊八三丁、題簽剥離「太平記大全卷第一」、「太平記大全卷第一終」。第三冊七四丁、「」全二、「太平記卷第二」、「太平記大全卷第二終」。第四冊五九丁、「太平記大全 三」、「太平記卷第三」、「太平記大全卷第三終」。第五冊六二丁、「太平記大全 四」、「太平記卷第四」、「太平記大全卷第四終」。第六冊四五丁、「太平記大全 「」」、「太平記卷第五」、「太平記大全卷第五終」。第七冊七三丁、「太平記大全 「」」、「太平記卷第六」、「太平記大全卷第六終」(以上第一帙)。第八冊八四丁、「太平記大全 七」、「太平記卷第七」、「太平記大全卷第七終」。第九冊一〇三丁、「太平記大全 八」、「太平記卷第八」、「太平記大全卷第八終」。第一〇冊一〇〇丁、「」記大全 九」、「太平記卷第九」、「太平記大全卷第九終」。第一一冊六七丁、「太平記大全 十上」、「太平記卷第十」、尾題なし。第一二冊六〇丁、「太平記大全 十」、卷頭題なし、「太平記大全卷第十終」。第一三冊六六丁、「太平記大全 十一」、「太平記卷第十一」、「太平記大全卷第十一終」(以上第二帙)。第一四冊一一二丁、「太平記大全 十二」、「太平記卷第十二」、「太平記大全卷第十二終」。第一五冊九二丁、「太平記大全 十三」、「太平記卷第十三」、「太平記大全卷第十三終」。第一六冊六六丁、「太平記大全 十四上」、太平記卷第十四、尾題なし。第一七冊八五丁、「太平記大全 十四下」、卷頭題なし、「太平記大全卷十四終」。第一八冊九九丁、「太平記大全 「」五」、「太平記卷第十五」、「太平記大全卷第十五終」(以上第三帙)。第一九冊八六丁、「太平記大全 十六上」、「太平記卷第十六」、尾題なし。第二〇冊七一丁、「太平記大全 十六下」、卷頭題なし、「太平記大全卷第十六終」。第二一冊九七丁、「太平記大全 十七上」、「太平記卷第十七」、「太平記大全卷第十七上終」。第二二冊五六丁、「太平記大全 十七下」、卷頭題なし、「太平記大全卷第十七下終」。第二三冊一一七丁、「太平記大全 十八」、「太平記卷第十八」、「太平記大全卷第十八終」。第二四冊八九丁、「」平記大全 十九、「大平記卷第十九」、「太平記大全卷第十九終」(以上第四帙)。第二五冊七五丁、「太平記大全 廿」、「太平記卷第二十」、「太平記大全卷第二十終」。第二六冊一〇〇丁、「太平記大全 廿一」、「太平記卷第二十一」、「太平記大全卷第二十一終」。第二七冊六〇丁、「太平記大全 廿二」、「太平記卷第二十二」、「太平記大全卷第二十二終」。第二八冊三九丁、「太平記大全 廿三」、「太平記卷第二十三」、「太平記大全卷第二十三終」。第二九冊三五丁、「太平記大全 廿四上」、「太平記卷第二十四」、尾題なし。第三〇冊九三丁、「太平記大全 「」四下」、卷頭題なし、「太平記大全卷第二十四終」。第三一冊九六丁、「太平記大全 廿五」、「太平記卷第二十五」、「太平記大全卷第二十五終」(以上第五帙)。第

三二冊八〇丁、「太平記大全 卅六上」、「太平記卷第二十六」、尾題なし。第三三冊七九丁、「太平記大全 卅六下」、巻頭題なし、「太平記大全卷第二十六終」。第三四冊七七丁、「太平記大全 卅七」、「太平記卷第二十七」、「太平記大全卷第二十七終」。第三五冊七四丁、「太平記大全 卅八」、「太平記卷第二十八」、「太平記大全卷第二十八終」。第三六冊九三丁、「太平記大全 卅九」、「太平記卷第二十九」、「太平記大全卷第二十九終」。第三七冊九二丁、「太平記大全 卅」、「太平記卷第三十」、「太平記大全卷第三十終」（以上第六帙）。第三八冊八八丁、「太平記大全 卅一」、「太平記卷第三十一」、「太平記大全卷第三十一」。第三九冊九三丁、「太平記大全 卅二」、「太平記卷第三十二」、「太平記大全卷第三十二終」。第四〇冊五三丁、「太平記大全 卅三上」、「太平記卷第三十三」、尾題なし。第四一冊七六丁、「太平記大全 卅三下」、巻頭題なし、「太平記大全卷第三十三終」。第四二冊八六丁、「太平記大全 卅三」、「太平記卷第三十四」、尾題なし。第四三冊三八丁、「太平記大全 卅五上」、「太平記卷第三十五」、尾題なし。第四四冊九八丁、「太平記大全 卅五下」、巻頭題なし、「太平記大全卷第三十五終」（以上第七帙）。第四五冊八六丁、「太平記大全 卅六」、「太平記卷第三十六」、「太平記大全卷第三十六終」。第四六冊七三丁、「太平記大全 卅七」、「太平記卷第三十七」、「太平記大全卷第三十七終」。第四七冊一〇五丁、「太平記大全 卅八」、「太平記卷第三十八」、「太平記大全卷第三十八終」。第四八冊五三丁、「太平記大全 卅九上」、「太平記卷第三十九」、尾題なし。第四九冊六七丁、「太平記大全 卅九下」、巻頭題なし、「太平記大全卷第三十九終」。第五〇冊五七丁（丁付では五八丁。第二六丁欠）、「太平記大全 四十」、「太平記大全卷第四十終」、「太平記大全卷第四十終」（以上第八帙）。料紙、楮紙。

○外題は各冊表紙左肩の子持ち枠の原題簽、詳細は右の通り。内題、詳細は右の通り。尾題、詳細は右の通り。

○序跋等、なし。刊記、第五〇冊最終丁ウラに「萬治貳（己）亥年／仲夏吉辰板行之」。

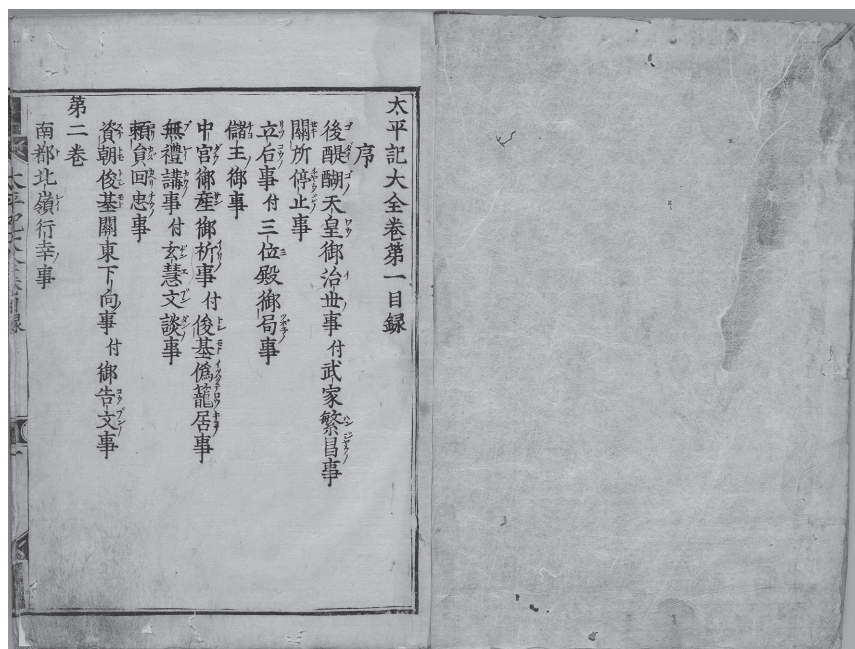
○印記なし。第一冊総目録末尾に「本惣四十九冊（但シ）劔之巻共二ハ全部五十冊」と墨筆で書き入れあり。第二五冊の表紙に「久保田／太平記大全卷之二十／久保田氏蔵」と墨書直書き。第三六、三七冊の前見返し（表紙から剥離してある）に縦一五糎ほどくりぬいたように料紙が欠損している。印記か識語があったものが除かれた痕か。第一九冊の後ろ見返しにあたる一丁（裏表紙から剥離）の袋のなかに細かいひもがある。



刊記



表紙



卷第一目錄

法皇御葬禮事

第四十卷

中殿御會事

左馬頭基氏遊去事

南禪寺與三井寺准執事

最勝講之時及圖詩事

將軍薨逝事

細川右馬頭自西國上洛事

太平記大全總目錄終

廿九冊之卷八 全初五十冊

劔卷

祇公者傳貴坊之舊鐵切白蛇之靈傳天帝... 者九判軒之也... 劔之術保位之基也... 劔之由來... 劔之由來... 劔之由來...

惣目錄末・卷頭本文



○中殿御會事
●鈔日○後白河法皇御遊事 ○法皇八歲宛三年二月十三日二膳御ナリ貞治六年二月八百七十六年ニア
○海レル代ノ音ハ娑 ○禮記第十一卷樂記云治世之音安以樂其政和亂世之音怨以怒其政乖云云詩序モコレニ同之
○此殿馬ノ破席田馬ノ劔 ○田ノ歌ノ樂ナリ破トハ
○舊殿樂ノ破
○伊勢海 ○雀馬樂ノ律ノ歌ノ内ナリ
○三臺急 ○三臺下云モアリ庶人三臺ト云モアリ
○玉笙ノ聲ノ中ニハ鳳馬來儀 ○神傳傳上云王子登壇
○吹笙依鳳馬鳴越伊洛聞進士淳安公接之上嵩山也二
上尚書云鳳凰來儀云云殊ノ樂ヲ九奏ニタレハ鳳凰

本文・挿絵

竹取物語 写本 一箱三冊

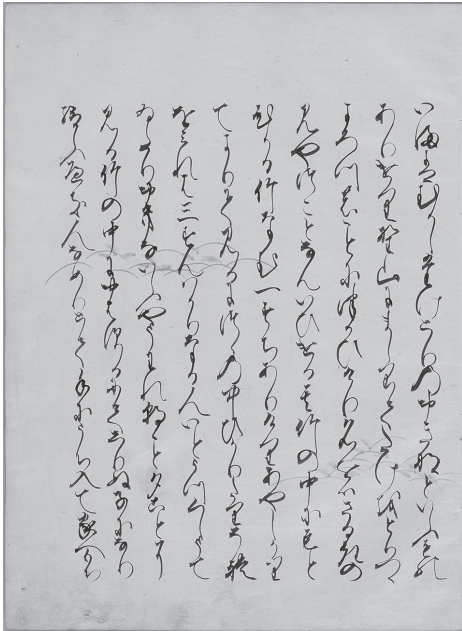
三F a 20

○江戸前期写か。薄茶色地疋繫金襴表紙。列帖装。縦二三・一糎×横一七・〇糎。第一冊、本文一九丁、後遊紙一丁、二折。第二冊、本文一九丁、後遊紙一丁、二折。第三冊、本文二〇丁、後遊紙二丁、二折。料紙、金泥草花下絵入り斐紙。見返し本文共紙。

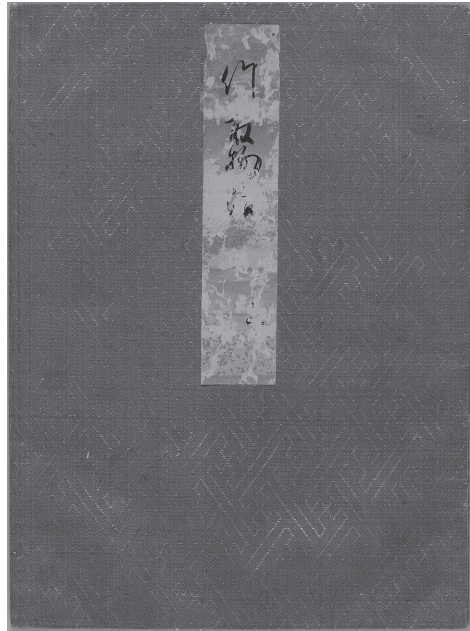
○外題、原題簽、金泥雲霞引き題簽に墨書。第一冊「竹取物語 上」、第二冊「竹とり物かたり 中」、第三冊「たけとり物語 下」。内題、なし。尾題、なし。

○序跋等、なし。第一冊に以下のように墨書した別紙を挟む。「光悦流の書態にて時代も／ありと小松先生之鑑定」。

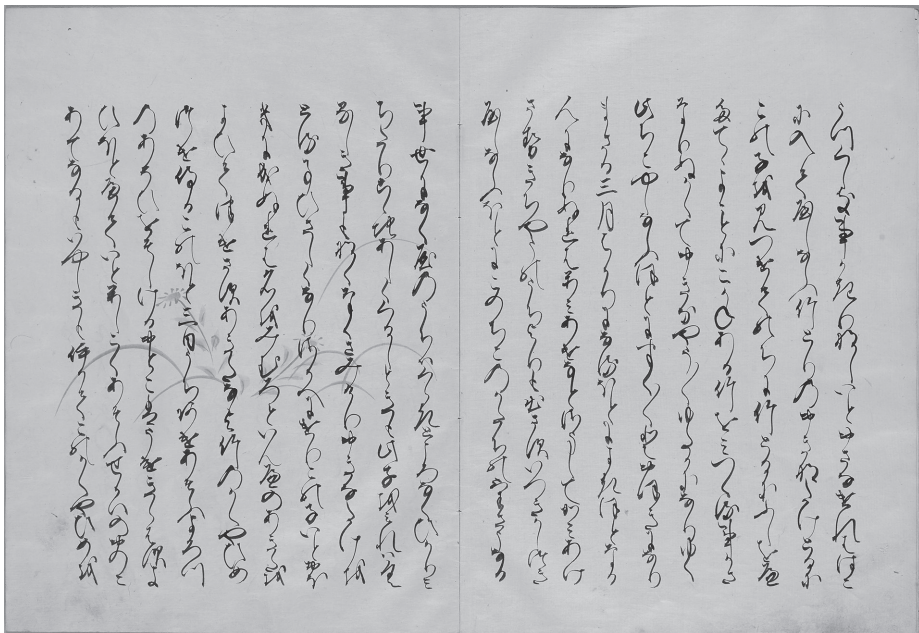
○印記、なし。第一冊は一丁ウラ、三丁ウラ、四丁オモテ、八丁ウラ、一二丁ウラで本文が散らし書きになり、そのあとには本文が書写されない面（二丁オモテ、四丁ウラと五丁オモテ、九丁オモテ、一三丁オモテ）がそれぞれつづく。第二冊は二丁オモテ、一〇丁ウラ、一五丁オモテで本文が散らし書きになり、そのあとには本文が書写されない面（二丁ウラ、三丁オモテ、六丁オモテ、一一丁オモテ、一四ウラで本文が散らし書きになり、そのあとには本文が書写されない面（二丁ウラ、五丁ウラ、一〇丁ウラ、一〇丁ウラ、一〇丁ウラ、一〇丁オモテ、一五丁オモテ）がそれぞれつづく。本文が書写されない面は剥離痕があるため、本来は絵入り本であったものが、絵を抜き取られた状態であることがわかる。収納される箱の上蓋中央右寄りに貼付する子持ち枠の題簽に「竹取物語 全」と墨書。右上には香色紙片に「大正三年七月／廿三日蟲干濟」と墨書し、朱筆で「三年」の「三」を「五」、「七月」の「七」を「八」、「廿三日」の「三」を「四」更に「八」と訂正。



卷頭本文



表紙



本文

たふの峯少将 写本 一冊（「頼朝公自筆日記」「弓削物語」と合帙）

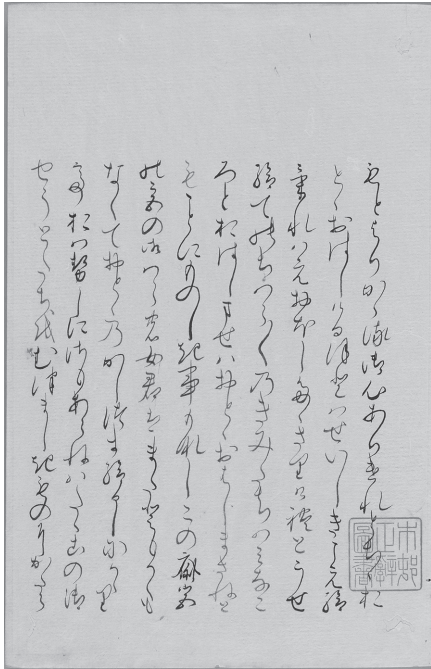
VII 2 Da 1005

○天明元年写。浅葱色無地秋草図表紙。四針袋綴装。綴じ糸後補。縦二七・五糎×横一九・〇糎。前遊紙一丁、本文三四丁、中遊紙三丁、本文（跋）四丁、後遊紙なし。料紙、楮紙。見返し本文共紙。裏見返しはこの一冊を書写した際にできた反故を利用か。毎半葉一〇行。

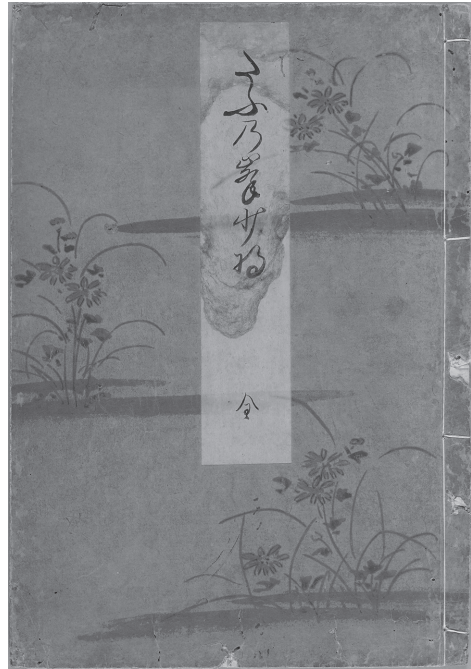
○外題、原題簽。表紙中央に雲紙を付し「たふの峯少将 全」と墨書。内題、なし。尾題、なし。

○序、なし。跋、「延喜のむかし紀貫之のぬしの古今集／をえらひていみじきかむなの序を／書てたてまつりしより此かたふ／た、ひふるき跡にたちかへりたかき／もいやしきもみな和哥の浦浪に心／をよせかきあつむる玉藻のひかり／に後の世に名残か、やかせ筆の林／にわけいりてをりえたる言葉／の花は四方に匂ひをつたへぬる／輩いとおほかめり」云々。奥書、右の跋につづいて「天明元辛丑のとしみな月／隅東日下部」。

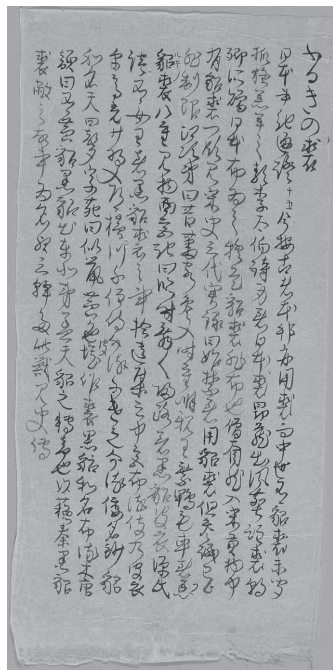
○印記、正方陽刻朱印「木村正辞圖書」を墨付一丁オモテの右下に捺す。木村正辞旧蔵本。字高約一八・五糎。本文の上段に余白を設ける。中遊紙に縦一八・〇糎、横八・〇糎の薄様が挟まり、細字で「ふるきの裘」の考証が一二行に渡って書かれている。木村正辞の筆跡か。前見返し右上に縦四・〇糎、横一・五糎の紙片を貼付し、「三」と墨書。「頼朝公自筆日記影寫。多武峯少将。弓削物語。合帙」と左肩の香色題簽に墨書した一帙に「頼朝公自筆日記」「弓削物語 全」とともに収める。



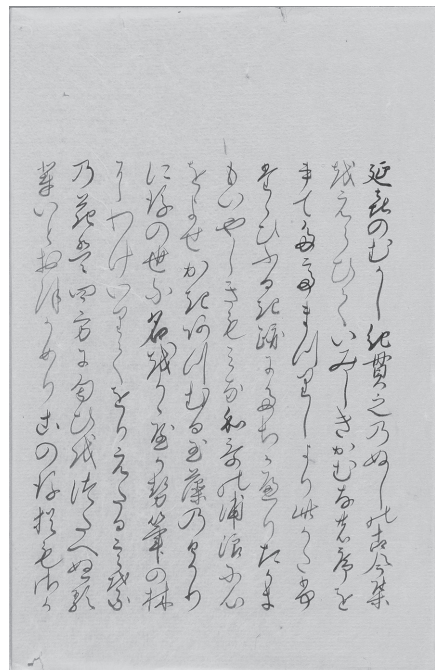
巻頭本文



表紙



「ふるきの装」紙片



跋

徒然要艸 版本 一帙七冊

VII 2 D b 5

○天明三年刊。紺色無地表紙。四針袋綴装。縦二五・九糎×横一八・〇糎。単匡郭、縦二一・六糎×横一六・三糎。第一冊四二丁、第二冊三八丁、第三冊三七丁、第四冊三八丁、第五冊三六丁、第六冊三七丁、第七冊四〇丁。料紙、楮紙。

○外題、原題簽、表紙左肩に双郭の題簽紙、「徒然要艸 卷之一（〜卷之七）」。内題、卷頭「徒然要艸序」、第一冊第六丁オモテの目録に「徒然要艸 壹」、第一冊第七丁オモテ本文冒頭に「徒然要草」。以下、各冊第一丁オモテの目録に「徒然要草 二（〜七）」。尾題、第七冊最終丁オモテに「徒然要艸跋」。版心、「徒然要草■卷之一（〜卷之七）」。○乾（坤、以下丁付）。

○序、「天明三癸卯年春三月／京師前住大雲院沙門潮音於洛東岡崎艸菴書」。跋、「天明三年癸卯春三月／洛西梅畑導故院主兼掌古知谷阿彌陀寺信阿題于紫雲室中」。刊記、「天明三年癸卯春三月吉日／弘所書林／江戸日本橋南一丁目／須原茂兵衛／大坂心齋橋南二丁目／大野木市兵衛／京都堀川通錦小路上ル町／西村市郎右衛門／同二条通麩屋町東入丁／山本長兵衛全／同麩屋町通御池下ル町／上河治郎吉梓」。

○印記、なし。挿絵（「洛東中岡崎厭求上人舊跡」）二丁有り。匡郭上部に「徒然草」の段の番号を記す。初段に頭注有り。

徒然草 写本 一帙一帖

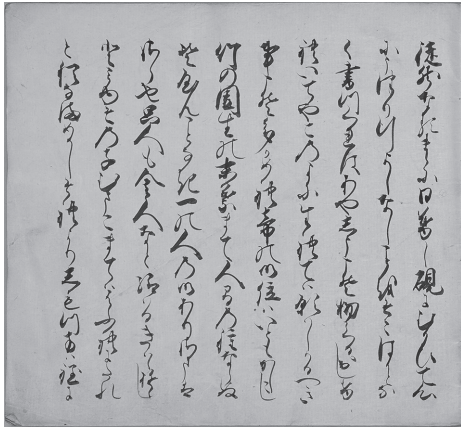
VII 2 D b 8

○江戸時代写。表紙、オモテは白紙（もとは銀箔か）布目地、ウラは剥落。四針列帖装。縦一六・二糎×横一七・七糎。前遊紙一丁、本文八六丁、後遊紙一丁。料紙、鳥の子。

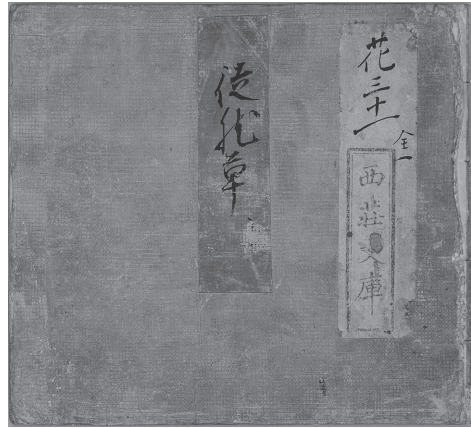
○外題、原題簽、表紙中央に青い題簽紙を用いて「徒然草□（カスレ）」と墨書。内題、なし。尾題、なし。

○序跋等、なし。

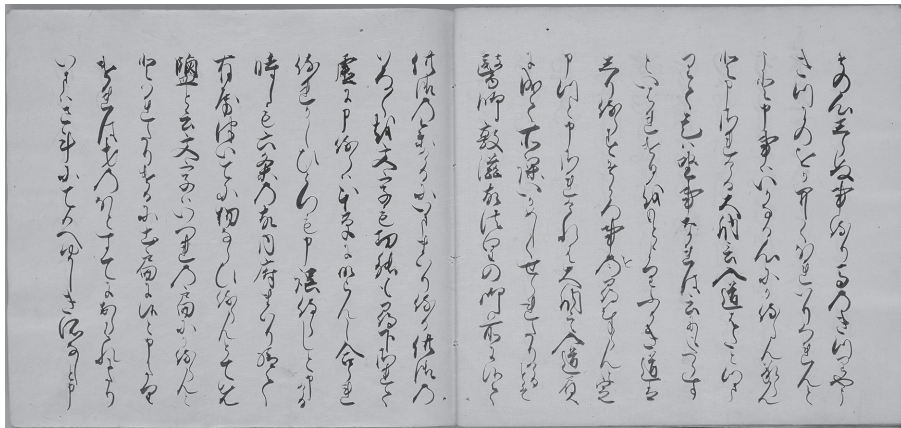
○印記、表紙右側に札有り、「花三十一^全」と墨書してその下に長方陽刻朱印、子持枠に「西荘文庫」。小津桂窓旧蔵書。『徒然草』本文の抄出。糸が切れている。



巻頭本文



表紙



本文

徒然草古今大意 版本 一帙一冊

VII 2 D b 6

○元和七年（「かのとのとりのとし」 辛酉）序。深緑色、雷文つなぎに唐草の文様の空押しを表紙。五針袋綴装。縦二七・五糎×横一九・四糎。単匡郭、縦二三・三糎×横一七・四糎。一五四丁。料紙、楮紙。

○外題、原題簽、表紙左肩、双郭の題簽紙に「徒然草古今大意」。内題、本文冒頭に「徒然草古今大意上卷／寿命院 立安法印／夕顔巷道春法印／逍遙軒 貞徳居士」。下巻巻頭にも同様の内題有り。尾題、なし。版心、なし。ただし、各丁ウラのノドに丁付有り。

○序、「羅山子」序、および、「かのとのとりのとしの秋夕かほのちまたにて露をしたで筆をすゝき侍る」の序。跋、なし。刊記、なし。

○印記、なし。ノドの丁付は、「初一（〜四）」、「二ノい（〜め）」、「二ノい（〜め）」、「三ノい（〜て終）」、「四ノい（〜こ）」。表紙に「四」「共四」と墨書。もと四冊を一冊に合綴したか。

有客謂曰凡穢物諸草子以行
于世者多出自婦人女子之手故
有啾啾嚙嚙之語無教誨訓誡
之法唯見冶容粉粧之態未聞
丈夫雄豪之風且或煩諸繁冗
失諸嘈雜或流於鄙俗淫於塵
誕往々皆然獨有紀氏古今倭歌

序



表紙

顔注を併せりとのと名付と云々
才二百四十三段
[冒] 佛菩薩乃序目々わがみと云らんとか
るは流生の果たりたりたよハ輪廻の所らまは
かると云く人のあむじとありんまうらな下にあ
りたり人あつと云とありありなりなりありあり
合願御流生と云とありあり

末尾

流然草古今大意上巻
赤令院 立安江中
夕顔巻 道春江中
道遠軒 貞徳居士
才一段
[音] げは序門乃在位と云りわがみと云らんとか
るは流生の果たりたりたよハ輪廻の所らまは
かると云く人のあむじとありんまうらな下にあ
りたり人あつと云とありありなりなりありあり
合願御流生と云とありあり

本文冒頭

徒然草諸抄大成 版本 一帙一〇冊

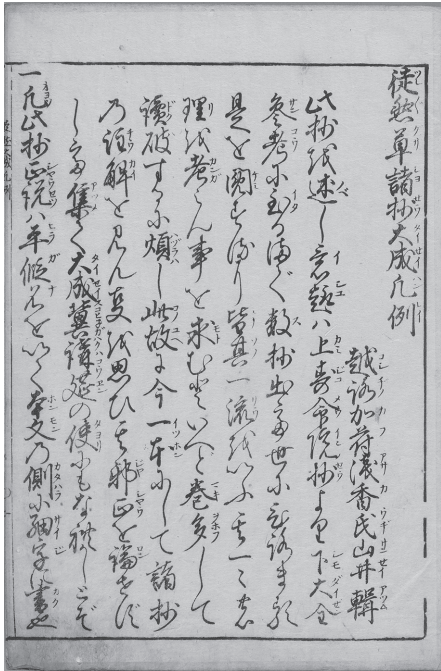
三F a い 14

○貞享五年刊。紺地、雷文の透垣に鳥をあしらった文様の空押ししの表紙。四針袋綴装。縦二七・四糎×横一九・二糎。単匡郭、縦二三・七糎×横一七・三糎。第一冊六八丁、第二冊六〇丁、第三冊六〇丁、第四冊五八丁、第五冊五三丁、第六冊六四丁、第七冊五九丁、第八冊五二丁、第九冊五五丁、第一〇冊四二丁。料紙、楮紙。

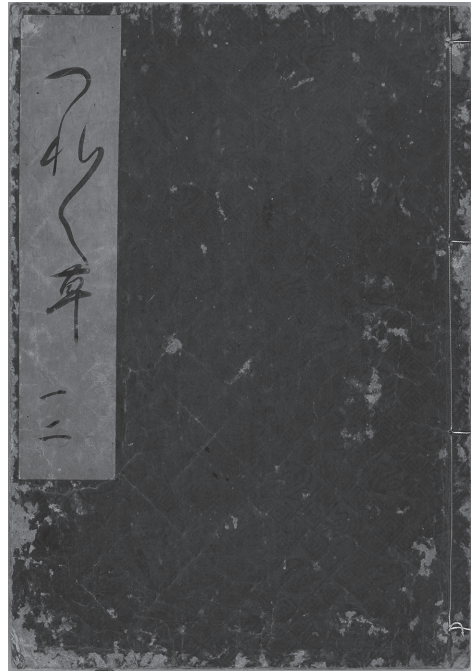
○外題、表紙左肩に後補題簽、第一〜第四冊「つれく草 一二(三四/五六/七八)」、第五冊「寂寥草 九十」、第六冊「徒然くさ十一十二」、第七冊「寂寥草 一三四」、第八冊から第一〇冊「つれく草 十五十六(十七十八/十九廿)」。内題、第一冊第一丁オモテ「徒然草諸抄大成凡例／越路加府淺香氏山井輯」。第一冊第三丁ウラに「徒然草諸抄大成卷第一目録」、以下、各卷に同様の目録題有り。尾題、第六冊第三丁ウラに「徒然草上卷之終」。版心、第一冊第一丁から「徒然大成凡例 〇一」「徒然大成凡例 〇二」「徒然大成卷一目録 〇三」「徒然大成系圖 〇四」「徒然大成卷一 〇五」以下、各巻も同様に巻の番号と丁付を記す。

○序跋等、なし。刊記、「貞享五(戊辰)五月吉日板行／京書肆／武村新兵衛／吉田四郎右衛門／谷口七左衛門／田中庄兵衛」。

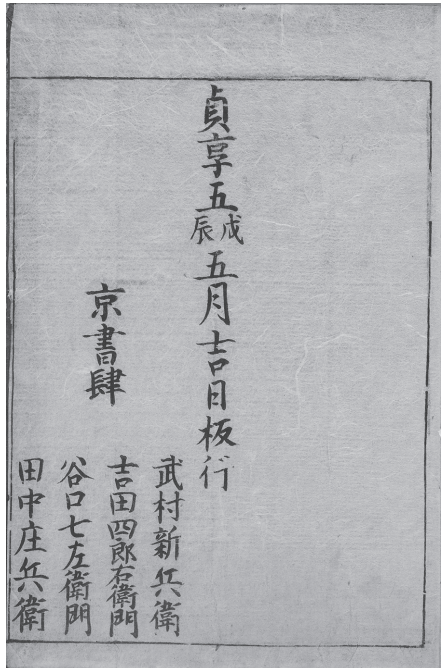
○印記、なし。貼紙・不審紙多数。もと二〇冊を、一〇冊に綴じ直したか。



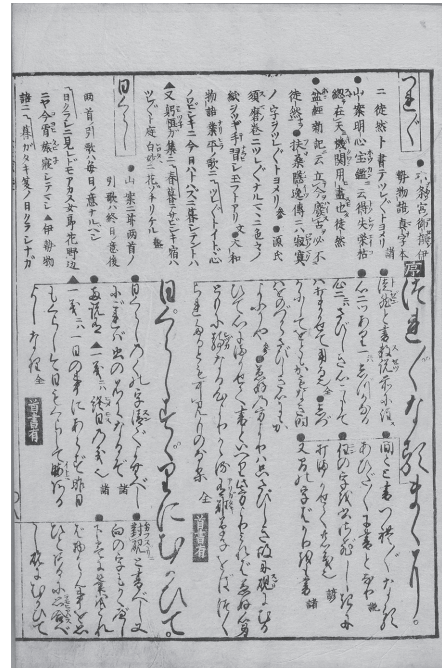
凡例



表紙



刊記



本文冒頭

徒然草抄 版本 一帙六冊

三Faい12

○寛文元年刊。紺地、雷文に菊唐草の空押し文様の表紙。四針袋綴装。縦二六・五糎×横一八・三糎。単匡郭、縦二一・〇糎×横一六・九糎。第一冊七六丁、第二冊六一丁、第三冊六二丁、第四冊六五丁、第五冊八三丁、第六冊六七丁。料紙、楮紙。

○外題、後補題簽、各冊表紙中央に黄色の題簽紙を用いて、墨書、「徒然草抄 上之一（上之二／上之三／上之四／下之二／下之二）」。内題、本文冒頭に「徒然草抄」。第五冊の下巻のはじめに「下巻」。尾題、卷一の卷末に「徒然之抄卷第一終」。卷二以下の卷末に「徒然草抄卷第二終（卷第三終／卷四之終／卷五終／卷之六終／卷七終／卷八上終／卷之下二終／下之二卷終／下卷三終／卷下四終／卷下五終」。版心、なし。

○序、「寛文元年六月一日／磐齋（花押）書」。跋、「寛文元年九月十五日／磐齋／等空（花押）」。刊記、「寛文元年（辛／丑）／霜月吉日飯田忠兵衛（開／板）」。

○印記、なし。第一冊と第五冊の表紙右肩に「子」と墨書した菱形の小さい札有り。もと一三冊を、六冊に綴じ直している。第一冊は卷一・二、第二冊は卷三・四、第三冊は卷五・六、第四冊は卷七・八、第五冊は卷下一・二・三、第六冊は卷下四・五。少し虫損有り。第五冊の卷之下第二巻に、本文の句点に貼った赤い小紙片が見られる。また、笛の穴の名称などを記した紙片一枚が挟み込まれている。八二段の注からのメモらしい。

徒然草文段抄 版本 一帙七冊

三F a i 13

○享保二年刊。青色無地表紙。イタミ。四針袋綴装。縦二六・三糎×横一九・二糎。単匡郭、縦二一・八糎×横一七・三糎。本文、第一冊五二丁、第二冊六〇丁、第三冊六一丁、第四冊六八丁、第五冊五四丁、第六冊五三丁、第七冊五〇丁。料紙、楮紙。

○外題、原題簽、表紙左肩に双郭の赤い題簽紙を用い、第二冊以下に「〔改/正〕徒然草文段抄 三〔七〕」。第一冊は題簽が剥がれかかり「文段抄 一」とのみ残る。内題、巻頭に「徒然草文段抄」。尾題、巻一の末尾に「徒然文段抄卷一終」。巻二の末尾に「徒然草文段抄卷第二終」。巻三〜巻六の末尾に「徒然草文段抄卷之三終（〜卷之六終）」。巻七には尾題なし。版心、第一冊第一丁「文段一（一）。以下同様に巻の番号と丁付を記す。

○序、なし。識語、「季吟抄/寛文七年十二月吉日 板行」。刊記の前に「此徒然草文段抄全部此度板行改正仕候」。刊記、「享保二年（丁酉）五月吉日/洛陽書林/寺町通五条上ル町/田中庄兵衛/御幸町通錦上ル町/秋田屋五郎兵衛/寺町通三条上ル式町目/芳野屋徳兵衛/堀川通錦下ル町/村上勘左衛門/姉小路通堀川東_江入町/中川茂兵衛」。

○印記、正方陽刻朱印「鈴江」。第二冊・第四冊に朱の書き込み有り。匡郭の頭部に段の番号を示している。

○江戸中期写。焦茶色絹表紙。見返し、布目楮紙に金切箔。卷子装。縦一七・九糎×全長八二三・五糎。料紙、布目鳥の子。

○外題、「光源氏物語秘訣 全」（打曇金砂子原題簽、墨書）。内題、「源氏物語三箇大事」（端作）。尾題、なし。

○序、なし。奥書、「源氏物語三箇大事」の奥に「右源氏物語三箇之秘訣以相伝之正説奉授禪定殿下訖守此道之法度全不可有漏脱者也／權大納言実隆／天正二年四月廿日」。「又一通之切紙」の奥に「右光源氏物語三箇之大事切紙者誠無上極秘也且亦深秘之口訣悉奉捧禪定。

殿下訖抑紫式部從覺運僧正伝台宗之奥旨之後述此物語矣故彼微意至今嫡々相承所不断絶也如誓盟被守此道之法度猥不可有漏脱者也／權大納言実隆／天正二年四月廿日」。「右之切紙者從三条西殿九条殿御伝授之趣也亦從九条殿某奉蒙御相伝者也」。「源氏物語口訣之聞書」の奥

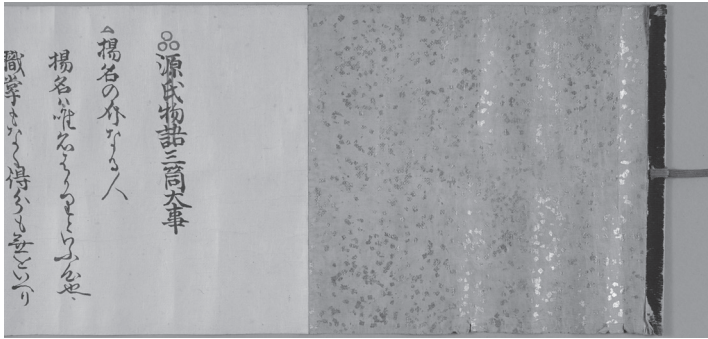
には奥書なし。「源語秘訣三箇大事拔書」の奥に「右三箇大事他流往々有謬説更以不可証拠不足信用而已」。「大乘起信論疏（見卷下廿一丁）」

の奥に「右源氏物語極秘之趣者從九条禪閣以御憐愍之尊志所奉蒙御伝受也誠生涯之大幸加之哉深雖秘函底感累年懇切之実悉令相伝訖如誓盟猥不可有漏脱者也／長頭丸／慶安五年四月六日」。「光源氏物語并狭衣題号口伝卷数之大事」の奥に「右源氏物語極秘之趣者從先師貞徳

翁所令相伝也誠無上之正説雖為秘中秘年来於斯道甚感懇志授之訖如誓盟非堪其器者猥不可有漏脱者也／狭々野屋／長孝／延宝三年九月十一日」。「右者光源氏物語之秘訣一条家之正説而逍遊軒明心居士広沢長孝伝来之趣也然處深依為懇望附与訖全不可有他見者也」風觀窓／長雅

／元禄十一年沾洗吉辰」。

○印記、なし。朱引き・句読を断するなど朱による書入れあり。箱内に「長孝翁より長雅翁に伝へ、長雅翁より元禄十一年を以て何人にか伝へられたる奥書の写ありて宛名なし。然し全卷は長伯翁の自筆なるが如し」と記した後人の覚書きあり。奥書中の「実隆」を三条西実隆のこととすると年代が合わないあるいは実澄（実枝）の誤りか。



卷頭本文



卷子を閉じた状態

うへに剥りしつゝのやま
 をしりしつゝついでに正統を以
 へししげ物語の体也
 右花源氏物語三箇本事
 切紙者誠無上極秘也且亦
 深秘之口訣悉奉捧禪定。
 殿下訖拵紫衣御從受運
 僧正傳台宗之奥旨之後述
 此物語矣故彼微意至今編
 々相承所不斷絶也如誓盟
 彼守此道之法度根不可有
 漏脱者也
 權大納言實隆
 天正二年四月元日

「実隆」奥書

可有漏脱者也
 秋々野屋
 長孝
 延寶三年九月十一日
 右者花源氏物語之秘訣二
 條家之正説而道盡斬明心
 居士廣澤長孝傳來之趣也
 然處深依為懇望附与訖全
 不可有他見者也
 風祝志
 長雅
 元禄十二年活洗吉辰

長雅奥書

平家物語 版本 一帙一二冊

三F a i 4

○元和九年刊。焦茶色無地表紙。四針袋綴装。縦二七・六糎×横二〇・〇糎。双匡郭、縦二三・〇糎×横一七・六糎。丁数、第一冊四三丁、第二冊四八丁、第三冊四二丁、第四冊四二丁、第五冊三八丁、第六冊三二丁、第七冊四〇丁、第八冊三四丁、第九冊五一丁、第一〇冊四四丁、第一一冊四八丁、第一二冊四四丁、全冊とも遊紙なし。料紙、楮紙。

○外題、原題簽、表紙左肩に双郭の刷題簽「平家物語 卷第一（〜卷第十二）」、第一二冊は題簽上部の「平家物語」のみ残り題簽下部ヤブレ。内題「平家物語卷第一目録（〜卷第十二目録）」（目録題）、「平家物語卷第一（〜卷第十二）」（本文冒頭）。尾題「平家物語卷第一（〜卷第十一）」、第一二冊「平家物語灌頂卷畢」。版心、「平家卷一（〜卷十二） 目録一（以下、丁付）」、花魚尾。

○序跋等、なし。刊記、「此平家物語一方檢校衆以数人々吟味改字證加點爻句讀元和七孟夏下旬令開板畢或人曰庶幾記其姓名云々故今準之而已／于時元和九初秋吉日／洛陽三条東洞院諏訪町／杉田良庵玄与 印記」。



○印記、長方陽刻朱印「雲邨文庫」。和田維四郎旧蔵書。円型陽刻墨印「横田」。本文は漢字カタカナまじり。

平家物語卷第一
 ○祇園精舎
 祇園精舎ノ鐘ノ聲諸行無常ノ響アリ沙羅雙樹ノ花ノ色盛者必衰ノ理ヲ顯ス春ル者不久只春ノ夜ノ夢ノ如ク猛キ人モ遂ニ滅ニ徧ニ風ノ前ノ塵ニ同シ遠ク異朝ヲ問ラフニ秦ノ趙高漢ノ王莽梁ノ周伊唐ノ祿山是等ハ皆舊主先皇ノ政ニモ不從樂ヲ極メ諫ヲモ不聞天下ノ亂ニ事ヲモ不悟ニテ民間ノ憂ル所ヲ不知カバ不仁ノ三ノ者共ナリ近ク本朝ヲ窺フニ承平ノ將門天慶ノ純交康和ノ義親平治ノ信賴是等ハ奢レル事モ猛キ心モ昏孰クナリニカドモ問近ク六波羅ノ入道前太政大臣平朝臣清盛公ト申シ人ノ有様傳ヘ承ルコト心モ詞モ及ハレテ

本文冒頭



表紙

洛陽三象東門後詠詩町
 松田良信書



刊記

此平家物語一方檢校最以校人ノ吟味改字沈加點多自漢元和七孟夏下旬今用板平或人曰庶幾記之姓名之故ト準々而已
 于時元和九初秋吉旦

刊記

平家物語 版本 二帙一二冊

三F a i 6

○寛永三年刊。濃紺地に市松文様の空押ししの表紙。四針袋綴装。縦二八・九糎×横一九・六糎。無郭。第一冊五一丁、第二冊五七丁、第三冊五一丁、第四冊五一丁、第五冊四六丁、第六冊三八丁、第七冊四九丁、第八冊四二丁、第九冊六四丁、第一〇冊五三丁、第一一冊五九丁、第二二冊六一丁。料紙、楮紙。

○外題、原題簽、表紙左肩に単郭の刷り題簽「平家物語 一（十二）」。内題、第一冊目録題「平家物語卷第一目録」、本文冒頭「平家物語卷第一」。以下、「卷第十二」まで同様の内題。尾題、第一卷本文末尾に「平家物語卷第一」。以下、第一一巻まで同様の尾題。ただし卷第八に尾題なし。また、第一二巻の尾題は「平家物語灌頂卷畢」。版心、第一冊第一丁「平家卷一」。以下、巻数と丁付を記す。

○序跋等、なし。書肆による識語「此平家物語一方檢校衆以吟味令開板之者也」。刊記、「于時寛永三年二月吉日／洛陽烏丸通大政所町／勝右衛門尉（宝壺の印形）」。

○印記、なし。虫損有り。一部補修。朱の書き込みや、小紙片の貼付有り。表紙の裏紙に反故を用いている。背に第何冊かを示す数字の書き込み有り。

平家物語 版本 一帙一二冊

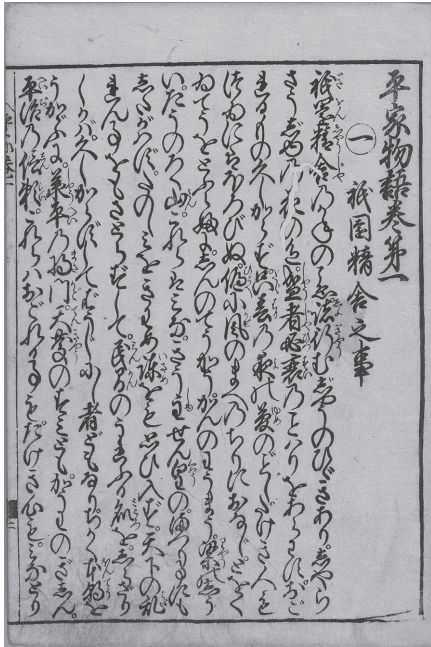
三F a i 5

○江戸時代前期刊。紺色無地表紙。四針袋綴装。縦二二・七糎×横一六・二糎。単匡郭、縦一九・八糎×横一四・四糎。全冊に前遊紙一丁有り。各冊の本文の丁数は、第二冊五二丁、第二冊五四丁、第三冊四八丁、第四冊四七丁、第五冊四三丁、第六冊三六丁、第七冊四五丁、第八冊三六丁、第九冊五八丁、第一〇冊四七丁、第二一冊五〇丁、第二二冊五三丁。料紙、楮紙。

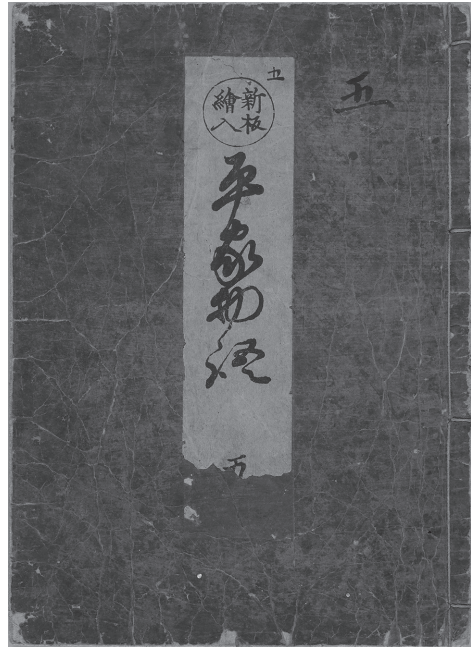
○外題、表紙中央に原題簽。第一、二、四、一〇、一一冊は剥落。第三冊はほとんど剥落。第五冊〔〈新板／繪入〉平家物語 五〕、第六冊〔〈新板／繪入〉（ヤブレ）平家物語 六〕、第七冊〔□（ヤブレ）物語 七〕、第八冊〔〈新板／繪入〉平家物語 □（ヤブレ）〕、第九冊〔〈新板／繪入〉平家□（ヤブレ）〕、第二二冊〔〈新板／繪入〉平家物語 十二〕。内題、第一冊目録題「平家物語卷第一目録」。本文巻頭に「平家物語卷第一」。以下、「巻第十二」までの全巻に、同様の目録題・巻頭内題有り。尾題、第一冊尾題「平家物語卷第一終」。以下、「巻第十二」までの全巻に、同様の尾題有り。版心、第一冊の冒頭二丁（平家系図）は「一」「二」のみ。目録・本文から「平家巻一 ■一」以下、巻数と丁付を記す。

○序跋等、なし。書肆による識語、「此平家物語一方檢校衆以吟味令開板之者也」、「類板世に流布すといへとも或は繪を略し或は紙数を縮猶假名の誤などあるにより今更に吟味をくわへ今改正者也」。刊記、第二二冊の裏見返しに「江府書林 万屋清兵衛〈版／行〉」。

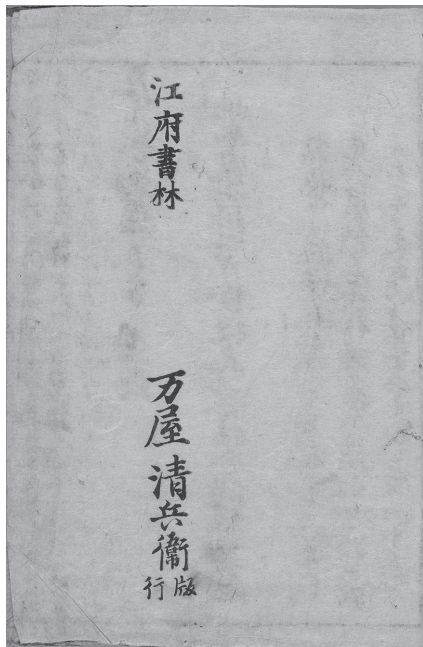
○印記、各冊第二丁の正方朱印が切り取られている。絵入。虫損有り。第二冊に焼損有り。小口に「一（十二）平家物語」と墨書。表紙に「一」〜「十二」の墨書。



本文冒頭



表紙



刊記



挿絵

平家物語 真字本卷一、二、五、七至九、十一、十二 写本 一帙八冊

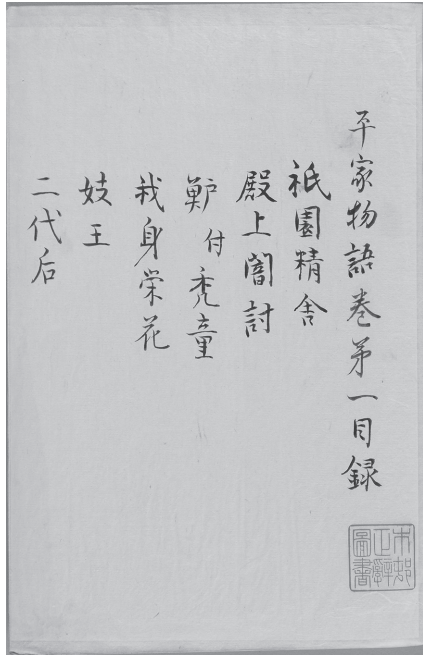
三F a 125

○江戸時代末写。土色無地表紙。五針袋綴装。縦二九・六糎×横二一・二糎。第二冊のみやや小さく、縦二七・〇糎×横一九・六糎。本文、第一冊六三丁、第二冊四六丁、第三冊三九丁、第四冊四一丁、第五冊三三丁、第六冊四九丁、第七冊五〇丁、第八冊四二丁。第八冊以後遊紙一丁。料紙、鳥の子薄様。

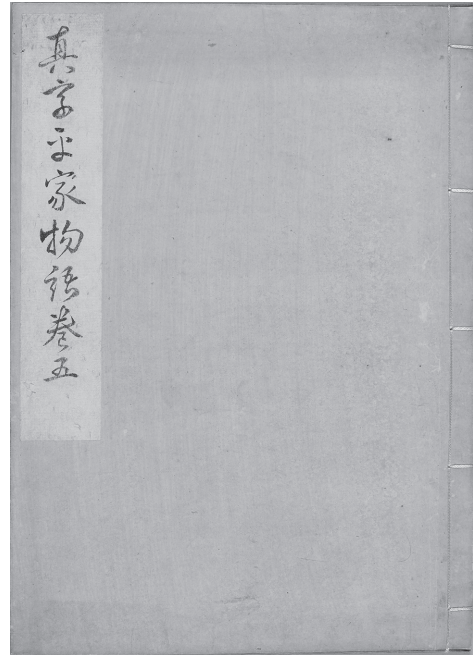
○外題、原題簽、表紙左肩に白色無地の題簽紙、第一冊「真字平家物語卷二二」、第二冊「真字平家物語卷二」、第三冊「真字平家物語卷五」（題簽剥落して冊子に挿入）、第四冊「真字平家物語卷七」、第五冊「真字平家物語卷八」、第六冊「真字平家物語卷九」、第七冊「真字平家物語卷十一」、第八冊「真字平家物語卷十二」（題簽剥落して冊子に挿入）。内題、各冊第一丁オモテに「平家物語卷第一（卷第二）／卷第五／卷第七／卷第八／卷第九／卷十一／卷第十二」。第一冊第二丁オモテに「平家物語卷第一目録」、目録題は卷一のみに有り。各冊、本文巻頭に「平家物語卷第一（卷第二）／卷第五／卷第七／卷第八／卷第九／卷第十一／卷第十二」。第一冊第一六丁オモテに「平家物語卷第二」。第八冊第三三丁オモテに「平家灌頂卷」。尾題、卷一の巻末に尾題なし。第一冊末尾に「平家物語卷第二」とあり、第二冊末（卷第二の末）に尾題なし。以下、第三冊～第七冊の巻末に「平家物語卷第五（卷第七）／卷第八／卷第九／卷第十一」。第八冊第三二丁ウラに「平家物語卷十二」。

○序跋等、なし。

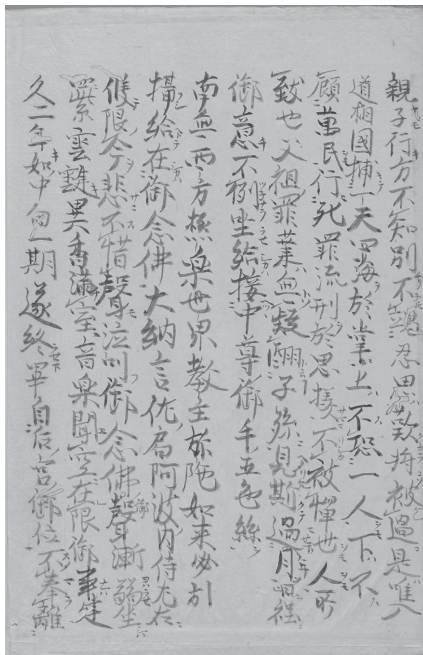
○印記、正方陽刻朱印「木邨正辭圖書」。木村正辭旧蔵書。本文は漢文で訓点を付す。虫損有り、また、親本の虫損を写している。第五冊（卷八）と第八冊（卷十二）には丁付の書き込み（朱）あり。第五冊と第八冊は下部に紙を継ぎ足して大きさを揃えている。



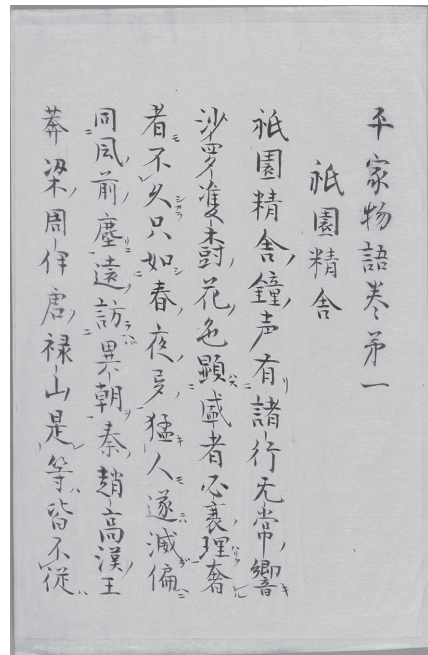
卷第一目録



表紙



大尾



本文冒頭

平家物語 写本 二帙一二冊

三F a い 32

○江戸時代写。焦げ茶色の布表紙。四針列帖装、半紙を横に半折して折り目を下に綴じている。縦一五・四糎×横二二・四糎。第一冊本文一〇九丁、後遊紙一丁。第二冊本文一二七丁、後遊紙一丁。第三冊本文一一四丁。第四冊本文一一七丁、後遊紙一丁。第五冊本文一〇二丁。第六冊本文八三丁。第七冊本文一二二丁。第八冊本文八九丁。第九冊本文二四四丁。第一〇冊本文一一六丁。第一一冊本文一二七丁。第二二冊本文一一二丁、後遊紙一丁。料紙、楮雁皮混合紙。

○外題、表紙中央に原題簽、金紙の題簽紙を用い「平家物語 一（〜十二）」と墨書。内題、各冊第一丁に「平家物語卷之一（〜卷之十二）」尾題、なし。

○序跋等、なし。

○印記、長方陽刻朱印「大木文庫」。大木幹一旧蔵書。本文中に、朱の□の枠を捺して「中音」「初重」「重初重」「位口説」「下」「三重甲」「甲」「降」「中洵」「詢」といった譜を墨で記す。本文の右にも譜を墨で（とところどころ朱で）記す。第一冊と第七冊の表紙に「平家物語／語り本／上帙（下帙）」の札を付す。札の中に、○に「合」の朱印あり。各段の冒頭が来る丁の上部に墨の○印を捺している。表紙右下隅に第何冊かを示す朱の書き込み有り。わずかに虫損有り。

表章伊勢日記附證 写本 一冊（「神靈三弁 大刀幣考」「応声考」と合帙）

三Ma3

○江戸末期写か。天保四年序。縹色布目地表紙。四針袋綴装。紫色小口切がある。縦二六・六糎×横一八・八糎。前遊紙一丁、本文五八丁、後遊紙一丁。料紙、楮紙。

○外題、原題簽、表紙左肩の黄檗色題簽に「表章伊勢日記附證 完」と墨書。内題、「表章伊勢日記附證」。尾題、なし。

○序、「伊勢集とて世に傳はれるものを見るに：（中略）：た、こ、ろやりのすさびなればさてあるなり／天保四年十二月十二日 伴信友」。
跋、奥書、なし。

○印記、正方形陽刻朱印「樟陰山房」を墨付一丁の右下に捺す。岡本経邦旧蔵書。紺色の帙には左肩の香色題簽に「神靈三弁。應聲考」。
／表章伊勢日記附證。三種合帙。／全」と墨書。帙の背の香色題簽には「伴信友叢書／神靈三辨及大刀幣考／應聲考／表章伊勢日記附證」
／合三冊／第八帙」と墨書。「神靈三弁 大刀幣考 全」「應聲考」とともに収める。

表章伊勢日記附證
 伊勢集として世小傳さきとをみるよとてめ
 の御時ふらりまらむと書出さるよりおきつ波云々の長
 歌まては伊勢の世あろのさしよや書出して字多此
 みかとの海時七條后のいまこ御息所おとすま
 るときばうへまうまもいとまかと小使しつうとて皇
 子うみ奉りみりたりわがさせ流ひてのち仁和寺ふたえ
 しほしけらわと皇子かくまきせぬひて後まよかとけ后
 の宮ふけりへまうまもいとまかとせぬひてよううへか
 くあまこるまをれ事をむらとのかとての如く書記し

卷頭本文

表章伊勢日記附證
 完

表紙

以はるの御時ふらあまけむ、おぼめむとてとろときこえ
 ありしとき御つらね、七條とよあやあ、人さうらひけ
 る、
 ○伊勢 藤原仲實朝臣の古今集目錄伊勢の傳ふ大
 和守從五位上藤原継隆女七條后宮方房寛平之間為
 更取誕皇子継隆省參議從三位家宗二男母刑部氏貞
 觀十三年四月十三日補文章生仁和元年八月十五
 日任伊勢守二年正月七日叙從五位上寬平三年正月
 任大和守為伊勢守之頃伊勢伊勢秋まし尊卑分脈右大
 臣藤原内麻呂流の家宗 元十四卷六十一 學大和

本文

ふ④古今集④ハ後撰集ありともふ考證ふといふまき
 らの本ともいつせと普通本異本の別をいふは但し其
 別をいふ後あしきところふこいなるも所り又字の傍小
 ちいさく○を付とるを心をつけて見るべき目えりあ
 まをせよりちうさくあとすも心かきへあらまをりせば
 ちとよあるまらふとこれわわらるるはれとちうあ
 るやまのまきびるはをさてるまあま
 天保四年十二月十二日 伴信友

序末

○承応元年識語。浅葱色鳥の子紙表紙。四針袋綴装。縦二七・二厘×横二〇・〇厘。匡郭なし。各冊とも前遊紙なし、後遊紙なし。外題と丁数を整理して示す。第一帙、「桐壺 第一」七四丁、「箒木^上 第二」六〇丁、「箒木^下 第三」七〇丁、「空蟬 第四」二三丁、「夕顔 第五」八九丁、「若紫 第六」八五丁、「第七」にあたる冊なし、「末摘花 第八」六五丁、「紅葉賀 第九」五七丁。第二帙、「花宴 第十」三三丁、「葵 第十一」九四丁、「榊 十二」一〇二丁、「花散里 十三」九丁、「須磨 十四」八〇丁、「明石 十五」八三丁、「薄雲 標 十六」六五丁、「蓬生 十七」四三丁。第三帙、「關屋 十八」一二丁、「絵合 十九」四四丁、「松風 二十」四九丁、「薄雲 二十一」五四丁、「檀 二十二」四六丁、「乙女 二十三」一〇四丁、「玉鬘 二十四」八五丁、「初音 二十五」三七丁、「胡蝶 二十六」四六丁、「螢 二十七」五五丁。第四帙、「常夏 二十八」五二丁、「篝火 二十九」八丁、「野分 三十」三六丁、「御幸 三十一」六一丁、「藤袴 三十二」三九丁、「榎柱 三十三」七八丁、「梅枝 三十四」五〇丁、「藤裡葉 三十五」六〇丁、「若菜^上 三十六」一〇六丁、「若菜^下 三十七」九一丁。第五帙、「若菜^上 三十八」一〇〇丁、「若菜^下 三十九」九四丁、「柏木 四十」七一丁、「横笛 四十一」三五丁（第一丁と第二丁が逆）。「鈴蟲 四十二」二四丁、「夕霧 四十三」六七丁、「夕霧 四十四」五二丁、「御法 四十五」三〇丁、「幻 四十六」四七丁、「雲隱 四十七」五丁。第六帙、「匂宮 四十八」二八丁、「紅梅 四十九」二六丁、「竹川 五十」七七丁、「橋姫 五十一」六八丁、「椎本 五十二」六九丁、「総角 五十三」一三〇丁、「早蕨 五十四」三五丁、「宿木 五十五」六六丁、「宿木 五十六」八四丁。第七帙、「東屋 五十七」八〇丁、「浮舟 五十八」八六丁、「蜻蛉 五十九」五二丁、「蜻蛉 六十」六四丁、「手習 六十一」六二丁、「手習 六十二」六六丁、「夢浮橋 六十三」三九丁、跋あり。料紙、楮紙。

○外題は各冊表紙中央に打ち付け書。詳細は右の通り。内題、「源氏物語聞書」(第一冊端作)、「桐壺卷」以下。尾題、なし。各巻本文冒頭の内題と版心を整理して示す。第一帙、「桐壺 第一」。「十四」の丁付けなし。「箒木^上 第二」。「箒木^下 第三」。「帚下」。「空蟬 第四」。「空」。「夕顔 第五」。「夕」「五十」の丁付けがなく、「五十一」の丁付けが二つあり。「若紫 第六」。「若」。「第七」にあたる冊なし)。「末摘花 第八」。「末」。「紅葉賀 第九」。「紅葉」。第二帙、「花宴 第十」。「花」(第三三丁に丁付なし)。「葵 第十一」。「葵」。「榊 十二」。「賢」。「花散里 十三」。「花散」。「須磨 十四」。「須」。「明石 十五」。「明」。「薄雲 十六」。「須」。「蓬生 十七」。「蓬」。第三帙、「關屋 十八」。「関」。「絵合 十九」。「絵」。「松風 二十」。「松」。「薄雲 二十一」。「薄」。「檀 二十二」。「檀」。「乙女 二十三」。「乙」。「玉鬘 二十四」。「玉」。「初音 二十五」。「初」。「胡蝶 二十六」。「胡」。「螢 二十七」。「螢」。第四帙、「常夏 二十八」。「常」。「篝火 二十九」。「篝」。「野分 三十」。「野」(「三十六終」の丁のみ「野」も丁数も四角で囲う)。「御幸 三十一」。「御幸」。「藤袴 三十二」。「蘭」(第三九丁に丁付なし)。「榎柱 三十三」。「牧」。「梅枝 三十四」。「梅」。「藤裡葉 三十五」。「藤」。「若菜^上

三十六、「若上一」。「若菜^上」三十七、「若上二」(第九一丁に丁付なし)。第五帙、「若菜^下」三十八、「若下一」。「若菜^下」三十九、「若下二」。「柏木 四十」、「横笛 四十一」、「横」。「鈴蟲 四十二」、「鈴」。「夕霧 四十三」、「夕霧上」。「夕霧四十四」、「夕霧下」。「御法 四十五」、「御法」。「幻 四十六」、「幻」。「雲隱 四十七」、「雲」。「第六帙、「匂宮 四十八」、「匂」。「二十八終」の丁のみ「匂」も丁数も四角で囲う。「紅梅 四十九」、「紅」。「竹川 五十」、「竹」。「橋姫 五十一」、「橋」。「六十八終」の丁のみ「橋」も丁数も四角で囲う。「椎本 五十二」、「椎」。「総角 五十三」、「総」。「百三十終」の丁のみ「総」も丁数も四角で囲う。「早蕨 五十四」、「早」。「三十五終」の丁のみ「早」も丁数も四角で囲う。「宿木 五十五」、「寄上」。「宿木 五十六」、「寄下」。「五十六終」の丁のみ「寄下」も丁数も四角で囲う。第七帙、「東屋 五十七」、「東」。「浮舟 五十八」、「浮」。「二」。「七」の丁付判読困難。「八十六終」の丁のみ丁数のみ四角で囲う。「蜻蛉 五十九」、「蜻上」。「蜻蛉 六十」、「蜻下」。「十一」の丁付判読困難。「手習 六十一」、「手習」。「手習 六十二」、「手下」。「二」の丁付なし。「六十六丁」のみ「手下」も丁数も四角で囲う。「夢浮橋 六十三」、「夢」。「一」三十六終」と「跋一〜三」。

○序、なし。識語「光源氏の物語は内典外典に本記等を宗として萬葉集伊勢物語三代集などの古記をもてかきたる双紙なれはおほろけの人のふと聞わくるものにあらざる故かならず名師の講釈を聞て軽重清濁の名目を聴聞いたす事なりさるによりて面々の聞書わたくしの抄書其数をしらす然ともさやうの冊数のすくなきものにて書したる大部の淵底しるへき義にあらずまづ四十八卷の河海二十冊後成恩寺殿の花鳥余情二十冊夢庵の弄花八冊逍遙院殿の細流二十冊是等の書一部かけても事たらぬゆへことく凡そろふる事なりかたきに宗碩法師の門人能登の永閑といふ人やさしきこゝろにて右の抄どもの肝要たるところをさのみ省略せず書あつめ法華經の二十八品にかたとり廿八冊となし万水一露と号せらる此抄一部あれば諸抄はなくてもくるしからず重宝といふ事を世間にあまねくしりたるによりいま持さる人は花よりも見たく思ひ稀くもたる人は玉よりもおしみて画外をいたさす今此本を見るにあやまりおほく侍る故方々の類本をからふしてあつめ此物語をあらあら心得たる人に校合をあつらへしむ然といへとも東光院殿の御物語に世の中の諺にしとけなきといふ事は惣別の物の本を書写して後四度見あはせされはおさく見おとしあるによりて綿密ならざる事をしとけなしといふなりしとけなしとは文字にも四度校合なしと云々此本の校合いかに念をいれたりと思ふとも二返までもなければ定て烏焉等の違目はなとかなくてはんへらさらん又万の物の本は後の人を導かんかためにいつれも先達の心をつくして書たまへる事なれば何の本を見るときもそれくの作者へ報恩謝徳の回向をして見らるべきものなり依て爰にしるし侍る／承応元年十二月吉日／長頭磨(刷り墨印)。刊記なし。

○印記、なし。

(冠注) 大和物語 版本 一帙三冊

VII 2 Da 1009

○嘉永六年奥書。白紙に格子地と鶴亀丸の散らし文様の空押しを表紙。五針袋綴装。縦二六・二糎×横一八・三糎。無郭。上冊五七丁、中冊四〇丁、下冊四二丁。料紙、楮紙。

○外題、原題簽、表紙左肩の浅葱色の題簽紙に「冠注大和物語 上(中/下)」。内題、第一冊表紙見返し、赤紙に「井上文雄著/冠注大和物語/考槃莊藏梓(朱印)」。尾題、なし。版心、丁付のみ。第一冊「序一〜序四、一〜五十三」、第二冊「五十四〜九十三」、第三冊「九十四〜百三十五」。

○序、「嘉永六年五月五日 井上文雄」。奥書、「校合/加藤千浪/草野御牧/横山由清/伊能頼則/嘉永六年五月」。刊記、「書肆/日本橋通一丁目/須原屋茂兵衛/同二丁目/山城屋佐兵衛/芝三島町/和泉屋市兵衛/南傳馬町一丁目/近江屋半七/大傳馬町/袋屋龜二郎/通油町/藤岡屋慶二郎」。

○印記、正方陽刻朱印「松平確堂藏書」。松平齋民旧藏書。

